

# 世界の山旅

## 辺境の旅

「一人では行けない、でも、行きたい。」  
それにお応えするのが  
実体験に基づいた  
アルパインツアーの旅づくりです。

総合ツアーカタログをご請求ください。

ブナの原生林と氷河のマウントクック山麓を歩く ニュージーランド唯一のスカイライン・トレッキング ニュージーランドの2大人気コースを多く決定版!

**ミルフォード・トラックとマウントクック 10日間**

大阪・名古屋・福岡  
●11/15発 ..... ¥468,000  
●1/5発 ..... ¥488,000  
●1/25 ●2/14 ●3/14発 ..... ¥488,000

**ルートバーン・トラックとマウントクック 9日間**

大阪・名古屋・福岡  
●11/30発 ..... ¥428,000  
●12/17 ●1/4発 ..... ¥458,000  
●2/17 ●3/11発 ..... ¥438,000

**ミルフォード&ルートバーントラックとマウントクック 15日間**

大阪・名古屋・福岡  
●1/24 ●2/27 ●3/20発 ..... ¥608,000

エベレスト山群まった中の展望地タンポチェへ

**エベレスト・パノラマトレッキング 12日間**

大阪  
●11/9 ●12/14発 ..... ¥320,000  
●12/28発 ..... ¥458,000  
●2/22 ●3/18 ●3/15発 ..... ¥320,000

アンナプルナとダウラギリを眺める展望コース!

**アンナプルナ・ダウラギリパノラマ・トレッキング 9日間**

大阪・名古屋・東京・福岡  
●11/15 ●12/20発 ..... ¥298,000  
●2/7 ●2/25 ●3/7発 ..... ¥298,000

往復ヘリ利用!世界で最も美しい谷のひとつへ

**ロッジ滞在で楽しむランタン・ヘリ・トレッキング 10日間**

大阪・名古屋・東京・福岡  
●11/3 ●11/17発 ..... ¥345,000  
●12/28発 ..... ¥432,000  
●3/9 ●3/16発 ..... ¥345,000

デント・山小屋でバイネ山群のふところへ

**バイネ山群トレッキング 13日間**

大阪・東京  
●11/9発 ..... ¥640,000  
●12/25発 ..... ¥698,000  
●1/31 ●3/9発 ..... ¥620,000

氷河と岩峰。アルゼンチン・パタゴニアの大自然へ

**フィッツロイ山群トレッキングと氷河ミニハイキング 11日間**

大阪・東京  
●11/17 ●1/27 ●3/2発 ..... ¥566,000  
●12/31発 ..... ¥623,000

南米大陸最高峰の大展望と憧れの5,000m峰登頂

**アコンカグア南壁トレッキングとチリ・アンデス5000m峰登頂 11日間**

大阪・東京  
●12/30発 ..... ¥562,000  
●2/2発 ..... ¥516,000

南アフリカで最も美しい世界遺産と南部アフリカ

**ケープ・フローラル・キングダムハイキングとテーブルマウンテン縦走 9日間**

大阪・名古屋・東京・福岡  
●11/19 ●2/11発 ..... ¥398,000  
●12/25 ●4/29発 ..... ¥488,000  
●1/7 ●3/11 ●3/25発 ..... ¥428,000

快適なKLMオランダ航空でアフリカ最高峰に挑む

**キリマンジャロゆったり登頂とサファリ 11日間**

大阪・東京  
●12/10 ●1/12 ●2/9発 ..... ¥556,000  
●12/30発 ..... ¥586,000

世界遺産・往復とも面行便で行く

**Mt. キナバル登頂とネイチャークルーズ 6日間**

大阪  
●11/22発 ..... ¥165,000

アルパインツアーのホームページをご覧ください。 <http://www.alpine-tour.com>

ALPINE TOUR SERVICE 株式会社

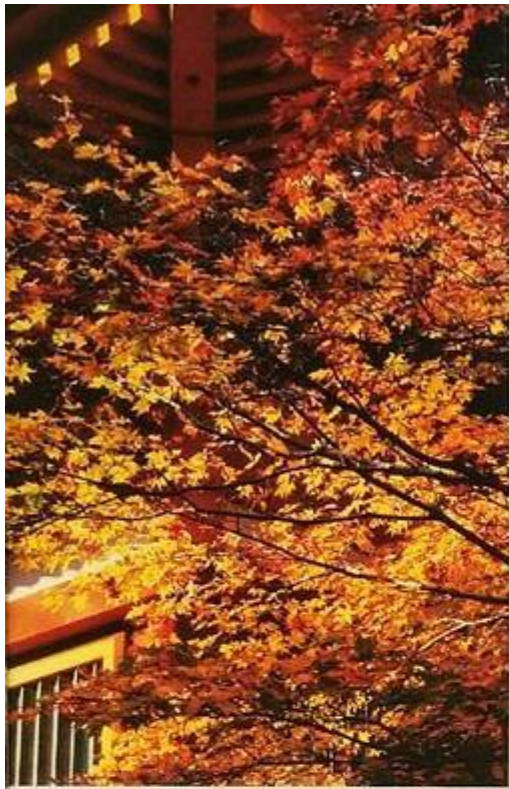
〒550-0003 大阪市西区京町堀1-4-3 TCF記後橋ビル2F  
東京/☎03(3503)1911 大阪/☎06(6444)3033  
名古屋/☎052(581)3211 福岡/☎092(715)1557  
札幌/☎011(711)7106 仙台/☎022(265)4611(転送)  
(関)りんゆう観光 広島/☎082(542)1660(転送)  
e-mail:osaka@alpine-tour.com

山仲間でオリジナルツアーを企画してみませんか。

山岳会、ハイキングクラブで企画  
ツアーリーダーも同行し、安心の山旅  
山岳会、ハイキングクラブなどで海外トレッキングやハイキングを企画したい、いつもの山仲間で海外の山歩きをしてみたい、というような場合には、アルパインツアーからツアーリーダーが同行し、ご案内をいたします。旅行プランについては、経験豊富なスタッフにご相談下さい。

出張説明会 山の仲間がお集まりのときに、当社社員が海外トレッキングのライドを上映します。

三嶺(四国・剣山地) 松田 敏男



社殿（照葉）

昼と夜の寒暖差が大きくなると  
自然の衣替え 冬支度が始まる  
紅葉 黄葉 褐葉

万葉の秋の色は黄色 黄葉

明日香川黄葉流る

葛城の山の木の葉は今し散るらし

平安になると紅く色づくカエデ

嵐山の大堰川に舟を浮かべ

紅葉狩りを楽しんだ

小倉山嵐の風の寒ければ

もみぢの錦きぬ人ぞなき

「朽葉色」の名が残る

葉が朽ちて土に還ろうとしている

褐色ぎみの黄橙色

汚れなく美しい色と愛でした

紅葉のなかの十三重塔



Photo essay



詩

題字 中田 蘭石  
撮影 由井 収  
文 松永 恵一

談山神社（秋色）





オヤマリンドウ

# 季節の



小入谷

古民家



# 実景

朽木 (小入谷)

晩秋

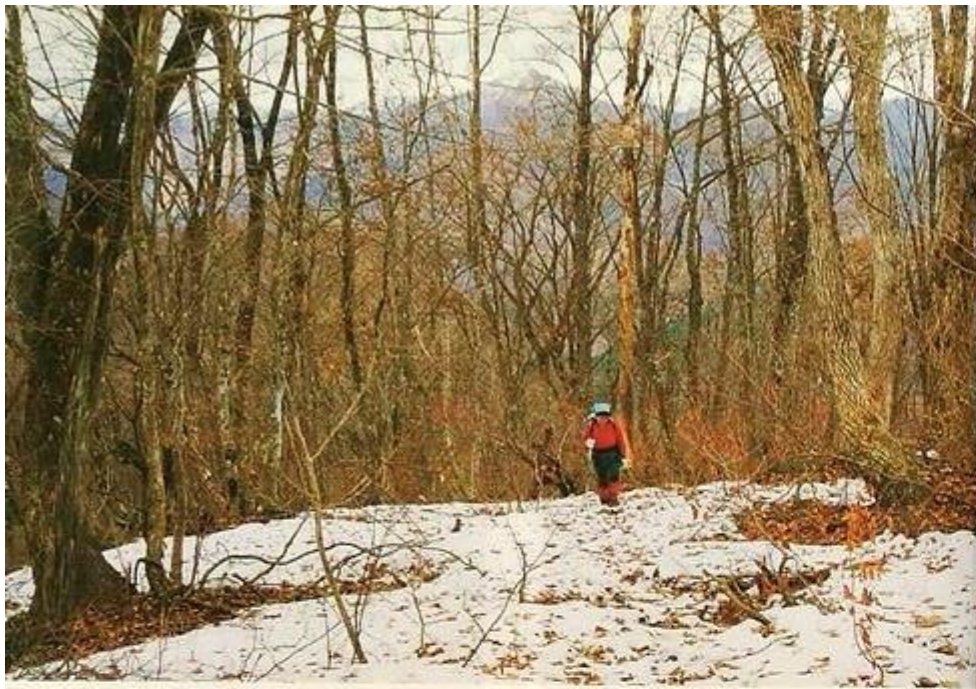
撮影 武市通治



紅葉

夜明け





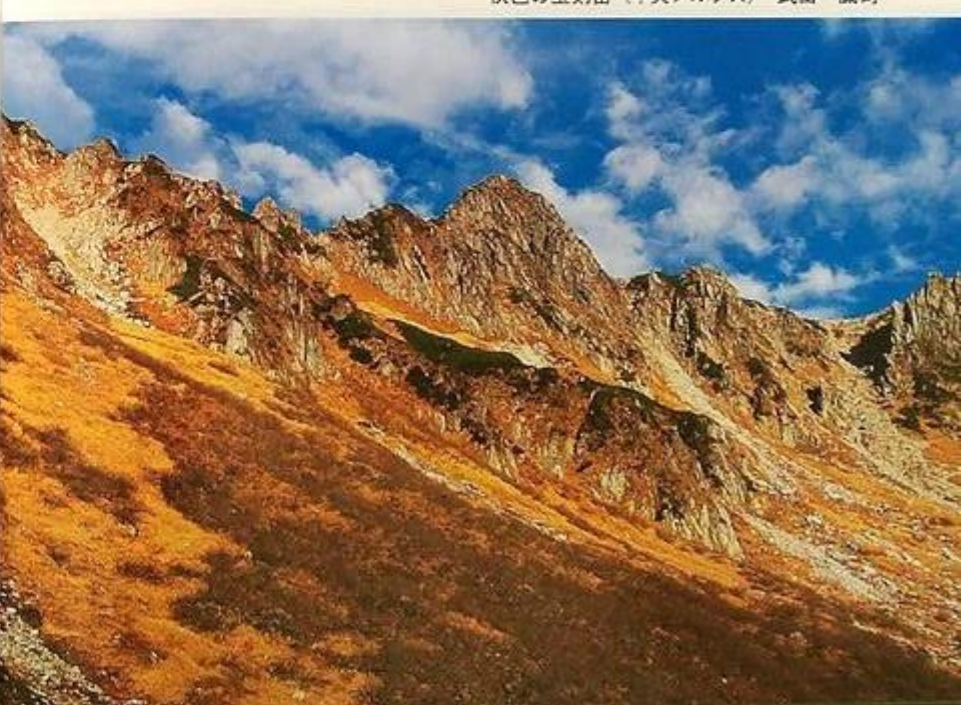
冬枯れの高尾山に行く（奥美濃） 一芝 義雄



穂高連峰の新雪（北アルプス） 中川 光郎

夕映のススキ（曾根高原） 高岡 富美子

秋色の宝剣岳（中央アルプス） 武田 誠司







随想 (山のエッセイ)

克

アルプスは、トア(石塔)が林立し、地表面には白い砂礫が続きます。空木岳から南駒ヶ岳の間はことに見事で、そんな景観を楽しんでいるうちに、思いがけず条線土を見つめました。条線土は三ヶ所あったのですが、二ヶ所目のものがとりわけ印象的でした。斜面に流れるような条線の真ん中に人頭大の岩を配置し、その傍らにはアケセントのごとく数株のクモスマシレが黄色の花を咲かせていました。自然の造形にしては、あまりにも芸術的で、京都古寺の石庭を想起させるほどでした。これほど美しい条線土は、初めてでした。まさに「神の描いた幾何学模様」に違いないと思えたのです。

これまで「十二支の山」というものをよく耳にし、山名にその年の干支を冠する山に登る人も多いと聞きます。山に入って植物を見るのが楽しみな私は、「十二支の植物」なるものを探してみました。

子Ⅱ山でよく見かけるのは、ネズミモチ。成木に多数実る赤い実がきれいです。湖南の低山では、ネズミサシ(ネズ)によく出会います。ワコルグーの名で入浴剤にも使われ、芳香があります。庭木に用いられ、杜松とも呼ばれます。

丑Ⅱウシハコベ・ウシタキノウ等があります。ウシコロンは、83号での田中さんご紹介通り、カマツカの別名。ウシブドウは、藤本植物マップサの別名。ウシ

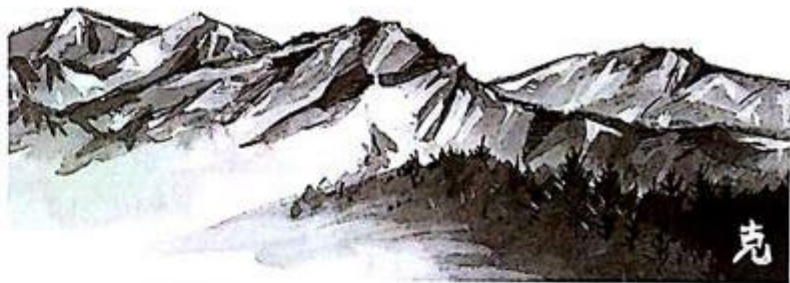
「十二支の植物」

藪木 伸人

カバは、クロソヨゴの別名です。寅Ⅱ何といっても印象深い花は、伊吹山のルリトラノオでした。オカトラノオは諸処にありますが、これも可憐な花ですね。私は未見ですが、トラキチランは、発見者の人名が、その名の由来だとか。

卯Ⅱ長野県側から乗鞍岳に登った時に見たウサギギクは、とても鮮烈でした。ウサギの名をもつ植物は、他に思い当たりませんが、夏の到来を告げるウツギの別名が、「卯の花」でした。旧暦の卯月に咲くのですね。雪花菜の別名でもあります。

辰Ⅱわが古里の山、堀坂山にも咲くリュウノウギク。花もさることながら、私は葉をちぎってその芳香を吸ぐのが好きです。そしてキンリョウソウ。台高山系で見た透明な鱗片葉は、本当に造化の妙を感じさせてくれました。



克

神の描いた  
幾何学模様

鷺見 守康

今夏も新ハイ例会山行として、7月に中央アルプスと北アルプス、8月には南アルプスを歩きました。アルプスのような高山には、低山にはない魅力があり、日常の暮らしのなかでおいそれとは得られない感動が味わえると考えています。

要素の一つに、高山の独特な美しさを演出する地形があります。現在、わが国の山岳に氷河は存在しませんが、大昔に存在した「遺跡」としてのカール・モレーンが見られ、それらは雪田や雪渓とあいまって、壮麗な景観をつくり出しているのです。

さらに、心ひかれるものに、周水河地形があります。周水河

地形は、氷河気候周辺の寒冷地に特有のもですが、わが国の高山に見られる周水河地形には、構造土というものがあります。構造土は、大小様々な砂礫がある種の規則性をもって並んでいる状態をいい、小石と少し大きな石とが平行に走っている条線土や、サークル状に集まって角の甲状模様になっている多角形土、さらには斜面に階段がつくられたかのような階状土などがあります。

こうした地形がつくられる原因は、砂礫質の表土が凍結と融解を繰り返したり、斜面上を重力の作用でゆっくり移動したりしていくうちに、粗いものと細かいものがふるい分けられて出来ると考えられています。そのメカニズムははっきりとは解明されていないようです。

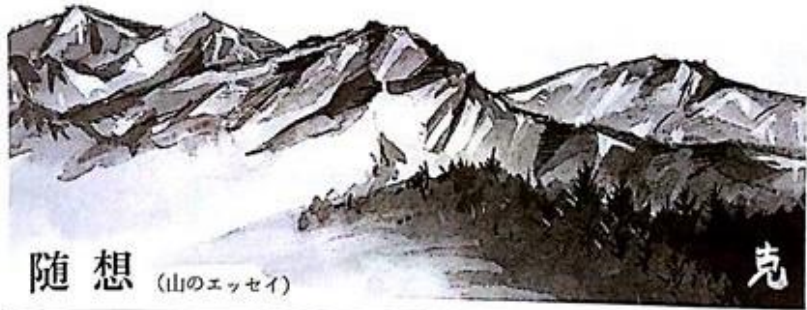
1999年の夏、自然観察会の仲間と構造土と高山蝶を求め北アルプスの双六岳に登りま

した。広い頂上部は砂礫の台地で、構造土はあちこちにあるように思えるのですが、ガスで見通しがきかず、なかなか見つかりませんでした。やっと一筋にのびた鮮やかな条線土を発見したときには、歓喜のあまり小躍りしたものでした。

それ以来、構造土の存在は、私にとってアルプスを歩く大きな楽しみの一つとなったのです。

2003年の夏には、地元のハイキングクラブで草津白根山を歩きました。予備知識もなく、鏡池の水面下に夥しい石のサークルを見つけたときには、一瞬、何が何だかわかりませんでした。文字通り、地面に出来た不可思議な幾何学模様でしたが、これがわが国でもその完成度の高さで一、二を争う多角形土だったのです。

そして、今夏の中央アルプス北部縦走。花崗岩の山脈の中央



随想 (山のエッセイ)

克

巴 Ⅱ私の好きな鮮黄色の花、ジャケツイバラ。小さな花ですが、オオバジャノヒゲ・ヒロハヘビノボラズもあります。さらに、シロバナノヘビイチゴ等が、山で目に留まる花々でしょう。

午 Ⅱ甲斐駒ヶ岳で発見されたコマイワヤナギ、木曾駒ヶ岳で発見されたコマガタケスグリ、葎科のキバナノコマノツメ、それにコマクサが高山の花なら、割合身近には、コマツナギ・ウマノアシガタ(金鳳花)があります。後者の花の金属光沢が、春の陽光を反射する様が好きです。

未 Ⅱこれには困りました。その名もヒツジグサ(睡蓮科)は、なかなか見られませんし。ギシギシ(羊蹄)の仲間が多いですが、ここは花の美麗さで、イカリソウ(淫羊藿)を代表として挙げておくことにしましょう。申 Ⅱやぶ漕ぎをすると決まっ

てサルトリイバラには難儀します。しかし、花は可愛く、鈴成りの実も素敵です。サルナンは一度味わってみたいですし、サルメンエビネも未見です。エンコウカエデは秋山を黄色く彩ります。私の住む三重では、ヒメシヤラのことを、方言でサルスベリと呼びます。

酉 Ⅱすぐ思い浮かぶのはケイトウですが、山の花では、チャボツメレンゲ・チャボホトトギス、七洞岳で見たケイビラン等です。

戌 Ⅱこれは枚挙にいとまがありません。イヌシデ・イヌガヤ・イヌザクラ・イヌガシ・イヌマキ・イヌエンジュ(日本固有種)・イヌグス(タブノキの別名)・イヌビワ・イヌショウマ・ナンブイヌナズナ等々。御池岳への道で見たイヌブナの新葉展開は印象的でした。

亥 Ⅱ果期には次に劣らず困り者となるイノコズチがおなじみ

です。しかし、夏に壮麗な花を傘のように開くシシウドを、代

表格としましょう。さて、今回は、「干支」をテーマに雑文を綴ってみました。植物名の由来や方言名を調べることは、実物を目にした時に、より一層の感慨を呼び起こすものであると信じています。会員の皆様からも、今後また、ご教示願えれば幸いに存じます。

年末の佐世保・長崎の山旅

鳥帽子岳・金比羅山・稲佐山・八郎岳

中島仁志

西九州

年末は長崎市内の山旅と言うと、わざわざ関東から標高600以上の低山を?と怪訝な顔をされた。前日は関西の知人に曾爾の兜岳・鐘岳を案内していただき、京都駅からのムーンライト九州で西に向かった。

鳥帽子岳(568ft)

小倉、鳥栖と乗り継ぎ、車中から天山・御船山・黒髪山を望みながら佐世保に近づくと、右手にこの日に登る船型の鳥帽子岳(別名佐世保富士)が現れた。列車の到着が長崎より佐世保のほうが1時間少々早いので、初日は佐世保の山にしたのである。

まずは佐世保駅のロッカーに重荷を入

れ、国道を北に進んで松浦鉄道を沿り、

右折して中央公園の横を通るとその先に

鳥帽子岳へ8.5kmの道路標識がある。山手

町から山に向かってジグザグに高度を上

げると、段々畑や水仙を前面にして海と

複雑な入江が存分に眺められる。所どころにバス停があり、行き先の一つが鳥帽子

岳、間もなくそのバスが来たので乗り

込む。乗客は周回の集落の人たちで、途

中で次々と下車し、早々と乗客は私1人

になった。バスは鳥帽子岳北側から東を

廻り南側に出る。終点付近は牧場風の広

場で、冬枯れのカヤが広がる。山頂へは

階段状の明瞭な登路があり、程なく適度

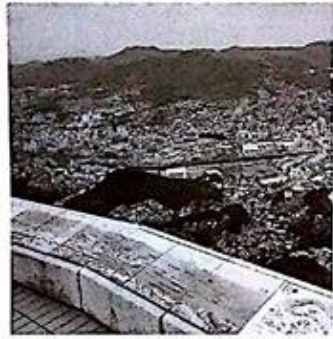
鳥帽子岳山頂付近から佐世保の海



に岩の散らばる山頂に着いた。

山頂は四方に開け、とくに西側は佐世保の海と島のあるす見事な眺め。遠望の山や島は不確かでも、県境などの山はよく眺められる。心地よい山頂に乾杯し、遅い昼食とした。

この頂からの展望を曲にしたのが、1900年頃にできた「美しき天然」で、作曲の田中穂積は当時の佐世保の鎮守府



稲佐山展望台から金比羅山と長崎の街

の一角だった。  
山頂の展望は広い。東には烽火山・帆場岳。南には八郎岳と長崎の海。西には長崎の街をほとんど鉄塔の立つ稲佐山とその右に岩屋山。展望図には雲仙や多良も描かれてあり、それらしき山々がかすんで見えた。  
山頂から照葉樹の稜線を北にくだと20分弱で分岐になり、左の高尾町コースをとる。樹林を抜け、町はずれの高台をくだる。道なりに進めば浦上天主堂で、ちょっと見学した。

この日の午後は、街をはさんで金比羅山と対峙する稲佐山と決め、通り道に近い平和公園内を散策し、平和折像と金



金比羅山・稲佐山・八郎岳付近略図

比羅山を写真に収め、「長崎の鐘」を口ずさんだ。  
さて稲佐山だが、2万5千図でも山頂への顕著な道は二本の車道とロープウェイのみである。とりあえずは浦上川を越えて南に進み、「稲佐山公園4・4」の標識に従って右に広い車道に入る。車道をたどるのもしやうだが、見方によっては安全なルートであり、スニーカーでよかったとつくづく感じた。  
西に向けて少しずつ高度を上げると展望が開け、先刻登った金比羅山と形のよ

い岩屋山がよく見える。道路筋には思いがけぬ立派なスパーやマンションが建っていて、住宅化が進んでいることがわかる。山の方に細道らしきものが数本あったが、道標などないのでそのまま車道を進む。後でYHで聞くと、昔はいくつか登路があったがほぼ廃道化したとのこと。稲佐山駐車場への分岐点を左に折れ、前方に建物が近づくと同様に稲佐山公園に着いた。  
ここからミニケーブルの下を通る遊歩道を進み、ケーブル駅の橋を抜けると、



軍突隊長であった。平日の静かな山頂でこれを歌った。  
下山は反対方向に、樹林の下を木段でくだっていき、左に広場への道を分けて直進すると、舗装路に出て右の広地にNHKの受信棟が立つ。山道もあるが、遠廻りでも展望のよい舗装路をたどった。住宅が現れると木風町の一角。国道に出て北に行けば、左にJRの高架線が平行

に走り、駅は近い。  
長崎に向かう展望列車からは、右は長崎の海、左はいろいろな山が現れて楽しい。大村を通る頃に左手に5年ほど前に訪れた多良岳方面、諫早あたりからの雲仙は中腹から上は雲のなかでシルエットだった。  
長崎の宿はこちゃんまりとしたYHで宿泊者は10人程度であった。

金比羅山(366m)・稲佐山(366m)  
今回の山旅の目的は、長崎の山を二山以上歩くことである。名山派には雲仙と多良ぐらいいしか名が出ない興だろうし、数年前の私もそうだった。しかし長崎を調べまた地図を見るといろいろある。街そのものが標高400m前後の山に囲まれているのである。

第2日目は、まずは街のすぐ東にある金比羅山から。軽荷でYHを出て、道伝いに尋ねながら、諏訪神社、立山公園と舗装路を行く。なるほど坂の街で、少しずつ街や海の眺めが広がる。長崎に来てからの靴はスニーカー。山靴は重くて舗装路が多ければ底を壊すので、安全そうでも好ましくない。

金比羅山山頂



このような山では、取り付きを探すのに苦戦することがしばしばある。長崎東高校の先では、人家が散在するあたりから小山を左に廻る轍の入った広い道で、樹林はスグジイ・アカガシ等の照葉樹である。

こちゃんまりしてよく掃き清められた金比羅神社の境内を通り抜けると、急にカヤの原になる。すぐ照葉樹林の登りになるも少しづつ開け、鳥居が現れると頂上





八郎岳山頂より長崎の海と低山

グラバー園付近から海を眺めて感激したが、三山頂からの眺めに比べれば感激はずっと少なく、小休止後立ち去った。あとは適当にさまよいながらまずまずの時間に長崎駅に着いた。  
鳥栖に向かう列車からは、山景色を大いに楽しんだ。右手の雲仙は上部を雲に覆われていたが、左の多良連山は少しずつ姿を変えながらずっと望めた。鳥栖駅乗り換えで、博多駅から夜行列車に乗り、京都に向かった。

▲参考タイム▼  
【26】27日 京都駅 21・33 (ムーンライ  
ト九州) 小倉駅 6・01 (電車) 鳥栖  
駅 8・29 (電車) 肥前山口駅 9・34  
37 (電車) 佐世保駅 10・58 (バス停 12・  
10 (バス) 鳥帽子岳バス停 12・30 鳥帽  
子岳 12・40 13・10 木風町バス停 13・  
55 佐世保駅 14・40 15・22 (電車) 長  
崎駅 17・05 長崎あびす YH (泊)  
【28日】長崎あびす YH 8・20 長崎東  
高校 9・00 金比羅神社 9・40 金比羅  
山 10・00 10・30 浦上天主堂 11・15 13  
(昼食・平和公園経由) 稲佐山公園 4・  
4 標識 13・10 稲佐山公園 14・25 三  
角点 14・35 稲佐山展望台 14・45 15・  
05 長崎駅 16・10 (市電利用でオラン  
ダ坂等散策) 長崎あびす YH (泊)

【29日】長崎駅前 8・40 (バス) 平山 9・  
05 (10分寄り道) 八郎岳 10・35 15 1  
小八郎岳 11・20 乙女峠 11・35 15 1  
山 12・35 (バス) グラバー園入口 グラ  
バー園 大浦天主堂 オランダ坂 崇福  
寺 眼鏡橋 長崎駅 15・36 (電車) 鳥栖  
駅 18・44 19・52 (電車) 博多駅 20・27  
54 (ムーンライト九州)  
【30日】京都駅 7・30 (音羽山登山) 山  
科駅 12・10 (電車) 東京駅 21・30  
▲交通費等 京都起点  
青春 18きっぷ 4日分 9200円  
ムーンライト九州 (往復) 10200円  
佐世保バス (鳥帽子岳) 3600円  
長崎市電 1000円  
長崎駅 (バス) 平山 3000円  
平山 (バス) グラバー園入口 2700円  
長崎あびす YH (1泊2食) 45000円  
(会員料金、会員外は10000円増)  
▲地形図▼  
2万5千 佐世保北部・蔵宿・早岐・佐  
世保南部 (鳥帽子岳、ただしこの山は2万5  
千図・5万図ともに四図の中央に位置し、あ  
まり有用ではない)・長崎東北部 (金比羅  
山)・長崎西北部 (稲佐山)・長崎南西  
部・千々 (八郎岳)

前方の大ドームは市街地を見下ろす大展望台。本来の山頂たる三角点は途中にひっそりとして行く。展望台からは周囲の景色がすばらしく、俗化したとはいえ、長崎の街と外海を見下ろす絶好の地である。  
下山コースは街にくだるもう一本内側の車道をくだる。15分ほど進むと、左手にコンクリート階段の下山路が現れたので、車道よりはまじだとかだが、展望は全くなくおもしろさもない。くだり切った所は淵町の斎場で、住宅を抜けると浦上川に沿った車道になる。淵神社とケール登山口への車道を見送り、浦上川の橋を渡って長崎駅前に出た。  
西日本の日没の運さが長崎の見所への浮気心を催させる。ほんの少し市電に乗り、歌に出てくるオランダ坂を訪れた。この街はよくもこれだけたくさん石畳があるものと感心する。夕暮れが迫る頃、孔子廟・興福寺の横や眼鏡橋など、町中の道を歩いてY日に戻った。

### 八郎岳 (590m)

長崎最終日は南部にある市の最高峰八郎岳。駅付近から博多行きバスに乗る。

平山で下車し、左に少し行くと墓地で、道標があるが矢印は真横を向いている。悪いことに左折するロードがあり、これを5分ほどたどった所で人が来たので聞くと、墓の横をゆるぎ登って行くのがコースとのこと。戻ってそのとおり進むとすぐに山道になったが、道標の矢印が少し左上を向いていると思う。ガイドブックの記載も不明瞭、2万5千図には平山から八郎岳への点線も無い。

登山道は明瞭で、すぐに尾根に出て登るのだが、照葉樹林で展望はきかず単調このうえない。海に近く標高の低い暖かい地方の樹相のようだ。40分も登ると樹相は杉から榎林になるが、こちらのほうがすっきりしている。単調な登りも、少しずつ樹高が低くなり、頂上近しをうかがわせる。ヒョイとカヤが現れるとすぐ頂上だった。  
山頂の展望はすばらしい。長崎の複雑な入江、昨日歩いた金比羅山と稲佐山・岩屋山などが、長崎の街を囲うように並んでいる。

小八郎岳に向かうが、山頂の道標が不可解、南にある小八郎岳へは北を指しており、北にある熊ヶ峰が東に向いている。

道標に従って北にくだり、右に道標を見送ると幅広い道に合流して道標もあった。コースは八郎岳東面を廻るようには捲いている。鞍部に出て少し登り返すと、背後にゆったりとした八郎岳の姿が広がる。山腹は全くの黒木。道すがら椿の花を見て、登り着いた小八郎岳も速度に開けた好ましいピーク。南に乙女峠から寺岳方面への山並とその左には有明海が望めた。

小八郎岳からは、カヤのなかに低いマツ・ツツジなどがある明るい稜線で、乙女峠の南に寺岳の鋭峰が高くなる。カヤが開けてくると左に舗装された道が現れ、その鞍部がカヤの豊かな乙女峠である。小休止後、西に平山への下山路をとる。やや急な下りで沢に出ると、しばらく斜面を廻るよう進む。長々とした石畳の横を通り、その先で舗装路に出れば明瞭な道標がある。振り返ると、咲き残りのサルビアの赤い花の上に八郎岳などの山並が見事だった。

帰路はバスをグラバー園入口で下車し、観光地を散策した。グラバー園・大浦天主堂は37年前の長崎初訪問の時に来たが、天主堂の建物だけが記憶にある。当時は

## ツボクリ谷東方尾根登高

# 皆子山新コース

## 小山誠次

### 京都北山

平成16年12月11日の降水確率は京都府南部で午前10%、午後10%、滋賀県南部はいずれも0%だった。ただし、京都府中・南部では濃霧注意報が発令されている。

本日は比良山系を離れて久し振りに皆子山に登るため、出町柳駅から7時45分発朽木村行き京都バスに乗車した。朽木村という表現も、米年(平成17年)1月1日から高島市の誕生に伴って、後わずかの行政上の呼称となってしまう。はなはだ名残惜しい。

バスは定刻に発車した。さすがにこの時期ともなれば登山客もわずかで、座席の半分以上が空席である。走行中、宝ヶ

池あたりから霧がかかってきて、比叡山は全く視認できない。先行きが案じられるなか、途中付近での車窓からは野生の猿が畑を荒らしている風景に目を留めた。

降水確率0%に反して、細かな霧雨も降ってきたので、ますます不安になってきたとき、バスは1分遅れの8時36分足尾谷橋に到着した。バス停は牛の鼻トンネルと行者山トンネルの間で後者近くにあり、行者山トンネルを降り、坂下トンネルの手前で左折して旧国道を進むことになる。江若バスなら坂下で降りる。

坂下トンネル入口の少し西側の山の腹で、おそらく今年生まれたと思われる

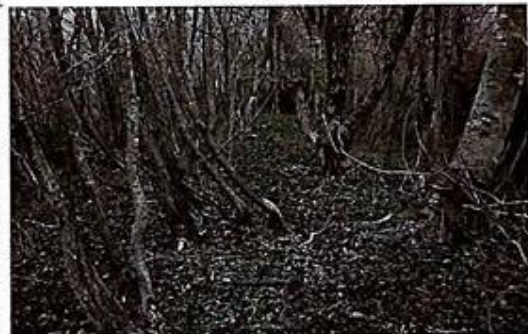
という旨の内容表示である。地面は濡れているが、谷沿いの道を歩き始めた頃は幸いにも霧雨は止んでいる。ちょっと大きな樹木の下は地面も乾燥している、明け方からでも降っていたのであろうか。

足尾谷コースは、6分後初めて右岸に渡り、さらに4分後再び左岸に渡った所で、関西電力備高島制御所中村発電所に

到着した。そのまま先に進み、右岸を歩いていると、左手から小さな支谷が流れ込んでいる。昔、筆者が初めて本コースを単独で歩いていたとき、この支谷沿いにも道が続いていたので、間違ってもこの支谷に踏み入ったことがある。支谷左岸沿いに立派な山道がドンドン続いていた。相当登高した所で、いったいいつになったらKR

AC声火小屋に到着するのだろうか、ふと疑問を抱いた。それでもなお山道が続いているが、どうも様子がおかしいと感じて、往復1時間位無駄にしたことがあった。今だったら磁石ですぐ方向が違うと判断するところであろう。

(写真1) ツボクリ谷東方尾根



猪の子が二匹、こちらに関心を示すこともなく動き回っている。親がすぐ近くで様子を覗き回っているはずなので、そのまま離れてくれたのが幸いだった。

さて、足尾谷(旧国道足尾谷橋)に出合い、準備を整えて谷沿いの道をたどる。入口には、「入山禁止」の標識が立っている。ただし、造林公社の森林防火作業に伴っての事故では一切責任を負わない

あるいは、その支谷の山道沿いから支尾根にたどり着き、そこから強引に皆子山を目指すかもしれない。

昔の記憶を呼び戻して10分後、KRAC声火小屋の直上を通過した。空は曇天のままだが、降ってこないだけで幸いである。また、谷筋なのでほとんど風も感じない。濡れた岩で転倒しないように慎重に歩を進めるだけに集中した。

さて、KRAC声火小屋から歩いて13分後、もうすぐツボクリ谷分岐に着くだろうと右岸をたどっていたところ、新しい仕事道に出合った。最初は岸にまで迫っている岩塊を迂回するためだけの新道かとも思ったが、ドンドン山腹を登高して行く。上方を眺めると、この北側斜面の杉の植林帯に鹿の皮剥き防止対策が嚴重に施されている。どうもこのまま山頂、即ちツボクリ谷東方尾根の北端にまで通じていそうなので、山腹のジグザグ道をたどった。この道はなかなか登り応えがある。

道はいかにも新しく設けられたよう、段差の手入れ、道積の伐採、道を覆う障害物の除去等々、非常に行き届いている。ただし、全くマーキングはないものの、



AC声火小屋に到着するのだろうか、ふと疑問を抱いた。それでもなお山道が続いているが、どうも様子がおかしいと感じて、往復1時間位無駄にしたことがあった。今だったら磁石ですぐ方向が違うと判断するところであろう。

一本道である。

山頂近くになってようやくやや平坦な道に達した頃、もう一本の仕事道が左手より合流している。手入れの行き届いた道はおもも尾根筋をたどっているが、途中で赤テープのマーキングが出現した。我々の感覚では山道表示と判断するが、どうもそうではないようで、全く周囲に道の無いような木にも赤テープがくくり付けてある。そういえば、この仕事道の途中で、植林の杉の根元に一〇〇〇とか一〇〇〇とか書いた細い木が差し込んであった。植林の本数表示か。すると、赤テープも仕事上のものではあろう。

仕事道は途中で左下方に一本分岐した後、尾根沿いの途中で突然終わっている。そして、植林帯もそこまでである。ここでちょっと休憩し、向後の方針を検討した。さすがに尾根に立つと、12月の冷風が肌を刺す。

先程から磁石で進行方向を確認して来たが、常に南方向を指し、地図でもツボクリ谷東方尾根のやや南方向には皆子山がデンと腰を据えている。そこで、仕事道は終わったが、これからは正しく尾根上に道をとることとした。要は、このあ

たりからは南方の最も高い山を目指せばいいのである。

幸いにも写真1のごとく、ツボクリ谷東方尾根は広葉樹の疎林帯で、よく見れば何となく踏み跡があるし、造林公社の標柱が尾根上に一定の間隔で打ち込まれている。一方、地図によれば、ツボクリ谷東方尾根の東側のワリ谷上流にはガレ場が記されているが、尾根上からは木々に遮ぎられて全く眺望できない。

尾根上を北よりたどって、小さなコブを越えた所で、前方に落葉した木々の間より皆子山山頂が認められた。ちょうどこの頃より枯れたクマザサが疎らに生えていて、背は高くないものの、今までより歩きづらくなってきた。クマザサは皆子山に近づくにつれてますます背が高くなり、青々とした葉とともに密度も増してきた。両手で漕ぎ分けるようにして進むと、突然ツボクリ谷道に飛び出した。といっても、山頂(写真2)から5分手前の地点であった。

現在10時45分、当初の予想を上回る到達時刻である。旧国道足尾谷橋から皆子山まで1時間55分、休憩時間を除くと1時間44分しか経っていない。各種の地図



(写真2) 皆子山山頂

や案内書によれば、旧国道足尾谷橋からツボクリ谷を経て皆子山に到る時間は、2時間20分〜3時間位だから、今回の仕事道を利用したツボクリ谷東方尾根コースは、到達時間を大幅に短縮できる。

コースとしては、ツボクリ谷合合から皆子山山頂までの胸突き八丁の代りに足尾谷からのジグザグの仕事道を、また、ツボクリ谷の代りに同東方尾根を当てる

10月16日改正として、13時45分に朽木学校行きの便がある。従来は夏期だけのバスだったはずである。

急いで江若バスに電話し、終点での安曇川駅行きの連絡バスがあるかどうかを確認すると、17分待ちとのことである。

そこで、大廻りにはなったが、朽木經由で15時5分安曇川駅に到着した。急ぎ、駅近くの川魚店で鮎寿司を買い求め、15時20分発の新快速で京都に戻った。お土産もたくさんできた。

本日のツボクリ谷東方尾根コースは、皆子山登山の新コースとして価値あるものと思われる。ただし、仕事の邪魔にならないようにしたい。

(平成16年12月11日歩く)

#### ▲コースタイム▼

足尾谷橋バス停(10分) 旧国道足尾谷橋(30分) KRA C 芦火小屋(13分) 仕事道合合(37分) 仕事道終点(26分) 皆子山(19分) 大岩(21分) 寺谷橋道分岐(32分) 寺谷合合(9分) 対岸へ渡渉(26分) 平バス停

#### △地図▼

山と溪谷社「比良・北山東部」



(写真3) 橋が架かっている寺谷合合

考えると理解しやすい。つまり、谷筋を行くか尾根筋を行くか、後できつい思いをするか先にするかの相違であるが、所要時間には大差がある。

さて、昼食タイムには早過ぎるし、山頂で小休止していると、小雨が降ってきた。そこで、このまま寺谷道をたどって下山することとした。10分間の休憩であった。小雨なので雨具のゴアテックスはお

おげさすぎるかと思ひ、ウィンドパーカを再着用し、ザックカバーを掛けて寺谷をくだって行った。

大岩の側を通り、寺谷道の沢道と摺道との分岐を示す兵庫登山会の大変親切な案内板を横目におもも下降する。

12時15分寺谷合合着。しかし、橋が無い! 後で聞いた話では、先の台風23号で流されてしまったとのこと、急ぎ新造の木橋も山側の岸に打ち上げられたままである(写真3)。

渡渉するしかないと考えていたとき、対岸を滋賀県と書いた車が数台連なって通過して行く。「何とかしてくれ!」と叫んでも届かないので、浅瀬を選んで一步一步を踏み出した。幸いにも膝までの深さだったので、対岸に渡って靴を履き直したが、12月の水は冷たかった。

ここから約30分間で平バス停着。現在は12時50分。堅田駅行きの江若バスは15時59分発なので、時間があまり過ぎる。とりあえず昼食をとり、テントの売店で天然のヤマノイモの掘り出し物を2500円で買い、柿を一袋おまけして買っても時間があまり過ぎる。

改めてバス停の時刻表を見ると、本年

## 新ハイ例会自然観察山行

# 麻布山・前黒法師山と熊伏山

駿河

鷺見守康

麻布山(1685m)は、天竜川支流の戸中川源頭を取り巻く南アルプス前衛の山の一つである。信仰の山として崇められ、山頂には麻布神社の奥宮跡がある。水窪ダム最上流部にかかる戸中橋からのルートもあるが、今回は門桁山広場の登山口から往復した。

前黒法師山(1782m)はいわゆる黒法師三山の一つで、三山の中では標高が一番低くてもっとも登りやすい。今回の参加メンバーの中には寸又峡の前黒法師岳と勘違いした人もあり、地図を眺めて麻布山から黒法師岳を経て前黒法師岳へ行くものと考え、その距離の長さに首をひねっていたという。

熊伏山は、日本山岳会により三百名山に選定されているが、南アルプス深南部に位置するという地域的な事情から、簡単には行きにくい山として考えられているようだ。

### 麻布山から前黒法師山

この年、台風が何回も本土に上陸して記録をつくったが、大雨のためあちこちの山で林道などがスタスタにされていた。

水窪ダムから天竜スノーバー林道の門桁山広場の登山口まで行く道路もダムから先、路肩崩壊による復旧工事のため通行止めであった。バスは急ぎ県道まで戻

麻布山



り、布滝経由で山住神社まで行き、そこから北上し、「野鳥の森」の前を通過して門桁山広場の登山口まで走ったが、1時間ほどのロスタイムであった。登山口にはトイレがあり、見晴らしがいい日は北に中央アルプスを望むことができる。

麻布山への道は、水窪町森林組合により整備されており歩きやすい。けれど、かなり長いダラダラした尾根を歩くこと

になり、帰路にはとても遠く感じられた。1343mのコブを過ぎるとガレ場の急登となり、そこからもけっこう長くて、しかも山が逃げていく感じであった。

麻布山への道は樹木が実にすばらしい。ツガとミズナラの巨木に圧倒され、ブナとヒメシヤラの大木の美しさにうなるばかりだった。繰り返されるそれらの大木に何度も歓声を上げながら歩いた。

ふだん親しむ日本海側のブナ林では、ブナの純林かブナ・ミズナラ林が普通だが、針葉樹のツガや木肌の麗しいヒメシヤラなどが混じるところが太平洋側ブナ林の特徴である。樹木の種類が豊富だから、山歩きにも楽しさが増す。麻布山は、樹

木の素敵な山である、そんな印象を強く抱いた。

登山口から2時間ほどで麻布神社の奥宮跡に到着。そこからさらに進むと三角点のあるピークだ。ここは樹林のなかで見晴らしもなければ開放感もなく、素っ気ない所だ。山頂からもう少し前黒法師山側に進むと、東屋とベンチのある広場があった。食事休憩にふさわしい場所だし、時間もすでに11時近くになっていた。後ろ髪を引かれるものの、食事休憩は前黒法師山に着いてからと決めていた。麻布山から前黒法師山に踏み出すあたりの樹木に「黒法師、表示なし」「これより表示終わり、ご無事で」というプレートが掲げられている。南アルプス深南部山域の雰囲気を感じたが、いささか緊張する所なのだろうが、その割には道がわかりやすいのだ。

踏み跡をたどり、たんたんと進む。ガイドブックには「途中の戸中山はどこかわからない、表示もない」とあった。腕時計の標高表示が前黒法師山の標高と同じになった頃、前方の樹木に掲げられたプレートが目に入ってきた。

「どうも、戸中山にも山名プレートが付けたらようですよ」と説明しながら進んだ。

通過点のようなピークだった。ぼんやりと山名プレートを眺めてびっくりした。何とかが前黒法師山である。「ええーっ」と思わず叫んでしまう。麻布山からの所要時間も30分ほどだった。「もう前黒に到着してしまいました」と伝えると、誰もが「ええーっ」と言って笑う。私は、さらに東の房小山を前黒法師山と思い込んでいたため、かなり意外で、ショックでさえあった。もの足りなくて「もっと先へ行ってみましょうよ」と言う声も上がる。この先、まだ踏み跡は続くようだが、まもなくやぶ道になるだろう。

「帰りましたよ、麻布山の東屋の休憩所でお昼にします」とメンバーを促す。通過点のようなピークでは、昼食休憩をするにも気ががしなかつた。

麻布山は樹林の山なのであまり見晴らしがきかない。木々が葉を落としている季節だから、何とか樹間越しにチラチラとは見えるものの、葉が繁る時期は難しいだろう。それでも、ふだんの山歩きではお目にかかれない南アルプス深南部の





熊伏山山頂

青崩峠からは手摺りの設置された階段状の遊歩道が続く。遊歩道から信州側を見下ろす地点があり、信州側の登山口と思われる場所に、登山者のか乗用車が数台駐車している。当初、熊伏山から下山したのち、バスで兵越峠を越えて信州の遠山郷に立ち寄る予定であった。遠山郷での温泉と食事もこの山脈の楽しみの一つだったのだが、あいにく工事中でバスは進入できなかった。

手摺りが終わるとやがて山道となった。胸を突く急登で、要所にはフィックスロープも設置されている。右には大きく崩壊している斜面があり、青い山肌を見せている。名前の通りの「青崩」である。やせた尾根の急登を40分ほど登ると、崩壊地ノ頭に出た。反射板が建ち、三角点もある小広場になっている。標高は1433m。ここで大休止。展望が開けているので、早速砂原さんに山座同定を依頼した。聖岳が堂々たる存在感を漂わせている。

休憩が終わると、再び急登である。観音山への分岐点が山頂のように見えたが、さらに北方へ登るとわかってがっくり。頂稜部は長く、昨日に続いて山が逃げていく感じ。頂稜線を北の端までつめてやると熊伏山(1653m)山頂だった。

快晴の下、山頂からは南アルプスの眺めがすばらしい。ひととき存在感のある聖岳から北へ、兎岳、中盛丸山、大沢岳、冠雪の赤石岳、荒川中岳、独特な姿の塩見岳、真っ白な間ノ岳、仙塩尾根の後に冠雪の頭を覗かせた北岳、左に大きな仙丈ヶ岳と続いている。聖岳から南へは加加森山、池口岳、中ノ尾根山と続き、昨日は隠れていた黒法師岳が見事な三角形を見せていた。

やせ尾根のルートのせいにか、麻布山と



山々が相手だから、昼食休憩や下山途中には、達人・砂原さんを中心に山座同定に頼じた。

同定できた山は、次の通りである。光石の見える光岳を正面に、左に廻り込んで上河内岳・聖岳の南アルプス、房小山の北へなだらかにのびる稜線の北には、丸盆岳の北稜線(黒法師岳は見えず)から

熊伏山  
登山口までのアプローチで思わぬアクシデントが生じた。バスの運転手が地元の町営バスの運転手から「マイクローならいいが、中型タイプはホイールベースが長いから、進入は無理」との情報をもたらしたと言いつつ、「問題なく進入できる」という私の説得にも頑として耳を貸さそうとしない。結局、予定の「塩の道園地」より手前の「足神社」から旧152号線を20分ほど歩いた。歩いてみれば、誰が考えてもバスの進入は可能なのだから、どうも運転手に聞き違いがあったようだ。

「塩の道園地」からは予定のルートだ。石畳の続く「塩の道」を20分ほど歩いて青崩峠に立った。信州の遠山郷と遠州を結ぶはずだった秋葉街道は、この青崩峠で寸断されている。峠が中央構造線の上であり、崩壊が絶えなためだ。険しく切り立った崖は、クマでさえ近寄らない峻険さで、谷の峰頭を熊伏山と呼ぶようになったのだという。

頭上には見事な青空が広がっている。

**標高1,510m【鳥取・わかさ氷ノ山】**  
中国地方で2番目

登山道からすぐの宿「氷太くん」でたっぷり氷ノ山を満喫してください!

氷ノ山高原の恵  
**氷太くん**  
鳥取県八頭郡若桜町つくよね635-13  
**TEL (0858) 82-1111**  
<http://www.hyounosen.or.jp>

この新ハイキングをご持参の方には資料10%割引!!

比較すると樹木が全体に小ぶりであった。ヒメシャラも若くて細い。代わりに、きれいなシャラノキがあった。

(平成16年11月27日・28日歩く)

▲コースタイム▼

- ▲26日(集合) JR 岐阜駅 23:00 (バス)
- ▲27日(晴れ) (バス・時間調整して走行) 水窪町旅館4:40(朝食休憩) 6:50(バス・通行止めのため1時間程ロスタイム) 天電スーパードルミタ登山口8:30
- 40分 麻布山10:35
- 55分 前黒法師山11:35
- 55分 麻布山12:30(昼食) 13:30
- 登山口15:30(バス) 水窪町旅館16:30(泊)

- (28日 晴れ) 水窪町旅館6:50(バス)
- 足神社7:20
- 塩の道園地7:40
- 45分 青崩峠8:00
- 崩壊地ノ頭8:40
- 45分 熊伏山9:30
- 10分 崩壊地ノ頭10:50
- 11:00 青崩峠11:30
- 10分 塩の道園地11:40
- 足神社11:55
- 12:05(バス) 龍山村トロン温泉14:05(入浴・昼食)
- 15:05(バス) 岐阜駅18:10(解散)

2万5千 水窪湖・門桁・伊那和田

日の出を写真に

# 竜ヶ岳の遠足尾根

鈴鹿

長谷川 雅 俊

1年ぶりに竜ヶ岳への遠足尾根を登ることにした。今まで何回か登っているのだが、昨年、名古屋へ昼までに帰らなければならぬ所用があったので、夜中の3時に登り始めたところ、思いもかけない日の出の写真が撮れたので、今年も早立ちで行くことにした。

雪の少なかつた昨年に比べて、今年はいかほどの積雪が予想されるので、登山口出発を2時とした。名古屋の自宅を前夜の20時55分に出発し、宇賀溪の落合橋上の無料駐車場に22時8分着。車中で仮眠して、1時15分起床。

長大な遠足尾根をどこから取り付くのか一つのポイント。ホタガ谷登山道へ



コンパスを60度に合わせて歩き出すと、雪上に足跡が現れる。250度の方へくだったるので、たぶん前日の新ハイの緑水さん(筒井氏)のグループの足跡だと思う。これでトレースをたどればよいのでホッとす。3時過ぎに次の分岐点に到着。前方から右手にかけての夜景がとても美しい。こんな夜中に山を登っている自分のアホさかげんにニヤニヤ。

のトレースが無くなる。大日向三角点(696.5m)に3時55分到着。高度計をチェックすると700mほどなので、今のところ正確だ。こんな所に三角点があるという正確は、以前は見晴らしが良かったのだらう。

4時半頃、800mほどのやせた尾根芯に出るといきなり突風が吹きつける。少し戻ってネックウォーマーに帽子をかぶり、カンジキを履く。ここではいつも錯覚して右へ行くこうとするので、コンパスで310度の方向(左)へ進む。右へ行くと青川の梨子ヶ平(大鉢山)へ行ってしまうので、気をつけたい。

5時半に樹林帯(925m)を抜ける所に到着。今日のここからの眺めも本当にすばらしい。遠くの海に一直線にライオンが走っているが、ひょっとするとあの光は近く開港するセントレアの滑走路かも知れない。日の出にはまだ早い、寒くて立ってられないのでツェルトを被ってひと休みする。灌木の中でツェルトに入り、ポットのお湯を飲みながらアンパンを食べると体が芯から暖まってホッとす。

6時にツェルトから顔を出すと、東の

雪煙 (遠足尾根とホタガ谷の間)



根の急登は四つん這いになりそうな感じですが、息が切れる。昨年はかなりやぶっぽかったが、手入れされたのか歩きやすく、ぐんぐん高度を稼ぐ。途中でヘッドランプを消してみたら、こう明かるといのでホッとす。昨年は自分の手も見えない漆黒の闇で、恐しくてビクビクしながら登った。

1時間弱で、470mの台地になる。

方が何となく白んできたのであわてて撤収し、980mまでラッセルする。

先程までの好天とは裏腹に北西から雲が空を覆ってきてイヤな予感が。振り向くとセントレアの光も消え、だいぶ明るくなってきた。しかし、風が強くなり、雪煙が舞い始めた。うーん、ガッカリ! どうも日曜になると天気が悪い。小生は日頃何も悪いことはしていないのに……神よ、我に青空をください!

と、いうわけで狙った日の出の写真を撮ることはできず、来年への楽しみを残しながらホタガ谷道を下山した。850m程度まで谷を下降して振り返ると、天候も回復しそうな雰囲気。

どうも夜明けの上昇気流で荒れるのかなあとも思いますが、不思議にウキウキとした気持ちで下山できた。駐車場には9時15分着。よし、また来年も来るぞ!

(平成17年2月6日歩く)

### ▲参考タイム▼

宇賀溪落合橋駐車場2・00-470m台地2・55-大日向三角点3・55-980m地点6・15-落合橋駐車場9・15  
△地形図▽2万5千1:竜ヶ岳

標高による山の紹介シリーズ 25 松田敏男

新ハイ関西85号

標高△△85mの山

蝶螺ヶ岳 (685m 敦賀)

辻山 (2585m 南アルプス)

八甲田大岳 (1585m 青森)

蝶螺ヶ岳

蝶螺ヶ岳は標高700mに満たない低い山だが、このぐらゐの標高の山においては、関西随一の魅力が備わったすばらしい山ではないだろうか。

山腹の深い樹林の佇まい、森林限界を抜け出たかのような岩と灌木が点在する山頂部とそこに咲く花々、そして三方向を海に囲まれた胸のすく大展望など、この山の良さは多岐にわたる。コンパクトにいろいろな山の魅力に出会える山だ。山頂部は南へこの山城の最高峰の西方ヶ岳まで長く続いており、ちよつとした

縦走気分にも浸れる。雑木林のなかに入りたり、また花崗岩が点在する展望地に出たりする敦賀半島の脊稜は、四季おりおりに訪れてそれぞれの季節の風情を楽しみたい所だ。

初めて登った6月初旬は、花の種類の多さに驚いた。花の季節としては遅いと思えた時季に、たくさんの花々に出会えるとは想像もしていなくて、とても感動したのを覚えている。

日本海に突き出た半島の山という立地条件が、冬場の厳しい環境を経て美しい自然を生み出しているのだらう。

▲コースタイム (平成4年6月7日歩く)

私が山頂に着いた時はあいにく朝霧が全体を覆っていたが、上空には霧の向



うに青空が見え隠れしていたので、腰を落ちつけて待つてみることにした。次第に霧が沈んでいき、まず鳳凰山塊が見え始め、白峰三山も一山ずつ交代に見え隠れした。めまぐるしく移り変わる動きのある見え方は、たいそう印象的で感動的だった。また前景に枯木を配した山の姿は、鳳凰三山から望むすっきり見える大観とは違つて、なかなか趣の深い光景だった。

3時間程滞頂したけれども、お盆の時季なのにこの山頂に来る人はいなかった。

▲コースタイム (平成4年8月14日歩く)

▲コースタイム  
南御室小屋(40分) 萐平(20分) 辻山(15分) 萐平(40分) 南御室小屋

八甲田大岳

八甲田大岳に登ったのはずいぶん遠い昔となつてしまつたが、鮮明な思い出が随所にある。前日に泊まつたのは谷地温泉。非常に低い温度なので30分間程入るよつと書かれていたが、がらんとした水造りの広々とした風呂場の情趣がとて

浦底(2時間) 蝶螺ヶ岳(1時間) 西方ヶ岳(2時間) 浦底  
△地形図V2万5千1杉津

辻山

鳳凰三山(観音岳・地蔵岳・薬師岳)から白峰三山(北岳・間ノ岳・巖島岳)の雄大な展望を満喫したら、あとは下山のみという登山者が多いのだが、私は、人のない辻山の山頂で、もう一度趣の異なつた雰囲気からの展望をとりつてみたが、期待以上の充足感があった。

黒戸尾根を登つて甲斐駒ヶ岳から早川尾根、鳳凰三山と縦走したあと、その時の山行目的の一つだった辻山行きを前に、南御室小屋でテント泊をした。

白峰三山を東から眺めるわけだから、早朝が最良の時だろう。辻山の山頂まで南御室小屋から1時間程なので、テントを張つたまま往復するのにちよつどいい。

一般登山道の萐平から倒木混じりの道に踏み込む。深いシラビソの樹林のなかを、さまよつたような気分をさせてくれる道だ。20分程で突然前が開けて岩礫の山頂広場に出た。

も新鮮で30分という時間が、まさに旅情を味わうひとときだった。秋の連休なのに地元の湯治客ばかりで、話す言葉が半分以上上わかんなかつたのも、遠くへ来た実感できて楽しかつた。

翌日は秋晴れの清々しい日で高田大岳にまず登つた。高田大岳はアオモリドマツとかハイマツとか緑の多い山だった。小岳を越えて八甲田大岳に登ると、井戸岳や赤倉岳方面の赤茶色の溶岩の壁が見え始め、井戸岳の噴火口を一周して赤倉沼まで足をのばしたが、風景が静から動へ一変する自然の驚異に接することができた。

そして酸カ湯への下山中に俯瞰した毛無岳の湿原風景に出会うのである。衝撃的な美しさだった。それまでに秋の湿原というものを見たことがなかつたので、一面の草紅葉の広がりに言葉が失うほかなかつた。(昭和57年10月10日歩く)

▲コースタイム  
谷地温泉(2時間) 高田大岳(2時間30分) 八甲田大岳(2時間) 酸カ湯

△地形図V「十和田湖・八甲田・奥入瀬」昭文社

中世山城跡を歩く

# 龍門山から飯盛山

紀北

長坂 文男

JR和歌山線橋本駅から西へ向かうと、左手に紀ノ川南岸を東西に走る山並が見えてくる。龍門山系で、町石道の小都知峰の北から西へ走り、北山・飯盛山・龍門山、さらに最初ヶ峰・御茶屋御殿山・城ヶ峯から和歌山市東部の大日山へ続いている。

一般的には龍門山系は、東西を紀ノ川支流の四邑川と貴志川に挟まれた山塊を指すことが多い。この山系には中世の山城跡が数多く存在する。南北朝期の騒乱の舞台となり、その後も織田信長の高野攻めに備えて、山城や砦が築かれたからで、西から最初ヶ峰城・龍門山城・小飯盛山城・飯盛山城・清川城(今城山城)

と続き、北側山腹には茶臼山城(西脇庵の砦)・楠木段城がある。

主峰の龍門山は別名駒神山・紀州富士と呼ばれ、キイシモツケ(県指定天然記念物)が自生し、「春の女神」と呼ばれるギフチョウの最南端生息地であるが、山城があったことは案外知られていない。冬枯れの季節初雪を踏みしめ、龍門山から飯盛山へ山城跡を訪ね歩いた。

JR和歌山線粉河駅で下車、駅前を東へ進み、橋を渡って十字路を右折する。紀ノ川縁まで来ると、正面に重厚な屋根形の龍門山、左に端正な三角形の飯盛山が見えてくる。川面を渡る冷たい風に首をすくめながら、長い龍門橋を渡る。

龍門山山頂



東杉原の集落を抜けて果樹園のなかを登り、歩行者コースと車道コースの分岐は右をとる。舗装農道はやがて山道に変わり、大きな案内板のある車道に出る。近道をしてまっすぐ別荘地跡の山道を出ると一本松で、中央コースと田代峠コースが分岐する。右をとり車道を進み、中央コースの登山口に着く。  
『那賀郡誌 大正12年』に、東西に細



長い並列した曲輪跡(古城跡)が中腹にあると書かれているが、このあたりだろうか? 登山口からいきなり急な登りとなり、やがて昨日降った初雪を踏みしめて歩くようになる。この頃から雪も降り出し、明神岩・風穴分岐を左へ進むと明神岩の岩頭に出る。

視界が開け、蛇行する紀ノ川や和泉山脈、東に飯盛山から北山へ続く尾根が見える。明神岩の右には、江戸期から明治

期に養蚕を支える蚕紙の保存に利用された、風穴がホッカリと口を開けている。分岐に戻り、雪化粧した急な山道を登る。傾斜がゆるむとしばらくして主尾根に出る。蛇紋岩の岩塊が散在する草地が広がり、少し登れば3等三角点(755.9m)のある龍門山山頂に着く。南北朝期に山城が築かれ、のちに「龍門山合戦」と呼ばれる激しい戦いが繰り広げられた所である。

『太平記巻三十四』によると、延文五年(1360)南朝方の四条中納言隆俊は、三千余騎を率いて最初ヶ峰に布陣する。これに対し北朝方は、同年4月3日畠山義深を大将に三万余騎を差し向け、最初ヶ峰の西方約10kmの和佐山(城ヶ峯)に山城を築き対陣する。これを見た南朝方の侍大将塩谷伊勢守は、龍門山に兵を移動して立て籠もった。

退却と誤認した北朝方は我先にと龍門山に殺到するが、龍門山中腹で奇襲攻撃に合い大打撃を受けて敗走する。しかし、塩谷伊勢守も深追いしすぎて討死してしまう。敗走の報せに驚いた北朝方は、4月11日五千余騎の援軍を差し向ける。南

朝方は大手の城門を守っていた越智氏が敵方に降伏し、さらに湯川庄司の寝返りなどもあり劣勢となり、戦いに敗れ南方の阿瀬川城(存田郡清水町)に撤退し、戦いは終わる。  
なお現在の山頂部の起伏は自然地形であり、地表に遺構は見られないが、山頂からは和泉山脈・金剛山地・六甲山系が一望できる。龍門山から東へくだけて行くと、蛇紋岩の岩塊が重なる磁石岩(県指定天然記念物)を見る。岩塊は著しい磁性を示し、磁石が狂うといわれるが、試すわけにもゆかず足早に通過し旧代峠に出る。

小さく切り開かれ、小休止によい所である。「飯盛山」を示す道標に「道標なし、ヤブひとし」と書かれているが、実際には要所に道標やテープがあり、やぶも大したことはない。入口はカヤが繁っているが、すぐによく踏まれた山道が現れる。5分ほど進んだ分岐は左へ進み、次の分岐は右をとり南東へ急登する。登り切った所で道標に従い左へ折れるが、風倒木があり尾根をはずさないよう注意して北東へくだる。

687坪ビークの手前で道は不明瞭に





飯盛山山頂（飯盛山城跡）

高い「信長公記」や他の史料は高野攻めについてまったく触れていない。今日では高野攻めは、江戸期の軍記物によるフィクションという事で否定されている。しかし、高野山衆徒が戦いに備えて山城や砦を築いたことは、各所に残る遺構から明らかである。

腰曲輪の「休战区」の標識の所から空

堀跡にくだり、雪に足を取られながら、薄暗い槍の植林のなかを一直線に急下降し、林道に出る。粉河町防災無線中継局の横を通り、林道を進むと車止めの鉄製ゲートがある軍見峠に着く。

通常はここから麻生津峠を経て麻生津中へくだるが、今回は直接麻生津中へくだる旧道（地形図の破線）をとることにする。「↑飯盛城跡へ0.9km」と書かれた道標の横から北西へ20分ほど進むと、北にびる植林の尾根に明瞭な山道がある。植林の作業道となった旧道を10分弱くだると、右に山道が分岐するが直進し、さらに15分弱くだって再び分岐に出る。

左の旧道は廃道で、やぶ漕ぎとなるので作業道を直進する。しばらくして先程の旧道が左から合流し、果樹園に出る。

果樹園の縁に沿って北へ進むとすぐに舗装された農道（地形図の375分標高地点）が現れ、緊張感から開放されホッとひと息つく。眼下に広がる紀ノ川沿いの雄大な景観を見ながら小休止する。

ここから舗装農道の下りとなるが、農道の分岐も多いので、現在地を確認しながらくだるようにしてはしい。尾根を右（東）に廻り込むとT字路があり、左を

とり山腹を大きく捲いて歩く。谷沿いにくだると灌漑用溜池があり、やがて麻生津小学校前に出る。左をとり紀ノ川に架かる麻生津橋を渡り、JR名手駅に着く。（平成16年12月30日歩く）

▲コースタイム▼

JR粉河駅（1時間10分）一本松（15分）中央コース登山口（1時間10分）龍門山（龍門山城跡）（20分）田代峠（1時間10分）桂峠（小飯盛山城跡往復10分）（30分）飯盛山（飯盛山城跡）（15分）軍見峠（30分）舗装農道始点（1時間10分）JR名手駅

△地形図√2万5千√粉河・龍門山（コースメモ）

軍見峠から東約300分の所に、近世天守風の飯盛城がある。新興宗教神路原神社の開祖を祀るもので、中世の飯盛山城とはまったく無関係である。

軍見峠から麻生津中のコースは道標が無い。歩き慣れてない方は東の麻生津峠まで車道を歩き、峠から旧高野街道（麻生津口）をくだる一般コースを歩かれるほうがよい。軍見峠（40分）麻生津峠（1時間20分）JR名手駅



明神若から飯盛山を望む（右奥）  
いを南へく折し、谷沿いだが、次

第に左へ尾根を捲くようになり、平坦な主尾根にのる。あたりはイヌツゲ・リウウブ・マツなどの自然林で、ゆるやかに登ると4等三角点（点名飯盛）のある652分ピークに着く。

三角点から10分ほどの所に、大正三年5月に建てられた飯盛山共有林の石標があり、このあたりから尾根の北側は槍の植林地となる。小さなコブを上下し、旧桂越の鞍部に出る。紀ノ川沿いの東出と下納淵を結ぶ旧道が横切っている。新桂越（龍門山分岐）は、尾根の北側を捲いて150分ほど進んだ所で、桂谷からの道が左から合流する。さらに神路峠（60

3分）の北側を捲いて進み、桂（シッ）峠に着く。

飯盛山城の出城といわれる小飯盛山城跡は、峠から南西へ過道筋を5分ほど登った600分ピークにある。「那賀郡誌」に「飯盛山より七町二十間許西にある高峯にしてこの山麓にも城跡あり。方十一間許平坦なり」とあるが、和泉線№32鉄塔が建ち遺構は残っていない。南方向が開け長峰山脈が望まれる。

峠に戻り飯盛山（飯盛山城跡）へ向かう。伐採地を過ぎ南東へ尾根を急登すると、幅2分ほどの空堀跡に出る。切岸（人工の急斜面）を登り、幅10分ほどの腰曲輪を横切ってさらに切岸を登ると、主郭のある飯盛山山頂に着く。2等三角点（745・7分）のある山頂部一帯が飯盛山城跡で、原型をよくとどめているが、周囲は雑木林で展望はない。

飯盛山城は建武中興（御製朝天子が鎌倉幕府を倒し、天皇親政を復活させた）の翌年、建武元年（1334）10月、湯浅党の六十谷定尚が北条高時の一族佐々目憲法を擁して、山城を築き挙兵した所である。新政権側の楠木正成、三善信運らが鎮庄に向かったが、なかなか攻め落と



せす、足利（斯波）高経らの援軍を得て、翌二年2月ようやく落城させたという。その後も使われたようで、織田信長の高野攻めに備えて、高野山衆徒がここに布陣する。し字形の空堀（横堀）はその当時に改修されたものだという。

信長の高野攻めについて、高野山の史書「高野春秋」は「高野軍記」を引用する形で記述している。天正九年（1581）10月、信長の三男信孝を総大将に十三万七千人を動員して高野山を包囲する。これに対し高野山側は、蓮上院弁仙を総大将に三万六千人で応戦し、翌年4月にかけて各地で激しい攻防戦が繰り広げられたとある。しかし信頼度の

## 暖地性植物巡り

# 雲雀山

田中明

南紀

世界遺産に登録された熊野古道の一部である宮原の渡し場跡から、中将姫のふるさと得生寺や雲雀山に万葉人の足跡を訪ね、暖かい海浜地の珍しい植物にも出会えるとのキャッチコピーに誘われての参加であった。

JR宮原駅前広場の大きなシロロの木が早くも南国ムードを漂わせている。その前で主催者の挨拶もそこそこに、早速南西諸島に自生するといわれるシダ植物のオオタニワタリを紹介からスタートした。

有吉佐和子の小説『有田川』でも知られる幅広い有田川にかかる宮原橋から左前方に見える小さな頂をもつ山が目指す

カラクサケマン



見られるのはさすが南国である。駅から半時間も歩けば悲劇のヒロインと伝わる中将姫ゆかりの得生寺に着き、ござっぱりとした庭で衣服調整となった。

天平の昔、藤原豊成の娘の中将姫が年端も行かない頃、難母の妬みによって奈良の都からここ糸我の雲雀山に捨てられ、家臣の伊藤春時にかくまわれた寺がこの

得生寺である。毎年5月24日は来迎会式が盛大にとり行われると聞く。

その庭にはソシンロウバイ・ヤマモモ・クロガネモチなどが丹精こめられ、地元の方達の中將姫への想いが伝わってくるようだ。

ふだん聞きなれないキク科の帰化植物であるマメカミツレが蕾をやわらげている。それを説明してくださるのは先生役のMさん、流れるような口調の話しぶりにはただただ感心するのみである。

中将姫ゆかりの得生寺を後に、ヤマモモや大楠が立ち並ぶ稲荷大神社を過ぎる

と、糸我峠への熊野古道を右に見送る「ひばり山道」の道標石がミカン畑沿いにあり、ここが登山口である。

黒い実が下向きにつくイヌホオズキの近縁種で、果実が空を向くのをカンザンに見立てたカンザシイヌホオズキがどんな登場する。

ミカン畑の側には帰化植物のムラサキケマンによく似たカラクサケマンが群生で見られた。これはヨーロッパ原産の帰化植物で、果実が種子が一個しか入っていないのが区別点のようだ。

山道を息がはずむようになる頃、ヤマ



モモ・カクレミノ・ハゼノキ・ヒメユズリハ・アカメガシワなどの植物が自生している。サネカズラの赤い実を見ながら行くと岩が現れ、登山道沿いに備長炭の材といわれるウバメガシが目につくと頂上、雲雀山である。

岩が転がる狭い山頂でひと休みとなる。あたりを見渡せば、すぐ真下に蛇行する有田川がまぶしく輝いており、その先には太平洋も見える。記念写真を終え、南尾根のミカン畑の農道を進む。しばらくイヌビワだ、クチナシだ、トベラだなどと、樹木の果実観察が賑やかに続く。たくさんの果実や葉を見ながら行くと、熊野古道の糸我峠と標識の立つ交差点に到着し、昼時となった。

わいわいと賑やかに休むその前には、

アキニレの太木があり、古の旅人たちを見送ったであろう、長い歴史を感じさせるように見下ろしている。おもわずその樹根に手の平を押し当てて往時を偲んでみた。近くにはスイセンが幹の根元を飾るように咲き誇っていたが、旅人も心癒されたことだろう。

そんな感傷に浸っていると、遠くから

「Mさんこれは何の花ですか？」と大きな声に振り向くと、「それはヤブチョロギと言って、チョロギという根を食べる野菜の花に似ていることからの和名ですよ」とのMさんのやさしき溢れる解説がなされる。

よく観察してみると、シソ科のヤブイ



ヤブチヨロギ

ヌゴマとの別名をもつ、花よりも暗紫色の萼のほうがよく目立つ地味な花であった。

糸我峠を辞すとモチノキツジが方々で咲いており、黄色の花弁がツヤやかなツワブキもたくさん咲き残っている。ツルマサキも桃色の実を鈴なりに下げている。タンキリマメ・トキリマメの赤い莢と黒い実の対比が美しく、初めて見る人たちは可愛さについて手を出して触ってみる。また、カサカサのノグルミの果実やイタバカスラなども参加者には珍しそうであった。

どこでも見られる雑草扱いのミノソバと同じ仲間のタデ科のツルソバも、白い小さなお花を咲かせて目立たない群生で



アゼトウナ

このモチノキ科にもたくさん種があり、その一端を紹介すると、日本にはモチノキ属のみがあり、23種が分布していると言われている。さらに分けると落葉性のものと常緑性のものに分類できるが、前者にはよく知られているウメモドキ・アオハダ・タマミズキなどがある。特にタマミズキの赤々とした果実は芸術的な美しさをかもしましたが、今年はこの山でも全く見られなかった。また、後者の常

道の端を這っている。

ツタはナツツタとも言うが、こちらはそれに対してフユツタとも言われているウコギ科のキツタで、花が終わって若い果実を準備しているようであった。

早春の花として、代表の一つでもあるシュンランの株が数多く見られ、そっと根元の枯葉を掻き分けてみると、人差し指ほど大きな花芽がスタンバイしており、今にも咲き出しそうな様子に、おいおいまだ咲くには早過ぎるよと、枯葉をそっと元に戻してやる。

真っ赤に紅葉する美しいナツハゼは、葉を落として黒い実をまばらに付けているだけ、何だか寂しそうに感じる。ツツジ科のスノキ属は種類が多く、ほとんどの実が食べられることから、実に出会うと口に入れるのが習慣となっている。だがこのナツハゼだけは寂しい数の実に手をのばすのはどうも可哀想で、出した手を思わず引込めた。

初夏の苗代の頃に実が食べられるナワシログミも数多く見られるが、この時季はまだ若く細い小さな実で、その姿からは好きな一つ、そっと静かに葉陰に付いているのも素敵である。

緑性のものには先のクロガネモチ・モチノキ以外にどの山でも普通に生えるソヨゴ、やや珍しいタラヨウなども厚い緑の葉を見せてはいるが、そのほとんどに赤い実を見ることはなかった。

長く続くミカン畑の側を歩きながら、ふと見下ろすと西日に輝いている湯浅灣が、初冬にもかかわらずたおやかな景色を見せてくれている。

細くうねったミカン畑農道の坂道をくだると、和歌山県の指定文化財の施無畏寺に到着である。この寺は、殺生が無く畏れが無い無畏を施す寺として、寛喜三年に明恵上人が開基とされる由緒ある建造物である。

ここで最後の休憩後、栖原海岸沿いのんびり歩いて本日最終の海浜地の植物観察である。

まずはカラタチバナと近縁種のタイムリントチバナが細い葉の枝に黒紫色の実をびっしりと付けており、イチジクの仲間のアコウが球形の薄ピンクの実をまばらに付けている。それに枝いっばいに長い刺をまとったクストイゲが、名からも刺々しさが想像できそうな大きな木が、これまた黒い実を付けて立っていた。

公園樹などでいつも見慣れているネズミモチが、暖地のこの山には自生種がいやというほど見られる。悲しいかな名が名だけに女性たちはあまり関心を示さないようだ。和名は果実が鼠の糞に、また葉がモチノキに似るところからである。この木はキンモクセイと同じモクセイ科だが、花は白色の四弁花で、どの山でも普通に見られるイボタノキと同じような花でイボタノキ属の一つでもある。

話は飛躍するが、このモクセイ科の中には、早春の頃いち早く咲くオウバイ・レンギョウなども含まれている。

また材に粘りがあり、野球バットやテニスラケットなどに使われ、冬芽が好きな人に言わせれば、テレビでお馴染みのウルトラマンの顔にそっくりだとユーモアに解説されている、マルバアオダモこの山に自生している。

今年の樹木の果実はほとんどが不作だったのか、それとも台風などによる影響なのか、山を歩いていても目につかないほどさっぱりである。そんななか、クロガネモチにモチノキの赤い実をはたわわに付けているものが見られたのはラッキーであった。

海岸に生えるといわれるハマナデシコは、花の盛りを過ぎていた。花期が7〜10月なら仕方なからう。

旺盛は満開で群生していたキク科のアゼトウナだ。私は初見であり、一見ヤクシソウに見紛うキクが見られ、今回の私のメインフラワーとなった。アゼトウナは、伊豆半島以西の太平洋側の海岸で岩場に生える多年草と、帰宅後園鑑が教えてくれた。葉の小さいのに比べ1.5倍の頭花は大きくて見栄えがする。

ふだんの植物観察のフィールドをどちらかといえば日本海寄りとしているので、今回出会った暖地性植物たちには、いいようなない感動すら覚えた。

またいつの日か暖かい紀伊半島に季節をかえた花巡りもいいなあと、頬をなでるやさしい風を受けながら思わずほほ笑んでいた。

(平成16年1月10日・12月17日歩く)

▲コースタイム▼  
JR宮原駅(30分) 得生寺(35分) 雲雀山(20分) 糸我峠(1時間10分) 施無畏寺(1時間20分) JR湯浅駅  
△地形図V2万5千II湯浅

『万葉集』歌枕紀行

高円山から円照寺(山村御殿)

奈良

木村 太郎

高円山大文字



近鉄奈良駅から東向商店街を抜け、三条通りを春日の森へ歩く。率川の細流を池畔の南方に置く猿沢の池を右手に、興福寺の五重塔を左手に見て、迂り坂を登ると一の鳥居に出る。春日大社への表参道周辺の公園には神鹿がたむろしており、観光絵葉書に描かれた古都奈良の風景が広がる。

はねかづら今する妹をうら若み  
いざ率川の音のさやけさ

(巻七一一二二)

はねかづらの髪形が似合う若い娘の初々しさに、率川の清らかさをだぶらせている。率川のそばで見かけた乙女に、心惹かれた若者の詠んだ歌である。帝の寵

愛を失って猿沢の池に入水した「采女まつり」の女性など、古の都にも恋物語は存在していた。

能舞台の鏡板に描かれる影向之松を過ぎ、春日若宮おん祭の祭場である御旅所を過ぎる。この緑あふれる参道南の雪消沢あたりは、万葉集の浅茅が原といわれている。はるかな時代にも若者たちが春日の野辺に集まり、和気あいあいと野遊びに興じていたと想像しながら歩くのは楽しい。

春日野の浅茅が上に思ふどち  
遊ぶ今日の日忘れえぬやも

(巻十一一八八〇)

万燈籠のにぎわいを思い起こさせる石

(巻十一一八七二)

二の鳥居の下まで引き返し、車舎の横から左に道を折れる。3月には馬酔木のトンネルになる、高畑から春日へ神官が通った下の瀬官道を通る。いまでは「ささやきの小径」と呼ばれる散策道が抜けられ、文豪志賀直哉の旧居に突き当たる。歴史の道をたどり、聖武天皇の病氣平癒を祈られた新薬師寺東門を過ぎ、能登川の高砂橋を渡る。

(巻十一一八六一)

能登川の川底まで光るほど、御蓋山に花が咲いている。「花を詠む」と題された一首である。都の小川の石床にしぶきしている水流は、大宮人たちも春のよさこびを感じた眺めであったのだろう。石走る垂水の上のさわらびの  
明え出づる春になりけるかも  
志貴皇子の「よろこびの御歌」と題された歌である。  
これから訪ねる白毫寺は、天智天皇の皇子であった志貴皇子の山荘跡であるという。

(巻八一一四一八)



高円山の中腹に造られた離宮の白毫寺は、万葉集に高円の宮として詠まれている。天武系の皇族が優位であった時代に、天智の遺児志貴皇子は密やかに生きていた。

采女の袖吹き返す明日香風  
京を遠みいたづらに吹く

(巻一一五一一)

志貴皇子の歌はどれも美しく、寂しさを漂わせた抒情性のある歌が多い。飛鳥京から藤原京に遷都した時の歌だが、絵画を見るように情景があざやかだ。優雅であった志貴皇子の歌いぶりは、生き抜くための立場もあったが、もともと性格からであろう。

高円の野辺の秋萩いたづらに  
咲きか散るらむ見る人なしに

(巻一一三一一)

政治の中心で活躍することもなく、志貴皇子は静かに慎ましく生きた。平城京遷都の後も生きつづけ、元正天皇の霊亀年間に没している。白毫寺のあった春日に生前離宮を構えていたので、死後に春日宮天皇と追尊されている。引用した歌は、笠金村による志貴皇子への挽歌である。

白毫寺の崩れかけた白壁のまわりに萩が生えている。万葉集には芽子(はぎ)と書かれ、生え芽に由来しているという説がある。高円山周辺には万葉以来、萩は絶えることなく花穂をつけてきた。晩



円照寺山門

元正天皇は、「山に行つたときに山人が私にくれた山のおみやげですよ、これは」と詠まれたという。これに応えた舎人親王は、「山に行かれる山人のあなたの心がわかりかねます。それにおみやげをくれた山人とは誰のことでしょうか」と返歌した。

山村に行幸し宮中の緊張感から解放されたひととき、歌遊びをされたのである。元正天皇の歌は、緑の木々やきれいな草花などの山づ(山のみやげ)に出会えるという、山行賛歌のように読みとれるのである。円照寺への参道には、元正天皇と舎人親王がやりとりした、二首の歌碑が向かい合つて立つ。

三島由紀夫が小説「豊饒の海」の序巻「春の雪」に描いた舞台、月修寺のモデルの尼寺が円照寺とされている。円照寺を背景に王朝風の恋愛小説として書いたと三島由紀夫は打ち明けている。「春の雪」の女主人公聡子は、清顕と肉体関係を持ち、妊娠し墮胎した後、月修寺で剃髪をするという筋書きであった。

三島由紀夫により聡子は、月を修める女神のように描かれている。あらがえない運命の渦に巻かれる美しい女主人公が坐るのに、山村の古門跡寺は似合っている。

如意輪観音が本尊の円照寺には、二十五観音を持つ楽器になぞらえ25の礎石が並ぶ庭園がある。非公開の寺院なので、門扉の前から三十三観音をばらす大師堂に上がり竜王池へくだる。

円照寺宮裏や紅葉の名所正暦寺への道に背をして、山辺の道にくだる。柳茶

屋へ進路をとり、黄金塚(こがねづか)に寄り道をした。小暗い竹やぶのなかに、「日本書紀」の編者舎人親王の陵墓が埋まっている。元正天皇と歌を交した舎人親王の眠っている墓に立ち、過ぎ去った遠い時間に思いを馳せた。

近鉄奈良駅に戻するため、山村町バス停へ廻る。奈良駅から来たバスは山村町で折り返すので、ここからだ正確に座ることが出来る。

バスを待つ間、高円山ホテルの見える高円山、少し紅葉をちりばめている春日山、若緑色の若草山の山並を眺めていた。「青垣山隠れる大和」の美しい山が続いていた。(平成16年11月8日歩く)

△コースタイム▽  
近鉄奈良駅(45分)春日大社(45分)白毫寺(10分)登山口(30分)大文字火床(10分)高円山(30分)登山口(55分)白山神社(30分)円照寺(30分)黄金塚(15分)山村町バス停(バス20分)  
近鉄奈良駅  
△地形図▽  
2万5千円奈良・柳生・大和郡山・大和白石



高円山三角点

秋から初冬へと衣替えにいそむ季節のなかで、可憐な秋は涙の粒をこぼすように散り果てている。

白毫寺の裏手、寺山霊園を南におりた白毫寺町耕の看板がかかる溜池の横から高円山への登山道に取り付く。イメージを裏切るような急坂をひたすら登り、尾根道らしくなった山道をさらに登れば、奈良大文字の火床を目の当たりにする。

万葉集では「高円山」という歌い方もされている。高円山のまわりは狩猟場であったようである。

高円山を高めかも  
出で来る月の遅く照るらむ  
(巻六〇九八二)

山が高いから月の照るのが遅いという言い回しに、逆の気がする読者がいるかも知れない。高い山に邪魔され待ち望んだ月見が遅くなると読めばよい。佐保の邸での大伴坂上郎女の歌である。大文字の火床に立てば、生駒山から葛城の山々まで見渡せるので、高円山の高みであることは間違いない。

春日野にしがれ降る見ゆ明日よりは  
黄葉かざさむ高円山の山  
(巻八一五七二)

大文字の上辺から雑木林の道をたどり高円山の三角点を目指す。万葉時代にも黄葉していたという山は、雑木の里山だとも思われる。木の実を付ける森には、動物が生息していたので、高円山は狩猟場になりえたとはいえない。元正天皇の後を継いだ聖武天皇が、高円山の野で狩猟された万葉集の巻六に記事がある。

展望のない高円山(432m)の2等

三角点で写真を撮り、元来た道を引き返す。京都丹波大文字の姫髪山に先月登ったときは、長安寺から火床までは登れたが、やぶを突破できずに三角点へは行き着けなかった。高円山の優しさを愛しく思い、志貴皇子の優しい面影を重ね合わせながら登山口にくだる。

東海自然歩道の道標に導かれて、「北山辺の道」を南へ向かう。鹿野園町の岩井川を越え、藤原町の白山神社を過ぎ、八島町の鶴田神社で春日移しの古社に手を合わせる。崇徳天皇の八嶋陵を後にすれば、円照寺門前の山村はすぐである。

俗に山村御殿とよばれている円照寺は、佐保の法華寺や斑鳩の中宮寺とともに大和三門跡尼寺の一つである。山村の地には、生涯独身を貫いた女帝元正天皇も行幸されている。その時にお付きの王臣に詔して、私が読みあげる歌に返歌をしないと仰せになった。

あしひきの山行きしかば山人の  
朕に得しめし山づとそこれ  
(巻二〇四二九三)

あしひきの山に行きけむ山人の  
心も知らず山人や誰  
(巻二〇四二九四)

# 名峰・平家岳

山田明男

奥美濃

20年程前までは登山道が無く、川浦谷の上流から行くしかなかった平家岳だが、送電鉄塔が福井県から岐阜県に抜けて、巡視路をたどればどちらからでも行けるようになった。

しかしながら、岐阜県側からは尾根が長大なので、主に福井県側から登られている。数年前の台風で福井側の面谷林道が荒れ、車輛の工事通行止めが今でも続いているようである。ただし、工事箇所は歩けば入れるようで、土・日曜は工事が休止されているようだ。

私も行きたい山の一つであったが機会が無く、今回自分で山行を計画してようやく行けた。距離は長い何がが待って

いるようで、あまり歩かれていない岐阜側からのコースを選んだ。

5月28日は無山に登って板取の民宿に泊まった。29日、朝5時に起きて新深山トンネル西口の登山口へ急ぐ。当日のみ参加の1さんはすでに着いておられた。5月15日の下見で登山口は確認済みで、前日も川浦溪谷を見に来ていたので迷わずに到着したが、一台のみ遅れて来た。6時に出発。

鉄塔が尾根の上部に見えていて傾斜はきつそうだ。山頂までの距離は7・2キロもあり、ゆっくりと歩くことにする。山頂到着を12時とし、12時までに着けなければそこから引き返すことにした。



登山口から見えていた鉄塔まで1時間着け、そこから鉄塔のNoを数えながら行く。休憩は鉄塔二つおきくらいにして歩く。尾根上の花は草の花よりも木の花が目立ち、下では終わりがけて落花さかんなシロヤシオが、上ではちようどの時期。上部では蕾も見られた。鈴鹿とは違って大木が多く、半端でないきれいさだった。シャクナゲも何本もあり、花が見られた。

8時15分にNo41の鉄塔に到着。三角点があるはずと探せば、5分東のやぶに隠

れていた。  
No39の鉄塔から美濃平家岳と平家岳はるか先に見えてきた。誰かがつぶやう、あそこまで行くの？ここから時間はかかりそうだが目的地ははっきりとした。  
No38鉄塔との間に美濃平家岳へのルートが隠れていた。急な斜面を登ること7分、山頂に到着した。見晴らしは無く、ブナの木を撮ってすぐだった。



平家岳三角点

いったんくだったってまた登るとNo38鉄塔で、ここから2500mの大下りとなる。帰りはこれを登らなければならず、ここが一番の問題箇所。鞍部西には鉄塔工事の巡視用小屋があるが、鍵が掛かって使えない。小屋前で休んでから出発。  
道は北の方にトラバース気味に方向が変わり、さらに行けばカタクリが咲いてる。雪が最後まで残る場所なのだろう。やがて福井側からの道と合流し、歩く方向が変わった。尾根道を登りつめるとそこは県境のピークで、案内書によれば井岸山とあったが、標石があり、よくよく見れば図根点で、写真を撮った。4等三角点の代わりの図根点だが平家岳山頂に近すぎる。

平家岳(1442m)山頂着は10時50分、最後の人も11時には到着し、全員

が登頂できた。山頂ピークは福井県側にある。2等三角点の写真を収め、早めの食事にする。若い男性2人が来られたので、聞けば同ビルトで4時間だったとか、若いから速い。地元板取の人たちだった。食事後、くだらうとする頃に福井側から10数名が登って来られ、登山口から3時間だそうで、やはり福井側からは短時間で着けそう。

下りは疲れが出たのか思いのほか時間がかかり、15時半を目処としていたが、15時40分に帰り着いた。  
今回参加された方の直後の感想は、「長かった。一度で十分」との意見が多かった。  
秋の紅葉もすばらしいようなので、機会を見て川浦溪谷にはぜひ来たいものだ。  
(平成17年5月29日歩く)



△コースタイム▽  
新深山トンネル西口登山口(2時間15分)  
No41鉄塔(50分) 美濃平家岳(40分) 巡視用小屋(1時間5分) 平家岳(2時間15分) No41鉄塔(1時間55分) 新深山トンネル西口登山口  
△地形図▽2万5千II平家岳

青いケシ咲く峠と40000坪の桃源郷

## 四姑娘山

スリークローニャンシヤン

塚元一彦

中国

四姑娘山



四姑娘山

パンダと遊ぶ  
中国に来て3日目、今日はいよいよブルーポビーに会う日である。

旅の初日は関西空港を午後2時に出発して、北京経由で四川省の成都に着は夜の0時過ぎ。北京と成都間の国内便のほうが、関空からの国際線より大きな飛行機だった。2日目は成都市内で三国志ゆかりの武侯祠を見学して、この都市が昔の蜀の都であることを実感する。また郊外の岷江に残る古代の水利工事の都江堰では、二千年前の治水設備が今なお立派に働いていることに感銘を受けた。世界文化遺産に指定されていることが理解できる。長江の支流である岷江は、

河口の上海から2000キロ以上離れたこの地点でも呆れるほど豊かな水量があり、中国という国の広大さがわかる。臥龍市のホテルを出たバスは、約20分で「国立大熊猫研究所」に着いた。四川省には中国の野生パンダの約80%が棲んでいるが、この研究所だけでも100頭を超すという。世界でも中国にしかない珍獣だけに、厳重な管理の下で育種が行われている。動物園と違って至近距離で生態を見ることができ、別料金を払えばパンダを抱くこともできる。我々は旅行代金に含まれているため、全員この貴重な体験が味わえた。研究所にはパンダグッズの販売所が併設されている。園

内の店で15円で売られているパンダのセットが、関外の羌族の女性から買うと5元。この内外価格差はミステリーである。

### 二郎峠越え

熊貓研究所を後にしたバスは、岷江の支流に沿った道を行く。4月に完成したばかりの舗装道路は、川をはるか



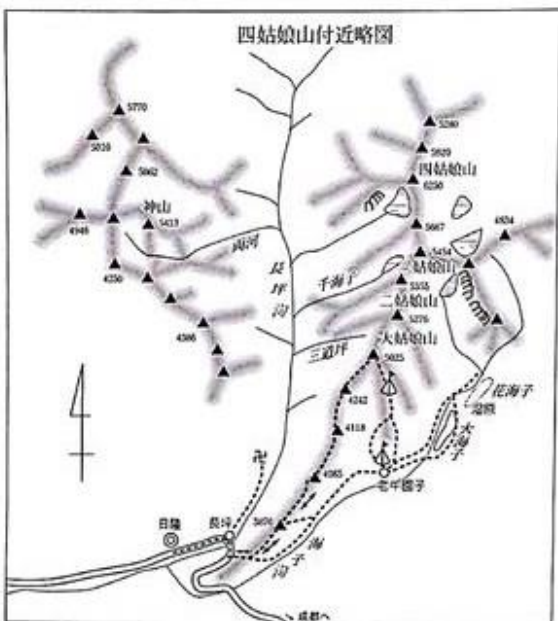
青いケシ (ブルーポビー)

下に見下ろす山腹に付けられており、ガードレールが未設置のためなかなかスリルがある。山側の法面もむき出しのまま、所どころ危ない箇所が見られる。腕時計の高度計が3900坪を超えた所で、お花畑の草原が現れ、昼食にした。周囲はフワソウ・キンポウゲ・サクラソウ・トラノオ・ニンソウ・シオガマ・パイ

ケイツウなど、日本でも見られる高山植物が咲き乱れている。ウスユキソウ・シシウドもあるが、いずれも日本で見られる種とは少し違うようだ。昼食を終えてあたりを散策すると、黄や赤のポビーが見つかり、歓声と共にカメラの放列ができる。しかしお目当てのブルーポビーはここにはない。

さらにバスを走

らせること約10分。車窓から青い花が見えた。いよいよ幻の花が咲く場所だ。バスを停めて、カメラを手に飛び出す。斜面の草原に神秘の青い花が点在している。ヒマラヤ・チベットの高原と四川省奥地にだけ自生する世界的な稀少種であり、ちょうど満開の時季に間に合った。15年前の大阪花と緑の博覧会の会場で咲いていた花とは、少し色が違うような気がするが、高貴なたたずまいはまさしく高山植物の女王の威厳がある。中国には世界の珍種がいろいろあるものだ。十分に満足した後、バスは4300坪の二郎峠を越える。小さな茶店がありチベット仏教の旗が風に翻っている。今夜から三連泊する日隆村は、人口の70%がチベット族のこと。しばらく周辺の山並を眺めながら休憩したが、この公衆トイレは女性にとってはかなり抵抗があるようだった。残雪を頂いた山が見えるが四姑娘山はまだ見えない。峠から少しくだった所でバスを降り、約1時間ほど流れに沿って歩く。3500坪を超えている草原だが、川の水量は上高地の梓川より多い。花の草原ハイキングは、高山病予防の高度順化を兼ねて



四姑娘山付近略図

いる。山に慣れた旅行会社ならではの配慮である。

再びバスに乗り、ヘアピンカーブの道をくだって行く。展望台があり、四姑娘山が雲の間から姿を現した。四個の岩峰が並んでいるはずだが、そのうちの二峰しか見えない。バスは16時すぎに日隆のホテルに着いた。15年前、同志社大学のパーティが四姑娘山に初登頂したときは何もない寒村だったというが、数軒のホテルと土産物店・レストランがある町に成長している。この町の標高は3180mもあるため、夕食のビールはほとんどにして、早めに就寝した。

### 双橋溝ハイキング

四姑娘山南麓には三つの谷が並んでいる。今日はそのうち西端にある双橋溝を歩いて、高度順化のトレーニングである。ちなみに中国では川が流れる谷のことを「溝」という。有名な観光地九寨溝も同じ意味である。ホテルからバスに乗り、約20分谷の入口。景勝地区に指定されているため管理事務所があり、入山手続きを必要とする。シャトルバスに乗り換え、流れに沿って登って行く。兩岸に岩

壁が迫る場所にテントが張ってあり、バスは臨時停車してドライバーとガイドが日本女性と言葉を交している。有名なクワイマーの山野井泰史夫妻が岩登りに来ていると説明があった。山峡を抜けると花の草原が現れ、雪山が遠望できる。チベット族の親子が民族衣装で待つており、いっしょに写真を撮ると5元を要求された。約40分で車道終点。バスを降り、野獣除けの柵を越え、約50分歩き山に囲まれた草原に着いた。

氷河を抱えた山が迫り、色とりどりの高山植物が花を競っている。標高は約3800m。富士山とほぼ同じ高さにいるのだが、花に囲まれているため、そんな感じはない。植物の種類は昨日の峠越えと同じような構成だが、ケシ類はなく、代りにチベットアツモリソウにお目にかかった。我々の他にハイカーの姿は無く、この豪華なお花畑を独占する贅沢な時間である。しばらく楽しんだ後、車道終点に戻って昼食。ここには土産物店が並んでおり、チベット族の民族色豊かな商品が売られている。付近は紅杉の林になっていて、天然記念物に指定されている。寄生植物のサルオガセを見ることができ

た。帰りの途中、バスを降り、流れに沿って約1時間のハイキング。川の近くは湿原になっていて、立派な木道が設置されている。中国の河川は土色に濁っているが、ここまで山間に来ると、日本の谷川と同じく澄んだ水に変わる。十分に楽しんだ後ホテルに帰った。3500〜3800mの草原で約4時間行動したのだから疲れが出るはずだが、高山植物の群落到癒されたせいとか、全員元気。高所順化はうまくいったようだ。夕食は珍らしいチベット料理だったが、少々塩辛すぎた。

### 桃源郷の尾根道

5日目、朝8時50分にホテルを出て山へ向かう。四姑娘山は四つの岩峰を4人姉妹にたとえた名前、南端の長姉の大姑娘山が一番高く5025m。二姑娘山5276m、三姑娘山5355mと続き、北端の末妹の四姑娘山が最も高く6250mある。大姑娘山には一般ルートも設定されているが、途中のベイスキャンプに1泊が必要である。我々は大姑娘山から南へのびる尾根にある4085m

の小ピークを目指す。

登山口は、東の谷「海子溝」の管理事務所の下にあり、ここで入山手続き(料金支払い)を済ませる。登山口付近にはラバを引いた農民たちがたむろしている。観光客を乗せて稜線散歩に出かける仕組みになっている。中国人観光客にはけっこう需要があるようだ。

我々のパーティ22人には、日本から添乗の女性ツアーコンダクターと現地の男性ガイドのほか、ガイド見習いの女子大生2人が付いている。今日はチベット族の若い女性ポーター



写真集合

1人が加わった。我々の弁当や果物を竹籠に入れて運んでくれた。が、何だか申し訳ないような気分だ。樹林帯のなかのゆるい登りのジグザグを数回繰り返すと尾根に出

た。標高は3500mで白い仏塔があり、谷を隔てて一昨日バスで走って来た車道が見える。森林限界を超え、尾根は広い草原になっている。周囲は高山植物の大群落。花花の乱舞である。ゴージャスなお花畑は行く手の尾根道に続いている。四姑娘山の稜線はまさしく桃源郷だ。

尾根道のゆるい斜面を第二の仏塔目指して登って行く。さすがに息苦しい。空気が薄いという感じがよくわかる。100m歩いては、立ち止まって深呼吸をして、再び歩き始めることの繰り返し。現地ガイドをトップにしたパーティの列が長くなる。2人が体調不良を訴えてリタイアを申し出た。見習いガイドが付添って下山することになった。さらに1人が登頂を断念して第二の仏塔で待つと申し出た。ラストはツアーコンが引き受け、遅れたメンバーをエスコートして登って来る。登山専門の旅行会社だけあって、山に強い女性である。

途中、展望の良い高台で昼食。あたりを埋める高山植物の大群落が疲れを癒してくれる。弁当はツアーコン心尽しのおにぎり。キュウリの漬物まで付いていて感激。遠くに雪のピークが見えるが、何と

いう名の山だろうか。さらに歩を進めると、灌木の林を抜けた所でポッカリ4085mのピークに到着した。石積みの祠のようなものがあり、思い思いに登頂記念の写真を撮る。苦しかったが、我慢して足を運んだことで、ここまで来れた。達成感の歓びにひたりながら、集合写真を撮り、下山にかかる。

下りの途中、四姑娘山の全貌が見えるポイントがある。登りでは雲のなかだった四姉妹に会うことを期待したが、今日のお嬢さん方はご機嫌が悪いらしい。わずかに一つの峰が厚い雲の間から顔を少し出しているだけだった。

第二の仏塔で待つていたメンバーと合流し、もう一度お花畑をしっかりと目に焼きつけて尾根道と分かれ、ホテルのある谷へくだる急坂の近道をとる。くだるに従って呼吸が楽になった。

ホテル着は17時。夕食の卓では、初めて経験した4000mの峰と、この世の楽園のような花いっぱいコースに、話の花が咲いていた。

(平成17年6月28日〜7月4日歩く)  
《注》参加者名と全コースタイムは、前84号の山行報告(110ページ)参照。



## 旗振り通信の資料VI

柴田昭彦

【室津(たつの市御津町)での伝承の有無】  
HP「播野歩記」の掲示板に、極楽

トンボさんの投稿「旗振り山」(2005年2月8日、No.275)がある。「日生町の職員のお話では、兵庫県の室津からの信号を受け、旗を振って熊山に送っていた」ということであるが、天狗山(備前市日生町)の頂きより室津は見えないという疑問が生じることから、金輪山(天下台山)・赤穂高山・天狗山というコース設定も考えられるという趣旨であった。

さらに、極楽トンボさんは「はりま室津・嶋屋友の会」掲示板(3月16日)で旗振り通信の件を問い合わせた上で、嶋屋友の会から「旗振りの件は数人の年寄

りに聞きましたが、誰も知りませんでした」という返事(17日)であった。

これらの結果は筆者が行った「室津の旗振り伝承は不明」という調査結果(本誌69号)と一致していて、天狗山では室津と通信したわけではなく、赤穂高山から受信したとみるべきだろう。伝承というものは、なかなか正確には残らないものであることがわかる。

インターネットで天狗山の記事を見ると、2005年4月6日の登山記録があり、ヤマツツジ、山桜、ヤブツバキの花が楽しめたといひ、「四等三角点のある山頂は、江戸時代から明治の中頃まで大坂の穀物相場を知らせる旗振り台だった

ところとか、360度が見渡せる」とある。

また、「川上雄二のページ」には、山の概要に「江戸時代から明治にかけて、山頂は旗振りの信号所となっていた。この天狗山では望遠鏡の助けを借りて兵庫県からの信号を熊山に送っていた」とあり、意識的かどうかかわからないが、「室津」を省くことで妥当な記述になっている。

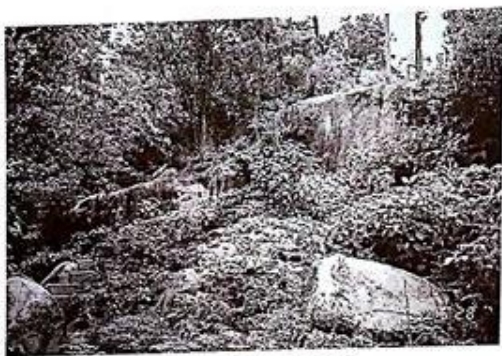
【太田の城山(兵庫県太子町太田)】

平成17年3月23日、インターネット検索で、橋川真一・著 大国正美・解説『播磨の街道「中国行程記」を歩く』(神戸新聞総合出版センター、姫路文庫10、平成16年)に、「旗振り山だった太田の櫓岩城(太子町太田)」の項目があることを発見し、今まで見逃していたことに気付いたので、さっそく、この本を取り寄せてみた。

萩藩(山口県萩市)が江戸時代中期の明和元年(1764)ごろに完成させた街道絵図である『中国行程記』には、次のような記載が見られる(前掲書、18頁)。

④古城山「此古城山ハ大田ノ城ト云

(中略)宝曆十三末(末)ノ春より安芸広嶋長門赤間関帳合相場有之ニ付、日切飛脚ヨリ早ク為ニ陸地ニテ印狼煙ヲ立上ミ下モ高山江通シ大坂ヨリ広嶋迄二日、赤間関迄三日ニ通シ由、印狼煙ト云ハ、三四間程ノ竹ノ口白布、又ハ合羽杯結付、一ツ振レハ何処、二ツ振レハ何処ト知相形ニテ、明六ツより日入迄、兩人宛年中



太田城山の山頂直下の大岩

此城山ニ居ル、申ノ年モ同ジ」つまり、宝曆13年(1763)から大坂と安芸の広島、長門の赤間関(下関)の間に相場を速報するために「印狼煙(旗振り)」による通信が始まったことがわかる。

『播磨の街道「中国行程記」を歩く』の56頁には「旗振り山だった太田の櫓岩城」と題しているのに、「印狼煙による通信がはじまり、城山にも番人が詰めているとある。古代の狼煙通信、近世の旗振り通信は知られているが、このころにも狼煙通信があったことが分かる」と著者が書いているのは矛盾しており、『中国行程記』の本文をきちんと確認していないように思われる。「印狼煙ト云ハ、三四間程ノ竹ノ口白布、又ハ合羽杯結付」とあり、いわゆる煙を上げる「のろし」とは違うことに注意が必要である。類似の誤解が多いことは、前回の四日市・大門山の項目でも紹介した通りである。なお、「三四間」は約6町、「杯」は「など」の意味である。

『中国行程記』に記された旗振り通信では、大坂から広島まで2日、下関まで3日とあり、日切飛脚より早かったと記

述されている。

江戸中期の早飛脚は江戸・大坂間が、5〜8日を要したという。一方、並飛脚は早ければ8〜9日だが、場合によっては、2週間、1ヶ月以上かかることもあった(『交通』日本史小百科、東京堂出版、2001年、ほか)ので、飛脚より早かったことは間違いない。

江戸後期ごろの資料では、旗振りで大坂から広島まで40分以内、最速記録で27分、大坂・江戸間は1時間40分前後(飛脚区間を含めると8時間)と伝わる(本誌75号参照)ので、1763年頃の旗振り通信が2〜3日を要するほど伝達速度が遅かったとは思えない。ちなみに、大阪・東京間は約560km、大阪・広島間は約340km、そして、大阪・下関間が約540kmである。

太田の城山(標高250.1m)は北西の相場振山(太市)と通信できる立地にあるが、旗路・高砂・相生・赤穂方面の既知の旗振り地点との中継は難しいので、江戸期の送信方向は全く不明である。明治期とは異なったルートが使用されたであろうが、『中国行程記』に、他の旗振り中継地点が全くふれられていないの



太田城山の山頂に建つ中継所

は不思議である。

筆者は、平成17年5月28日、太田城山の現地調査を行った。JR網干駅から東進し、大津茂川沿いの歩道を北上して、栄橋で東に向かい、大開ゴルフ場を左に見て、特養老人ホーム聖園へ登ってゆく。途中、左に、楯岩城登山口（秀吉コース）の案内標識があるが、道は鉄塔までで軽く行き止まりとなるので、舗装道をそのまま進む。やがて、聖園のゲートがあり、その左手の、鎖の張られた道に入る。ほどなく左に整備された階段の道が現れる。その急坂を上れば、城山の山頂（楯岩城跡）である。

山頂には城山にふさわしい中継所の建物があり、東側に展望が開けていて、疲れも吹っ飛ばす。裏下には大岩が城砦のように居座っていて楽しい。城跡にふさわしい立地といえる。旗振り場は建物の立

つ本丸付近であろうか。三角点はその西南方向の二の丸にあるようだ。

1763年からいつ頃まで利用された旗振り場なのか、全く不明だが、地元に残り伝えているのか調べたら何か手掛かりが得られるかもしれない。何か地元の情報をお持ちの方は、筆者まで連絡いただければ幸いです（〒572-0011 寝屋川市明徳2-16-1C9-1502）。

【稲谷山（丹波市山南町）】

HP「山であそぼ」の2005年3月6日の山南町の竹林山の山行（3月12日追加）には、次のような記述が見られる。

「ここで面白い話を聞く。それは前から気になっていた妙見山の別名についてです。ここ出身のAさんにこの質問をしてみると、黒田庄で妙見山と呼ばれている山はこの山南町では稲谷山と言わうらしい。しかも昔は旗を担いで登ったいわゆる旗振り山であったようだ。」

このAさんは山南町出身で大阪低山散歩会のメンバーである。Aさんは、筆者が同会の慶次盛一氏に問い合わせた結

力ながら、各地に残る伝承を、各地の郷土史家の協力を得ながら今後も拾い集めていきたいと思う。

忘れられつつある旗振り伝承を、是非、各地で発掘して、筆者まで連絡いただければ幸いです。

【旗振り山めぐり（神戸市）】

行った。

平成17年3月に神戸新聞社の中西大二記者から、「六甲山再発見」をテーマとして、旗振り山についての取材申し込みがあり、20日に取材を受け、資料提供を行なった。



神出旗振山付近略図

果、「いね谷山」が妙見山と同一の山であることの裏付け証言をした当事者であろう（本誌67号参照）。

【神出の旗振り山（神戸市西区）】

藤井昭三「神出むかし物語」（友月書房、平成16年）については、本誌79号で紹介したことがある。旗振りが行われた神出旗振山は、江戸時代、明石藩主の「御茶屋（別荘）があったから「御茶屋山」といい、なまって「御茶山」と呼ぶようになったという。

藤井氏には新しい資料を送付しておいたところ、平成17年4月30日に、その本の改訂増補版が筆者のもとに届いた。

藤井昭三「神出むかし物語」（友月書房、改訂増補版、平成17年）には、筆者の「兵庫県内の旗振り山について」（『歴史と神

戸」2410号）からの引用があり、さらに、神出旗振山の場所が「御茶山」であったことを裏付ける次のような貴重な伝承が載っている。

「お茶山の麓、老ノ口集落に「新店」と屋号で呼ばれた家がありました。集落の者は「しみせ」と言いました。明治の初めは「商人宿」をしていたようです。ここに新婚間もない旗振りが逗留して、近くのお茶山で旗を振って昼前に降りてくると、必ず夫婦が愛を確かめ合ったという。毎日のことなので、この噂が青年の間につたわり、近所の理髪店はその話題でにぎわったというのです。今は理髪店も三代目になっています。（老ノ口集落の伝承）」

藤井氏の資料によると、旗振所（神出旗振山、御茶山）の西麓、山王神社西側・南側付近の集落名が老ノ口で、「しみせ」は山王神社の南西1000呎の藤本好宣宅（4代目）であり、山王神社の南2000呎のタニモト理容が散髪屋（谷本、3代目）である。

こういっただけでも、聞き取り調査結果が公表されなければ、世代交代によって、早晩、忘れ去られていく運命にある。微



大阪一広島'速報, 40分

六甲山再発見

神戸はカクナリ... 20年の伝承を、旗振り場をめぐり、旧跡をたどり、その裏付け証言をした当事者である。旗振り山めぐり、旗振り山めぐり、旗振り山めぐり。

神戸新聞社

筆者のHP「旗振り通信ものがたり」をベースにした形で取材を受けた。新聞記事は、写真をメインにしたもので、旗振りについてのコメントはわずかで、六甲の旗振り山を4回分(①梅尾山の金鳥山②諏訪山の旗振り山)紹介したいとのことであった。

その成果は、4月22日・5月6日・7日の神戸新聞夕刊一面に「旗振り山めぐり」と題して掲載された。写真は①梅尾山から20倍の望遠鏡でのぞいた旗振り山(前ページ参照)②金鳥山中腹の保久良神社のわきにある地元登山会の署名所③諏訪山ヴィーナスブリッジの南京錠越しに輝く夜景④旗振り山のバラボラアンテナが掲載された。

【正法寺(神戸市長田区)】

「旗振り山めぐり」の記事は、「ながたの旗振り山・正法寺」のホームページから「記事とお知らせ」を開いて閲覧することができる。なお、このサイトの「旗振り山と正法寺」は、『旗振り山と正法寺』(第41・42合併号、旗振り山研究会、平成17年7月1日発行)に掲載された。

【旗振り山(四〇四・六米)】

旗振り山の名は江戸末期、近代的通信機関の整備される迄の通信の場で大阪堂島の米相場を橋州、岡山方面に伝えるために大きな白い旗を振って伝達したことに由来している。大阪、尼崎、武庫川堤、金鳥山、船山、須磨などに中継地があった。

本誌64号や『歴史と神戸』240号で述べたように、火見櫓跡(標高390m)は旗振り場ではなく、そこから少し下った標高370m付近のコブ地点が旗振り場であった。

【天王山(京都府大山崎町)】

インターネット検索で「天王山 相場振り」で検索してみると、「天王山物語」に「天王山と古城跡」があり、次のような記述がある。

「江戸時代には山頂から十三峠・天王山・伏見に望遠鏡をもった相場振りを配置し、大阪の商況を旗信号で京都に伝えていた。」

この内容は、近藤文二「大阪の旗振り通信」(『明治大正大阪市史 第五巻』昭和8年)をもとにしたものだろう(本誌57

【梅尾山(神戸市須磨区)】

HP「六甲山麓」には梅尾山の紹介があり、「旗振り通信の場所は旗振り山ではなく梅尾山だ」という説もある」とコラムに載せている。落合重信「神戸の歴史 研究編」(後藤書店、昭和55年)を出典とする記述だが、その元になる記事、鷲尾治兵衛「旗振り山について」(『歴史と神戸』83号)に述べられているように、「梅尾山だ」という説もある」のではなく、「梅尾山は確たる旗振り山である」(本誌64号、『歴史と神戸』240号)。

記事は孫引きではなく、原典によって、きちんと調べて掲載することが望まれる。未だに、梅尾山が旗振り山として認知されていない現状を示すものといえよう。平成17年4月22日の神戸新聞夕刊の記事が「梅尾山は旗振り山である」ことを周知することにつながればと思う。

【金鳥山(神戸市灘区)】

HP「風の向くまま!」の「金鳥山の旗振り山」の記事(2005年3月13日)に、鉄塔(火見櫓跡)の根元に設置された説明板の写真があり、次のように記載されている。

号)。

【伏見の米市場(京都市伏見区)】

「関西小さな町小さな旅」(山と溪谷社、2004年)の伏見の町歩きには次のような紹介がある(90頁)。

「伏見みなと公園あたりは、江戸時代に大坂堂島と共に米相場が立ち、豊かな水量を利用しての交通の要衝として栄えたという。」

【小塩山(京都市西京区)】

小塩山については本誌79号で南春日町の安井庄次さんの相場中継地の証言を紹介した。

筆者は、平成17年5月4日、頂上の土盛り場の場所の確認のために現地を訪れた。アンテナの立つ、一番高い場所に小さなスペースがあって、そこが旗振り場であろう。

今では、展望はあまりないが、周辺が開けていた頃は、大沢山、石堂ヶ岡、亀岡、比叡山、京都といった周辺各地と中継できる重要な旗振り場であったことが想起される立地であった。

小塩山の山頂(NHK中継所の西側)



【相場の峰(京都府笠置町)】

京都地名研究会編「京都の地名 検証 風土・歴史・文化をよむ」(勉誠出版、2005年4月)が発行された。筆者も「千鉢山」「相場の峰」「二石山」を執筆して、天王山を含めて4つの旗振り山を紹介した。

「相場の峰」は、筆者の問い合わせをきっかけとして、笠置町教育委員会・社

オリジナルザック & 登山用品専門店

新品紹介

◆ウォーキングライト◆

http://www.h2.dion.ne.jp/~kobezac

クライミングからハイキングまで使えるシンプルなデザイン。トップとフロントに大型のポケット、両サイドには、ストック等の収納に便利なワンドポケットを装備。軽量化と機能性を追求した日帰りから一泊用のノンフレームのNEWザックです。

☆26☆☆

- ・カラー フルー×ネイビー・レッド×ネイビー・ワイン×ネイビー・オレンジ×ネイビー
- ・重量 820g
- ・素材 ナイロンU・リップ
- ・価格 ¥10,500

イモック山遊行くらぶ

春、夏、秋、冬、季節を気にせず 旗山・低山・名山を訪ねます。

詳細はお問合せ下さい。

イモックと 楽しんで下さい

IMOCK. KUBE

〒653-0209 神戸市長田区日吉町3丁目1番30号 カナノビル2F

TEL (078) 621-5851 FAX (078) 621-3528

営業時間/10:00~20:00 ■日曜日本定休

2005年4月▶山歩き&ウォーキング  
2006年3月

# 総合カタログ

お電話・FAX ご請求ください!  
お手紙にて **送料無料**

★添付の資料請求ハガキでご請求の方には新年度カタログをお送ります。

## 山歩き&ウォーキング(年間・総合カタログ)▶

国内・海外・自然観察の旅500コース以上を掲載した総合カタログ。オールカラー!写真も満載!

### ツアーのポイント!

- 安全・安心登山宣言。  
全コース日本山岳ガイド協会認定のガイドや、登山経験豊富なツアーリーダーが同行。
- 始めての方、中高年の方、お一人での参加も大歓迎。
- 日帰りの低山から、憧れの日本百名山、世界の名峰を歩きます。



### 低酸素室設置!

高山病はこれで解決!

「低酸素室」とは、人工的に高所環境をつくり、高所歩行に耐性することを目的とする装置です。設定高度も3000m~4000mに調整することができます。山岳会やグループでの高所登山を計画されている方もお気軽にお問い合わせください!

●利用料(10名同時)  
メンバー料金 ¥1,000  
当日料 ¥3,000

大阪支店オフィス内

2006年冬号パンフレット  
11月中旬完成予定  
ご請求下さい!



お問い合わせは... 山旅専門旅行会社

**アミューストラベル株式会社** 国土交通大臣登録旅行業第1386号  
日本旅行業協会正会員 ポンド保証会員  
〒530-0001 大阪市北区梅田1-11-4 大阪駅前第4ビル7階

ホームページ <http://www.amuse-travel.co.jp>  
E-mail: [amutos@amuse-travel.co.jp](mailto:amutos@amuse-travel.co.jp)  
**06-6456-3366** FAX 06-6456-3377

【明神山(奈良県王寺町)】  
明神山が旗振り場であったことについては、本誌61号で紹介している。インターネットで「明神山 旗振り」の検索をしてみると、「ようこそ! 奈良友のHP『ランニングがてら』への

【明神山(奈良県王寺町)】  
明神山が旗振り場であったことについては、本誌61号で紹介している。インターネットで「明神山 旗振り」の検索をしてみると、「ようこそ! 奈良友のHP『ランニングがてら』への

会教育指導員(平成12年当時)の中尾修氏によって、切山の長老、松本二三男氏への聞き取り調査が行われて初めて見つかった旗振り場であった(本誌62号)。  
今回、中尾氏に「京都の地名 検証」に相場の峰を紹介したことを報告したところ、松本二三男さんは平成16年10月におじくなりになりました、とのことであった。笠置町での旗振り伝承が失われることなく、後に語り継がれるようになったことは幸いであった。

なお、「京都の地名 検証」は、続編(後編)を、平成18年春の出版に向けて準備中である。筆者も、小塩山(前編の項目の執筆当時は旗振り山と確定していなかった)、梶山(大尾山と誤称された山)、ハナノ木段山(美山町の地名調査に「ハナノ谷段山」とあるが誤り)の3項目を執筆している。

戦場の同僚の木村実氏(斑鳩町在住)が、明神山をフィールドとして、ランニングでよく行くということを聞き、山頂の案内板の写真をお願いしておいた。それをここに掲げて紹介しておこう。

「明神山」の日記および「ペンギン夫婦お山歩日記」の「まほろばの山々」の中に、明神山の山頂の案内板(掲示板)についての紹介が見つかる。  
案内板の文中には「昔は大坂堂島の米相場の旗振りもこの山頂辺りで行われていた」と記述されている。最近では、郷土資料を参考に、山頂の説明板に旗振り場であったことを記述しているケースが増えているように思われて好ましい。見晴らしのなくなった旗振り場も多いが、明神山の展望はすばらしい。

(平成17年6月4日成稿)  
(平成17年7月16日加筆)

明神山の山頂の案内板(撮影・木村 実)



明神山のおはなし

エリア別徹底研究

伊能ウオーカーINやまと⑩

JR櫛本駅～丹波市町～内山金剛乗院永久寺跡～石上神宮～丹波市町～三昧田町～JR柳本駅  
上田 倅 弘

伊能忠敬・測量日記

文化5〔1808〕年12月10日〔1809・1・25〕

朝曇天。本村（櫛本村）より初「メ」、直に同国山辺郡（藤堂和泉守領分）磯「石」上村、田部村、別所村、河「川」原城村、丹波市村迄測（中食、庄屋松屋林兵衛、此村に印杭を残し内山へ測）、勾方「田」村（織田左衛門佐領分、山口村を過、内山金剛乗院永久寺門前迄測、それより堂園を一覽し、無測にて布留明神「石上神宮」を拝し、それより丹波市へ立帰、残印より初、右側（小堀中務御代官所）田村、左側（藤堂和泉守領分）勾方「田」村、それより（小堀中務御代官所）永原村（藤堂領）三昧田村字権現、（同領）佐保庄村、（織田左衛門佐領分）兵庫村、小堀中務御代官所 菅生村（織田芳治郎領分）成願寺村、右側（織田芳治郎領）中山村、右側（織田左衛門佐領分）岸田村、それより式上郡（又日城上郡）、右側（織田芳治郎領）長岡村、左側（釜口寺領）「長岳寺」、同村を経て柳本村に至る。即、織田芳治郎在所。八ツ後〔15時過〕に着。止宿、酒造屋森川庄治郎（不残一宿）。此日藤堂和泉守、大庄屋中嶋良助、植田駿河守御預り所同心森田八太夫・前川精太出る。着後織田芳治郎（中小姓御代官、吉川牧太、次上下にて出る。此夜曇天。

〔伊能忠敬・測量日記〕第二巻 佐久間達夫編著より引用

●実施日 平成13年4月17日(火) 快晴  
●参加人数 20名

9時30分JR櫛本駅に集合、42分にスタート。天理教の祖・中山みきを取り調べされた様子を展示している、大阪府奈良警察機本分署跡を見学した。天理教の母屋が建ち並ぶ街中を歩く。どの母屋も大きくて立派である。

丹波市の街角で伊勢参詣一行を接待する写真を見る。伊勢本街道であったので、今も年末には伊勢参りの一行が通る由。市座神社にて休憩する。戎さんのお面がたくさん置いてあった。福徳円満・商売繁盛の守護神とのこと。

これより袖之内町へ入り、永久寺跡にて昼食。おいしい紅茶をご馳走になる。いつもありがとうございます。

昼食後、上田先生から説明があり、永久寺は明治初年の廃仏毀釈の命により取り壊され、現在のような建物の跡形もない野原になってしまったようである。建立は平安時代末の永久年間で幕府から一千石を受領するなど、壮大な寺院であった由。

その後、石上神宮に行き再び丹波市

町に戻った。

午前中に休憩した市座神社から三昧田町字権現まで歩測した。本日ピッタリの人が出て、何度も見直したがやはりピッタリなのでビックリ！

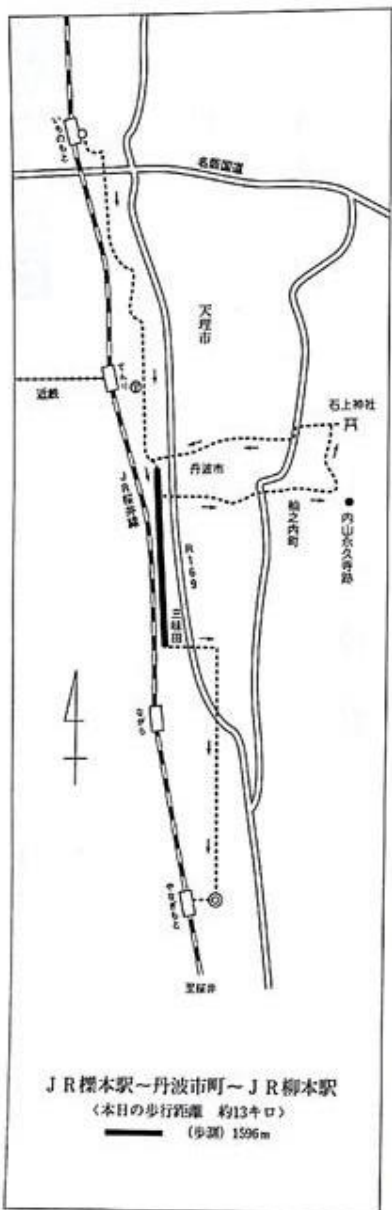
先生曰く、「増村さんは、大変な人（たいへんなひと）」で、大変人（たいへんじん）だと命名された。増村さん万歳！ここで写真撮影をした。いつも重いカメラを持って来てくださる笹木さんに感謝。

伊能忠敬の足跡をたどって行くのは爽しく、また意義のあるのだと感銘を受

けた。引き続き大和の國を巡り歩きたいと思う。

その後、中村直三翁（当地の篤農家）の石碑を見学し、15時15分JR柳本駅にて解散した。

（記録・中里美子）  
△地形図▽2万5千1大和郡山・桜井



内山永久寺室蔵跡にて



## エリア別徹底研究

伊能ウオーカーINやまと⑫

JR柳本駅→辻町→箸中町→三輪町→  
狭井神社→大美和の社公園→大神神社  
(三輪明神)→戎神社→桜井町商店街→  
多武峰一の華表→桜井駅

上田 倅 弘

### 伊能忠敬・測量日記

文化5〔1808〕年12月11日〔1809・1・26〕

朝曇天。六ツ半〔7時〕頃式上部柳本村出立。(池田仙九郎支配所)辻村、(藤堂和泉守領)草川村、(左藤田芳治郎、右藤堂和泉守領)初利村、太田村、(左藤田芳治郎、右藤堂和泉守領)岐後村、太田村。それより(織田左衛門佐領分)箸中村(此村に茗塚あり、長者屋敷といふ)、同領芝村、(織田芳治郎領分)茅原村、(池田仙九郎支配所)馬場村、(同)三輪村(入口に馬場村の内字馬場先あり)、三輪村入会、三輪社迄測。又、三輪村より初(池田仙九郎支配所、藤堂和泉守領分入会)栗殿村(皇村迄式上部)、それより十市郡(藤堂和泉守領分)桜井村制札際迄測残印なし(後日初測へ測量覽)、直に同村の内字河西、それより藤堂領(石上之宮村、左浅古村)を経て、多武峰、一ノ華表(とりのり)迄測。ハツ後〔15時過〕桜井村へ帰る。止宿黒崎屋長四郎、宇多屋孫兵衛。藤堂和泉守大庄屋測量済村役入札に出る。前後日同前。以後略之。此夜曇天不測。  
〔伊能忠敬・測量日記 第二巻 佐久間達夫編著より引用〕

いただく。ご神水のせいか特においしかった。

休憩後13時頃出発し、同公園の展望台に登る。大和三山・生駒山・二上山・三輪山など、四囲の景色を楽しんだ。耳成山の右手前に見えるガスタンクが、地形図に表示されているのを先生に教えてもらう。

大神神社に戻り参拝した後、さらに南へ。三輪の戎神社の南の「三輪町道路元標」「城島村道路元標」を過ぎ、弘法大師御霊水の古井戸を発見、現在使われていない様子。井戸は使わないと水がにごると先生の説明あり。

### 桜井町商店街の「桜井町道路元標」

(中ノ町884)前より歩測開始。本日的目標地点である多武峰一の華表まで、いつものように黙々と約30分間の歩測をし、15時頃に到着した。本日は下水道工事をしている所があり、自動車が少ない歩きやすかった。

歩測の結果は平均値でも誤差2・2%という、すばらしいものであった。

一の華表にて写真撮影した後、15時30分頃解散。桜井駅まで全員揃って戻った。

(記録・中澤孝郎)

△地形図▽2万5千Ⅱ桜井・畷傍山



多武峰一ノ華表にて

●実施日 平成13年5月15日(火)  
晴れのちくもり

●参加人数 20名

JR柳本駅に9時30分集合、45分より上街道に沿って南下を開始。まず、「柳本村道路元標」(大正10年頃設置)を確認。すぐ近くに織田有楽斎の子尚長(二万石)の柳本陣屋跡がある。死刑執行場の跡地と上田先生より説明あり。向い側の住人(奥さん)も「そのように聞いています」と返答。

再び南下、辻町55の1「纏向村道路元標」に出会う。同場所にて穴師大明神への鳥居あり。JR巻向駅近くを通り過ぎて、JR桜井線と国道169号線が斜めに交差する地点を通過し、箸塚(後述々日百襲姫命墓)に至る。最近ヒミコの墓ではないかとの説が出ているらしい。

箸中町の上田先生の知り合いのまんじゅう屋前にてしばし休憩。ラムネ・ミカン水・もなか等を楽しむ。三輪町に入り、三輪明神境内を通り過ぎて、狭井神社に参拝した後、御神水をもらい、大美和の社公園にて昼食をとる。いつものように、上田先生・伊藤さんのお世話にて紅茶を

## 琵琶湖の北の山、東山へ

ひがしやま

湖北

磯部 純

東山は、海津の東にある琵琶湖に突き出た半島の先、桜の名所である海津大崎の北に位置する山である。この山へは平成13年の3月に、山科の大兄といっしょに南の宅地造成地から谷をつめて登っているが、雪が深く東山の三角点を見えない。そのうえ、万路越へ向かう縦走途中で雨に見舞われ、北にある4等三角点を踏むことなく、涙を飲んで途中から161号線へくだってしまったので、万路越まで完全に縦走できていなかった。

今回、そのリベンジを兼ねて、新ハイ例会でこのルートを歩くことになった。ルートは本誌第69号(74ページ)に詳しく載っているが、前回は歩いたルートの

逆であり、この例会が行われた後にも、他のリーダーにより何回か例会が実施されているので、この山城を縦走された人も多いことだろう。

JR湖西線のマキノ駅へは8時50分の集合。京都駅から電車に乗ったのに、わざわざ堅田駅で降りた5人は、守山の彼の車に乗り換え湖西道路を走る。この車には、遠くの鈴鹿からやって来たお嬢とその友人も乗っていて、合計8名で満席。男性は前に座った2人で、後ろの席は女性6人。マキノ駅へ着くまで、その字の通り、(森しい×2)そのもの。

マキノ駅へ集合の15分前に着き、電車で来る人待つつ。全員定期バスに乗り、

探ってはおぼろげながら歩く。すぐ谷の前方には堰堤が現れ、その左を捲いて300mも奥へ登ると、林道は終点。そこには太いケヤキが立っていた。その先は谷を登る。あたりは杉の林で、谷脇にはヤマアジサイの残花がいっぱい。足元にはチャルメルソウやミヤマカタバミの葉を見る。この道は、古くは湖西と湖北を行き来する人馬の往来も頻りにあったそうだが、今ではほとんどといってよいほど、その痕跡は残っていない。

谷を廻り送電線を潜ると、道は谷を離れて左の斜面を切るように登って行く。

斜面にイカリソウの葉が目立つようになってくると、やがて真新しい林道に出た。この林道は最近出来たようだが、どこから来ているのかはわからない。その鞍部が万路越だった。

万路越は湖西の小荒路から、湖東の黒川へ越える峠である。昔は多くの人に利用されていたと聞か、今では廃道と化し、東側の峠道は草に覆われていて、わずかに峠の東にある朽ちたシデの木の下に祀られた地藏尊の祠が昔を偲ばせている。今でもこの地藏尊を参拝する人がいるのか、祠の中はきれいに清掃されている。

た。

この万路越は2万5千図に書かれている名称だが、別に、万字越とも書かれていると聞く。この坂の北にある石に、弘法大師が卍を書いたという由来によるもので、むしろ、こちらの字のほうが正しいようにも思える。一方、このあたりの山容が卍形になっているところから卍越と呼ばれるようになったという説もあり、字はともかくとして「まんじごえ」と読むことについては間違いないようだ。

峠から南へ尾根を登ると、すぐ送電線鉄塔。巡視路はその上の尾根へのると、東の尾根をくだってしまう。我々が進む西の尾根には踏み跡があるだけ。登り切った尾根は平坦で、左は雑木林だが右は杉林の尾根。その林の境界にある踏み跡を広葉樹の枯れ葉やコシアブラの落ち葉を踏んで南へ向かう。右手の林は杉から檜へ、檜から杉へと目まぐるしく変わる。尾根は広く林に遮られて展望はきかない。地形図をよく見て進まない、どの辺を歩いているのかわからなくなるほどだった。

突然、前を歩く彼女が「地図が無い。どこかに落としてなかった？」と聞いて



東山山頂

追坂峠を越えた小荒路で下車。マキノ農協北支店前の広場で参加者の点呼を行う。この日の参加者は男性12名、女性21名の合計33名だった。

9時15分、東へのびる道を歩き出す。集落を過ぎると墓地があり、その先の道脇はフキの原。その中に残っていたホオズキのオレンジが目を引きつける。右手にはクコの赤い実が残っていて、それを

# 新日本山岳誌

日本山岳会編著 菊判一九九二頁 上製刊  
クロス装/函入り 一八九〇〇円  
日本山岳会百周年記念出版。25支部50有余名が、  
全国約四〇〇〇の山へ実際に足を運び執筆に当た  
った。最新・最大の山岳情報事典。

# 世界の屋根に登った人びと

酒井敏明著 四六判並製 一八九〇円  
新刊  
叢書 地球発見4  
ヒマラヤ、アルプス、アンデス、もう一つ  
の「最高峰」チンボラソ。その登頂の歴史  
と人物をいきいきと描き出す。ノシヤック  
峰初登頂の貴重な体験も綴る。

★表示の価格は5%税込です

ナカニシヤ出版

http://www.nakanishiya.co.jp/

京都市左京区一乗寺木ノ本町15

☎075-723-0111 〒606-8161

くる。私は最後を歩いてきたが、落し  
ものなど見なかった。無かったよ  
と答えると、何やらゴソゴソ。しばらく  
して「地図はポケットの中にあつた」と  
パツの悪そうな顔。「ああ、この人も老  
人力が備わってきたのか」と、心のなか  
でニクニク。

やぶのなかにサルトリイバラの赤い実  
を見ながら、広いピークを越えて西へ方  
向を変える。相変わらず右手には杉林が  
途切れずに続いている。その下やぶに黄  
に色づいたクロモジが目立つようになって  
きた。次のピークを越えて、急斜面を  
登り切ると比較的広い檜林。そのなかに  
可愛らしい4等三角点立っていた。点  
名は「東山」。この三角点の標高は53  
2・0封もあるが、展望は全く無い。平

坦な広い杉林のなかに立っているの  
で、こんなに標高が高いとは思えないよ  
うなピークだった。

ここでひと息入れ、10時55分に出発す  
る。皆が歩き出した後、1人が「手袋が  
無い」とウロウロとあたりを探すが、そ  
んなものは落ちてはおらず、諦めて歩き  
出す。歩き出してすぐに「あつた！」の  
声。この人もまた、手袋をポケットに入  
れたのに、落としたと思込んでいたの  
である。自分と同じように「老人力」が  
付いてきた人が2人もいるのかと思うと、  
ひとりでに笑えてきてならなかった。

尾根を南から西へ廻り込んで、細い尾  
根を登ると尾根分岐。一昨年雨のために  
縦走を断念した地点である。その時はこ  
こから西へのびる尾根をくだり、足元か

標識が四つも下がっていた。ただこの山  
名標識は、食事が終わって記念写真を撮  
ろうとした時には、いつのまにかどこか  
に消えて無くなっていった。

この山頂で遅い昼食となる。この日は  
サブなので自重し、まずはノンアルコー  
ルビールで喉を潤す。といっても、吹田  
の彼女のつくってくれたお湯割りだけは  
人に見られぬように、ほんの一口含む。  
三角点のすぐ側に陣取った守山の彼のも  
とには、あちらからもこちらからも、煮  
しめ・唐揚げ・惣菜・果物と献上物が集  
まる。横に坐ったのが幸いで、そのおこ  
ぼれに預かった。陽は照っていないもの  
の、さほど寒くもない昼のひとときだった。

13時10分、下山となる。南へ張り出す  
ゆるい雑木の尾根をくだる。右手の檜林  
が切れた下の鞍部は谷の源頭に当たり、  
道が右手から来っていた。ここが、一昨年  
登って来た所である。ここからさらに尾  
根を南へくだると、どこから来ているの  
か道が現れた。道なりにくだり、右手の  
尾根にのつたと思うと、そこには赤い鳥  
居が……。社殿はしっかりと閉ざされて  
いて、何の神を祀っているのかわからな  
い。その神社から道をくだるが、すぐ道

は消えてしまう。右手の斜面は杉林。小  
さな尾根にのるため、その杉林に入ると  
林道が現れ、杉林の斜面の道をひたすら  
くだると、やがて宅地造成地の道路へと  
降り立つ。

湖周道路へくだったら、湖周回散策路  
を西へ向かい、道路が切れた広場で解散  
となった。時間は14時30分だが、海津か  
らのバスには時間があり過ぎる。私は夜  
に予定があり、車で帰る人達を残して電  
車で帰ることにする。歩いてマキノ駅へ  
行き、15時10分の電車に乗れた。電車の  
中でホッとひと息。ザックのなかの飲み  
物の整理をする。

案内には「東山、ブナの自然林を歩く」と  
あったが、ブナはほとんど見ることが  
なく、「東山、杉と雑木林を歩く」と言  
い換えたほうが当たっている山行だった。  
(平成15年11月15日歩く)

## Aコースタイム

JRマキノ駅(バス20分)小荒路(50分)  
万路越(40分)点名東山4等(1時間20  
分)東山(1時間10分)宅地造成地(15  
分)湖畔広場(40分)マキノ駅  
△地形図V2万5千II海津

いたカエデが混じり、秋たけなわの絵に  
なる風景であった。朽ちた木に生えてい  
るキノコはクリタケか。前週ここを歩い  
た物果女の夫人が、このあたりでナメコ  
を探ったと聞いていたので、アチコチ探  
しながら歩いたが、採り尽くしたのかナ  
メコの姿を見ることはできなかった。そ  
の林のなか、ヒメリンゴに似た小さな実  
が落ちていた。オオウラジロの実で、袋  
にいっぱい拾い集めている人がいたが、  
食べられるものなら拾って帰ったものを、  
どうして食べるのかを聞きそびれてしま  
ったのが残念でならない。

登ったピークはササに覆われ、そこに  
は大きな反射板が建てられていた。ただ、  
使用されていないのか、周囲の草木はの  
び放題。そのササをかき分け、南の雑木  
の尾根へのり、ピークを一つ越えて東へ  
振って、斜面を登ると東山(594・8  
封)山頂。林に囲まれ展望は全く無かつた。

三角点は山頂広場の真ん中に立ってい  
た。前回来た時には、雪の下に埋もれて  
いた2等三角点にやっと会えたのである。  
点名「峯山」で、顔は磁石の南向き。標  
石は欠けた所もなくきれいに保たれてい  
る。近くの木には、以前に無かつた山名



## 三谷坂から天野の里を訪ねて

松永恵一

丹生都比売神社

天野社・天野大社とも称される丹生都比売神社は、和歌山県伊都郡かつらぎ町上天野に鎮座する。四方を山に囲まれた標高約500メートルのどかな風情を漂わせる山里に、朱塗りに彫刻と彩色を施した壮麗な社殿が祀られている。重要文化財に指定されている四棟の本殿は、一間社春日造でわが国最大といわれ、社殿内部に内宮殿があり、その中にご神体を安置している。

御祭神は、第一殿丹生都比売大神（丹生明神）・第二殿高野御子大神（高野明神）・第三殿大食都比売大神（氣比明神）・第四殿市杵島比売大神（飯島明神）・若宮行勝上人。

「丹生大明神宮門」の伝えるところ

によると、主祭神の丹生都比売大神は、天照大神の妹神で稚日女尊とも申し上げ、神代に紀伊国伊都郡杵田（かつらぎ町三谷にある石口の滝）に御降臨され、御子の高野御子大神とともに大和・紀伊を巡られた後、天野原に朝日なす輝く宮、夕日なす光る宮に、常世の宮として鎮まり給うた。

丹生都比売神は新羅征伐の際、神功皇后に赤土を献じた。天逆矛に塗り、船首と船尾に立てて海を渡ると、神威火をみる如く、たちまち新羅を平けて凱旋なさったと『播磨国風土記』は記している。御子・應神天皇は紀北地方の広大な土地を神領として寄進されたという。

丹生都比売神社楼門



丹生とは丹（丹砂）の生ずる地。丹砂は朱砂・辰砂ともいい、水銀の原料。古代では薬・塗料・染料・顔料として、また黄金と青銅の精錬にも、鍍金にも水銀は必須であった。水銀を手に入れるために朱砂を求めて各地を転々とした氏族が存在し、鉱物資源を司る丹生都姫という女神を奉じていた。丹生という地名と丹生神社のほとんどが水銀鉱脈の発掘や生産にたずさわった地であった。

西行法師の妻

弘法大師の高野山開創にあたっては、高野御子大神が狩人の姿の狩場明神として現れ、白・黒二匹の犬に高野山まで案内させたと伝える。丹生都比売大神から高野山を譲り受けたお大師さまは高野山一山の鎮守神として勧請している。高野山発展の陰には、水銀鉱脈の経済力と森林や狩猟関係者の力が作用していると考えられる。

鎌倉時代、行勝上人は北条政子の援助のもと大食都比売大神、市杵島比売大神を第三殿、第四殿に勧請され四社ならびに現在の形ができた。丹生四社明神、天野四社明神と称せられた。

「延喜式」神名帳では名神大社に列し、月次、新嘗の幣帛に預った。後、神階累進して壽永二年（1183）従一位、元暦二年（1184）正一位の極位に進みなされた。徳治元年（1306）大整地が行われ社殿も現在の姿に造営された。楼門は重要文化財に指定されている。国宝の銀銅鍍巻太刀・拵や重要文化財の兵庫鎧太刀拵・木造狛犬四対・金銅琵琶・木造鍍金装神像等、多数の宝物が残る。高野山仰ぐを更に仰ぐかな  
にふつ姫神ふもとながらに 契沖

西行法師の妻

鳥羽院の時、北面の武士左兵衛尉藤原義清という者がいた。武芸はもちろん詩歌管絃の道にも優れた才能をもち、すべてに満ち足りていたが、無常を突感し、まわりつくり愛娘を縁から蹴落とし、嘆く妻を振り捨てて出家して西行と名乗った。伊勢二貝浦のわび住まい、東・陸奥、四国の旅を経て都に戻った西行は、捨てた娘の消息を聞いた。再会した娘に「この世は夢幻のようなもの」と無常を説き、黒髪を切り出家させた。「父は浄土で待つ。母は高野山のふもと天野というところにいるという。訪ねてともに仏道を修行しなさい。」と言って法文を授けた。

「浄土で親子三人、必ずお会いしましょう。」と泣く泣く天野を指して旅立った。慣れない旅を続け、天野の母親を訪ねて再会を喜び、母子はともに修行して暮らした。

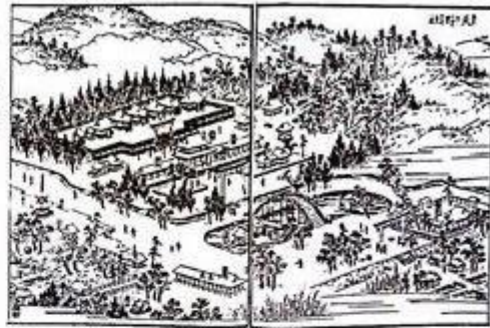
願はくは花のもとにて春死なむ

その如月の望月のころ  
西行は歌のとおり建久九年（1198）2月15日旅立った。天野の妻の尼も娘の尼も死期を悟り、同年から翌年にかけて眠るように往生を遂げた。

北条政子

元久元年（1204）、伊豆修禪寺（静岡県伊豆市）に幽閉されていた二代将軍頼家は、北条氏からの刺客に殺害された。翌年、北条時政は三代将軍実朝の暗殺に失敗。承元二年（1208）3月、頼朝の三男貞時は高野山に入った。藤原時長の娘を母とする貞時は政子の激しい嫉妬と迫害を避けるため、仁和寺に入り修行を積んでいたが、血なまぐさい坂東の闘争に自らの将来を危惧したのであろう。10月、政子は熊野詣でに出発した。帰りに丹生都比売神社で貞時に会った。還俗して頼朝のあとを継ぐ意志の有無の政子の問いかけに、貞時は父頼朝から授けられた短刀で即座に左目を刺した。政子の貞時に対する態度は一変し帰依した。貞時が深く帰依していた行勝上人の懇請により浄財を喜捨し、氣比明神と飯島明神が勧請されたという。

金銅琵琶（重文）が伝わる。金属製の小型の琵琶で政子が奉納したという。金銀鍍を多用し、非常に精巧につくられている。四神明神像のうち飯島明神が琵琶を持つ図像から飯島明神に奉納したのと思われる。



天野社 (『紀伊国名所図繪』)

コース概観

高野山へ上る道に、天野を経る道がある。白洲正子が「天の一端に開けた夢の園」と表現した隠れ里天野は、時間がゆったり流れている桃源郷である。天野の地には、歴史と文化がいにしえそのままの姿で引き継がれている。妙寺駅から「平成の町石道」と名付けられたハイキングコースをたどって世界遺産「丹生都比売神社」を訪ねてみた。

JR和歌山線妙寺駅下車。無人駅となった駅舎は妙寺駅マルシェ・伊都観光物産センターに姿を変えた。駅舎正面の朱色の梁は丹生都比売神社参道入口の鳥居をイメージしている。改札を出てまっすぐ南に向かうと桜の名所かつらぎ公園。かつらぎ町のシンボル、大きな平和地蔵尊が微笑んでいる。紀ノ川に架かる三谷橋を渡る。

白河上皇の第四王子・御室仁和寺の覚法法親王の「御室御所覚法法親王高野山御参籠日記」は、高野山に登られた詳しい記録を残す。久安六年(1150)は、町石道ではなく「三谷坂」を利用された。6月6日に仁和寺を出て梅津にて乗船、天王寺を経て、7日に住吉前津、9日に三谷津にて下船、その日のうちに天野に到着。「三谷坂は木陰にして深き泥なし。道ほど近し。かたが大神妙の由。上下よろこびをなす」と記す。三谷坂は急勾配の道ではあるが、泥深い町石道よりよく整備された高野山への近道であった。

丹生都比売大神が降臨したと伝える三谷の丹生酒殿神社から登る三谷坂は、神主が通ったことから郵便坂と呼ばれ、一

般にもよく利用された道だった。地元ではこの参詣道を平成の町石道と名付け、ハイキングコースとして推奨している。

三谷の集落を抜けて丹生酒殿神社に向かう。道が整備され新しく建て替えられた家が目につく。平成10年9月、台風7号が直撃し、室生寺五重塔などに大きな爪痕を残したが、この地の被害も甚大であった。丹生・狩場明神を祀る神社も綺麗に整備されている。丹生明神が降臨された折、地主神の甕門明神が紀ノ川の水で酒を醸し奉ったことにより丹生酒殿神社と称したという。古来丹生氏の本拠地里宮であり、丹生都比売神社が山宮として機能していた。丹生惣神主は丹生都比売神社まで通っていた。社殿裏山は丹生都姫が神を手にして天降った禰山で井財天を祀る。鎌八幡宮は本殿背後に鎮座。社殿は無く、鳥居と一本のイチイガシの太木に無数の鎌が打ち込まれている。

神社西の民家角に天野大社参道の碑がある。左下にせせらぎを聞きながら、柿・ミカン・梅の畑の道を登って行く。笠石と名付けられた不思議な石柱が建つ。お大師さまの笠が雨引山から風に飛ばされて、この石柱にかかったという。三叉路

を右にとる。眼下の紀ノ川と妙寺駅方面の眺望がすばらしい。舗装が途切れると笠松峠への杉林に入る。厳しい坂の連続に音をあげそうになる。頬切れ地蔵に寄る。一つの石の北に大日如来、西に阿弥陀如来、東に釈迦如来が彫られている。引き返して急坂を登り切ると笠松峠に出る。自動車道を少し歩き、再び林道をくぐると隠れ里天野の里が陽の光に照らされている。左手に「貧女の「灯お照の墓」の案内がある。義父母の菩提を弔うため髪を売り奥の院に「灯を献じたお照は、この地で生涯を終えたという。

丹生都比売神社は金剛峯寺の方向を意識して北西に面して建つ。鮮やかな朱の鳥居・太鼓橋・楼門・本殿が並ぶ。女神らしい優しさを感じさせる華麗なたたずまい。淀殿の寄進ともいう太鼓橋が架かる。鏡池には、不老不死の八百比丘尼が



水面に映る自分の姿に「八百歳にしてはあまりに若々しい」と嘆き、懐中の鏡を投げつけたという伝説が残る。明治の廃仏毀釈までは、神社の周りにお大師さまを祀る御影堂・多宝塔・山王院・不動堂などの堂塔が建ち並び、神仏混淆の地で神主と僧侶により守られてきた。境内の隅に大峰修験の碑も残されている。

西行田という地名が残る。この地で生涯を終えた西行の妻と娘の宝篋印塔と西行堂がある。出家して高野山に入った滝口入道(斎藤時頼)を慕う横笛が草庵を結んだ地に残る恋塚。「源平盛衰記」が鬼界カ島で果てた俊寛僧都の娘は、有王丸にもなわれこの地で尼となったと語る有王丸の墓。

かつらぎ町コミュニティバス丹生津比売神社前バス停前に、里で採れた野菜・山菜・お米等を販売している天野の里物

産販売所がある。コーヒーやうどんもあるので立ち寄りやすい。時間がない場合や疲れた時はコミュニティバスでJR笠田駅へ。

尾根上に見える町石道の二ツ鳥居を目指す。院の墓を通る。待賢門院に仕えた中納言の局が移り住んだと、西行は「山家集」に記している。二ツ鳥居からは高野山大門を目指すことができるが、南高野線上古沢駅へ向かう。

A コースタイム

- JR妙寺駅(30分) 丹生酒殿神社(1時間) 頬切地蔵(30分) 丹生都比売神社(50分) 古峠(1時間) 南海上古沢駅
- △地形図V2万5千=橋本
- △費用V雑波駅=橋本駅 670円
- 橋本駅=JR妙寺駅 200円
- 上古沢駅=雑波駅 810円
- 神社前=JR笠田駅 150円

(問い合わせ先)

- かつらぎ町観光協会 0736(22)0300
- 伊都観光物産センター(妙寺駅マルシェ) 0736(22)5670
- 丹生都比売神社 0736(26)0102

〈山のレポート〉  
山の地名を歩く②  
「上高地」

西尾 寿一

上高地はわが国の山岳の観光地として言わずと知れた存在である。ところが、この上高地という地名が他の地方にも幾つかあって共通性を問われるが、同一かまたは全く異なる存在なのか、そのあたりについて述べてみたい。

上高地は時代と共に何度も転化した名称なのに、名が実態を表しているから不思議な地名である。北アルプスに少しなじんだ人なら上高地は神高地・神河内などと呼ばれた時代のあったことを知っていると思うが、明治39年発行の『日本山嶽志』(高頭式編)にある地図には全く記載がない。そればかりではない。島々から梓川沿いの道は無く、徳本峠が唯一の通路となっている。その徳本峠に至るルートも島々から沢通しではなく、小高沢山の尾根通しになっている。これはいった

い何を物語っているのか注目される。もしこの道が実在したならば小高沢山はほんのついでで登山となって今日のような苦勞はなくなってしまう。小高沢山の件は別にふれるとして、また徳本峠に向かうルートについては若干の追加研究を必要とするかも知れない。

この地図には大正池も明神池も記載がないから実にシンプルなもので、焼岳(地図では破黄色)の噴火によって梓川がせき止められる以前のものとわかる。「山岳」(JAC年報)に昭和16年、中島正文氏が「神河内志」を発表されている。このなかで氏は「神河内が神ながらの清浄地であったことは、其の名称も上河内だろうが上高地と書こうが、一向差支えもなく苦にもならなかった。それが一端俗化沈論して甚しく形相が歪められたから、人々には其の昔の幽玄な面影と其の頃の純潔な境地とを偲び恋ふ心がひたむきに強くなって、其の名称宛字逆もいろいろ考証せられ、論議的となった」とあり、この時代すでに地名論争があったことがわかる。

これを受けて小島鳥水は同じく「山岳」にて「神河内地名考」を書き、神河内が

するというパターンが主に信州で成功したために、この方式を他の山にも適応させようと努力がなされる傾向が強まった。しかし、この方式は必ずしも日本の山岳全般に普遍的に通用させるには無理があったために、一部の篤志家をのぞいて自然に消滅していった。ただし、この時代はまだその方式を信じる人が多かったことを証明している。

さて、上河内・上高地・神河内の名は江戸時代にすでに出現しているが、古い順は前記の通り、上河内に軍配が上がる。

小島鳥水が公に神河内を発表し、大方の支持者を得ても、かくの如く誰も従わないのは、根拠に問題があるからだ。神なる文字は、そうたやすく使用するべきものではなく、特に昔の山村では唐突ですらあった。

山岳地帯で最も使用頻度の高い地名は地形語である。その視点からみれば本件では明らかに「上河内」である。「上の河内」であり、河内・川内は全国に無数に存在し、またその転化もたくさん見られる。

名の知れた所で最大のものは、大阪の河内で淀川の左岸一帯と大和川の下流氾濫原である。枚方市から河内長野に至る広大な地域で人口密度も極めて高い。現在では生駒山を中心以北を北河内とし、それ以南を南河内として扱われている。九州の川内は読み替えてあり、東北の仙台も同類である。

沢登りで名を馳せた下田の川内は原形に近い。元々地形語で、川が曲流する内側の広くなった部分で、人が住み利用するに最適な場所だったが故に、各地に同地名がたくさんできた。

ただし、こうした性格の土地はたえず洪水などの危険がともなうことから、地名変更も行なわれた。例えば、河の字を高(高知など)に変えたり、佳字化したりする。

先にあげた仙台や、川内は読み方を変化させている。

山名でも南アの上河内岳、能登の河内山なども河内の山である。人口の多い都市では名前を変えることによって少しでも災害から逃れようとしたのであろう。これは言霊信仰の影響である。

正しいと断じているから一時この論争は収まったかにみえた。しかるに現在には上高地なるものに変じているのは何故か解せないことである。その後前出、中島氏の論文は広瀬誠氏の努力によって『北アルプスの史的探究』(昭和61年、桂書房)となって集成されているが、この中には上高地の謎を解くいくつかの資料を発見することができる。

まず正保三年の絵図には保高嶽と上河内川があり「用材出ル」とあるから木材の切出しと川流しが行なわれていた。続いて、弘化三年の書には「上高地山」が出ている。

享保九年の書状では、上河内山、霞嶽が出てくる。江戸時代この一帯はすでに相当数の人夫の寝起きする所であり、明神池では夜に乗り岩魚釣りをしているくらいだ。

また徳本峠の名は「徳五郎越」とあり、その後「徳五峠」から現在に至る。霞嶽も小島鳥水の「山水無盡蔵」では霞沢岳となるが、中島氏は「信州人は岳の名称に沢の字をつけたがる癖から、ついこんなことになったもの……」と言う通り、おそらく、この時代山名は沢名より発生

全国の地名のうち川沿いで高い意味のある地名の所は実は洪水常習地帯であった可能性が高いのである。地名はよほど気をつけないととんでもない誤解のもとになる。

地名を変更して、それで災害が少なくなることは無論ないが、為政者達はそのことで責任逃れができたこともあったのだろう。大阪の河内が河川改修によって洪水が少なくなったことは、巨大な人口をかかえる都市としては当然の帰結だったのだ。

全国の河内・川内地名はやはり水の不安がある地名である。上高地も焼岳の噴火によって大正池が出来たように、山崩・土砂流出・大雨による洪水常習地というハンデがつきまわっている。越後の川内山塊でも沢は四季を問わず月日を問わず危険の文字から逃れることができない。

上高地(上河内)は、そうした巨大な「河内」地形の、さらに上流の小規模な盆地のような開けた河原に、河内の記憶が出ているわけである。

〈山のレポート〉

1等三角点を我がものに

生駒 登峰

次々と1等三角点を求めての山行が続く。その数は100山を越えた。いつの間にか200、300、500と数えるうちに、物言わぬ標石に愛着すら覚えてくる。

本来三角点は測量の基点で、勿論国有財産なのだが、設置されている土地は国有地とは限らない。公共の学校・公園・山野などはまだしも、個人の土地にも多く設置されている。だからといって使用者が払われている様子はない。土地の所有者にしては、三角点が何なのか全く知らない人も多い。私達が訪ねて行くとき、「昔からここにあるのだが何ですか」と聞かれることもままある。特に農地などでは、「邪魔になるので引き抜こうとしたがなかなか抜けない」という話を聞いたりする。

「国有財産だから、勝手に移動したり傷つけると、罰せられることになる」と

説明すると、驚いている。

住宅地になるとさらに深刻で、住宅の建築にも影響する。三角点ぎりぎりに家が建ち、外部の階段下や軒下になっているもの、マンホールで保護されている三角点などいろいろある。

しかしそれらは良いほうで、コンクリートの土間に埋められてしまったもの、車庫の中や全く住宅の床下になったものなど。何しろ狭い日本、高価な住宅地では三角点を避けることなどしてられない。田畑では耕作の邪魔になる。最近特に増えた三角点マニアが入り込む。住宅地内では次々とマニアが押しかけて来るのでその対応が面倒である。関東平野のある住宅では、とうとう地理院に移転させた話もある。

ところが、その1等三角点が自分の所有になるチャンスが見つかった。滋賀県の湖西、新旭町の湖岸深溝で、1等三角点(点名 深溝村)が造成された住宅地の中にあり、近くの山登りの時には何回も訪ねていた。ある時その宅地に売地の看板が立っていた。ここを買えば自分の庭に1等三角点があることになる。日本全国には大勢の三角点マニアがいるが、

は柱頭が15°角。全長79°で、重量64°となっていた。

現地に行くと、情報通り標石は見つかったが、1人ではどうすることもできない。林道もそれ程遠くないので、2人なら何とかなりそうだったが、やはりいろいろ準備が必要で、実行するのは大変だし、2等でもあり、そのままになってしまった。

話変わって台湾でも、現地ガイドが3等の標石を拾ってきた。台湾の三角点は大半が日本統治時代に設置されたもので、日本の標石と全く変わりがない。

「柱頭を切断しておきますから、次回来られた時にお持ち帰りください」との話。言われるとまた食指が動く。頭だけだとのぐらいの重さがあるとか、トランクに入れたらトランクが潰れないとか、荷物検査で何か言われたらどうする、一応国有物なので問題になるかも知れないなど、あらゆる悩みは尽きない。興味の無い人から見ればお笑い草もよいところだろう。結果は実行に至らずじまい。

1等三角点巡りを続けていて、思わぬ所でチャンスがきた。九州は佐賀県の点名鳥泊山(火山岳)で、お城を形どった

1等三角点を所有している話は聞いたことがない。所有すれば、前代未聞の話になる。ちょうど土地ブームの終わりの時期で、別荘地として開発されたがブームに乗れず、買った人が売りに出したらしい。早速看板の周旋屋に電話すると、私にも買えない金額ではない。もちろん別荘など建てる気はなかった。しかし妻からは、「単なる趣味のために家も建てない土地を何百万も出して買うなど、どうかしている。頭を冷やして考えなさい」と猛烈に反対された。落ち着いて考えてみるに、たしかに1等三角点があるというだけで、高価な買い物と言わざるを得ない。

「1等三角点を我がものに」計画は立ち消えになり、一瞬の興奮を味わうにとどまった。しかし、何か寂しい気持ちが残った。問題の土地は今どうなっているのだろうか。心残りではあるが、さりとてもう見る勇氣は起こらず、周辺を通っても立ち寄ることはない。

数々の三角点を訪れていると、破損した三角点が入れ替られる時に古い標石が放置されていることがある。多くの古い標石は処分されて滅多に無いのだが、稀

展望台の裏に新設の標石が入っていた。その傍に少し欠けているが古い標石の頭だけが転がっていた。けっこう重かったが、展望台まで車が入れたので簡単に取り込めた。幸運というほかはない。

この標石は、今わが家の玄関に鎮座している。いろいろな人に尋ねてみると、「1等三角点研究会」の元会長も持っているとのことである。また先の会長は、千何百山かの登頂記念に2等三角点の模造品を送られたと見せられた。1等でないところが憎い。

筑波の国土地理院の裏庭にはいろいろな標石が積まれている。新しい標石はもちろん、撤去した古い標石もたくさんある。そばまで車が入れるし監視人がいるわけでもない。一つ失敗できないか。乗用車では無理かな、小型でクレーン付のトラックが必要な、などと、不埒なことを考えたりもする。

また、標石を注文してつくろうかとか、自分の墓は三角点標石型にできないか、と考えたりする。

皆さん。どこかに標石が放置されていませんか。三角点マニアも嵩じると、何を考えているかお察しください。

に放置されていることがある。放置されている物は持ち帰ってもよいだろう。1等三角点標石を所有するということは、三角点マニアにとってはよだれの出る話である。

東北は宮城県金成町の姉菌に、1等三角点標石(点名 姉菌村)が放置されていることが、一部の三角点マニアには知られていた。もちろん私も確認していた。それ程高い山の上ということでもなく、駐車地点からも遠くない。持って帰れないかと、友人と2人で出かける。

1等三角点の標石は、柱頭で18°角。地上に露出しているのは21°。全長は82°もあり重量は90°に達する。とても2人では持てない。そこで、露出している部分だけを割り取ろうと、ハンマーや石のみも持参して行った。ところが起こすだけでもひと仕事。のみを当てても素人の悲しさで全く受けつけられず、取るほどこしようがない。どうしても取るなら専門の石工の助けが必要である。

また1等ではないが、2等の石があるという情報が入ってきた。これは吉野の点名鷺屋村(鳥見の霊時)。近くでもあり早速下見に出かける。2等と3等の標石

## 〈山のレポート〉 琵琶湖の川鷯被害について

金谷 昭

琵琶湖とその周辺の川鷯による森林被害が新聞紙上で報じられている。筆者が参加しているボランティア団体の川鷯による枯死林回復の植林活動を通じて知り得た情報をご参考にお伝えしたい。

川鷯はペリカン目鷯科の水鳥。全長80cm、体重2・5kg、黒色、脚指には水掻きがあり潜水して魚を捕らえる。アフリカ・オセアニア・アジア・欧州・北米東部の海岸、河川、湖沼に分布し、国内では北海道及び沖縄以外に生息する。

かつて1940年頃、営巣が琵琶湖で発見され大規模な駆除が行われた。1970年代には全国で三千羽となり、絶滅を危惧されていた。しかし、最近では琵琶湖・兵庫県尾陽池・愛知県知多半島鷯の池には大規模なコロニー（集団営巣）が形成され、以前にもまして爆発的に繁殖しているようだ。

『日本書紀』には鷯の羽を産屋の屋根

に簀いたり、妊産婦に鷯の羽を持たせて安産を祈った故事や俗信等、我々日本人とは古くからのかわり合いがあった。鷯飼で有名な長良川がある岐阜県では、やや大型の類似種の海鷯が「栗鳥」となっている。

川鷯は枝や枯草を採取して樹上に直径約50cm、深さ約20cmの巣をつくる。一夫一妻で年一回、3〜4個の卵を生み、このうち二羽が約50日で巣立つ。集団で行動し、主として魚類を潜水して1日に500〜800gを捕食する。そして1日に体重1kg当たり200gの糞尿を出す（体重2・5kgだと500g）。糞尿は樹木の葉に付着して光合成・呼吸低下を起し、また窒素やリン酸の栄養過剰で木の根を痛め、さらに果材として枝葉の折り取りが樹勢を弱めている。

ところが、糞尿は根菜類・桑・果実への肥料効果が高いため、愛知県美浜町（鷯の池周辺）では明治時代には松林に砂を広げて採糞し堆肥として売り、その収益を地元の小学校や公会堂の建設資金に当てた。また魚類を求めて集団で飛来するので、漁師にとっては自然の魚群探知機であった。しかし、筆者が昭和40年代

に鷯の池を訪れた時には、糞尿採取は化学肥料の普及により既に終わり、完全な枯死林となっていて不気味であったのを記憶している。

琵琶湖では1982年頃に営巣が確認されて以来、90年代から爆発的に増え、94年には四千人、そして現在は約四万羽が生息。内訳は、竹生島一万七千羽、伊崎半島一万八千羽、その他五千羽となっている。

琵琶湖で増加した理由は、他地域の都市化・環境悪化・追い払いがあり、彼らにとって捕食環境の良い琵琶湖の漁場「餌」近くの、人の立ち入りと天敵の少ない竹生島や伊崎半島へと集団飛来したからだと考えられる。

竹生島では従来、島の北側にあった営巣が糞尿で樹木が枯れて少なくなり、島の南側にある宝蔵寺の100mほど近くの雑木林にまで広がっている（営巣推定数187羽）。国宝の本殿屋根に糞尿が真っ白に堆積して悪習を放っている。その上、樹皮剥きの腐食が進行し、ニヶ所で雨漏りが発生している。寺周辺の景観保持のため営巣を島の北側に追い戻すのに苦慮されている。

背後に近江八幡国民休暇村と津田山のある伊崎半島は、人家や東近江の街道から外れ、また漁業の盛んな沖の島を控えており、川鷯の営巣に適している。

琵琶湖国立公園・近江湖南アルプス自然休養林となっている同半島の約20ヘクタールの森林が被害を受け、景観を損なう枯木林のみならず、裸地となった斜面からの土砂流出と、それに伴う水質悪化をも起したことがある。

筆者が最初に植林活動に参加した8年前、川鷯被害地域に足を踏み入れた際の悪臭と、川鷯が捕り落としした小魚の死骸がそこそこに見られたのを今も覚えてい



伊崎半島の森林被害

査用の糞尿採取網が設けられ、また植生回復準備のため枯木伐採のマーキングが施された。日の当たり始めた過剰な養化された表土に外来種のヤマゴボウ（食用不可）が大繁殖し、植林された幼木には日が当たらず生育が阻害されていた。全面積57ヘクタールの伊崎半島の50%が、戦前からの植林事業による人工林、即ち檜や杉の針葉樹に占められているが、それら針葉樹の川鷯被害が著しい。高木の先端部は鷯の営巣にとって警戒しやすく外敵からも遠く離れているため安全で、近くの針葉樹の先端の枝葉を折り取って果の材料としている。これら針葉樹は先端の枝が生育枝となっているため、生育が阻害されている。同じ高木の広葉樹にも営巣が見られるが、広葉樹は枝が横に広がり、先端に果があっても先端が生育枝とは限らず、枯れずに生きている。このことから針葉樹のみの過去の植林事業は問題ありと言わねばならない。

なお、竹生島では鷯の営巣材料に近くの竹まで利用されているとのことであった。また漁業被害は、鷯一羽で1日800gの魚を捕食、生息数から推測すると琵琶湖漁民の一年間の漁獲高に匹敵する

と言われ深刻化している。

川鷯の駆除には根本的な解決方法が無く、現在銃器を使った集中駆除と、空中からの人番に無害な石鹸水散布による卵の孵化抑制が行われている。

銃器による駆除は滋賀県猟友会が繁殖期の3月から5月にかけて、毎回15人、13回にわたって約1600発を打ち、約五百羽程度の駆除をし、巣を減少したと言われているが、昨年も実施したので慣れたのか果になかなか戻って来なかったらしく、今年の駆除数は不明確である。

石鹸水散布は滋賀県の実験で卵の孵化抑制に効果が確認されたので、ラジコンヘリコプターを使い空中から樹上の巣に散布した。効果の程度は未確認だが、滋賀県の調査では約五千四百羽が駆除されたと言われている。

川鷯は移動範囲が東西に広いため、実際に減少したかはさらなる詳細な調査が必要とされている。

今後は有識者による検討と被害地域の植生回復が緊急の課題である。

（一部資料は滋賀県森林監理署長岡浩明調整官からの教示による）

特選コースガイド①

湖北

（里山シリーズ30 今建）  
シヤクナゲと武神嶽展望  
に たにやま  
二の谷山北稜

一般コース（★）  
長宗 清司

JR近江今津駅前から小浜行ききのJRバスが、石田川沿いから角川トンネルを抜けると左右に山が迫る。福井との県境へとくだるこの国道303号線の左右の山は、登山の対象から除外されていて、ガイドブックは無く、以前から探ってみたいと思っていた。

右（北側）の山は湖北武奈ヶ嶽で、明治時代までは武神嶽と言った。一昨年、ようやく夢がかなって、所属する仲間と共に湖北武奈ヶ嶽の寒風コースを開発した。そのコース上標高500mの「イオナ展望台」から眺める南側の二の谷山（楡山）は、ど真ん中に深い谷を抱く堂々とした山容を見せていて「ぜひ登ってみ

たい」と思っていた。今回は、この二の谷山の北稜を時計廻りで逆U形に歩くコースを紹介する。

保坂バス停で下車し、T字路を西に分かれている国道367号線へと歩く。さらに、朽木に向かう国道と分かれて旧道へ直進し、水坂峠に向かう。  
（保坂は、室町時代の後半から江戸時代にかけて、今津と小浜を結ぶ九里半街道と、京から小浜に至る若狭街道（鯖街道として有名）が合流する所として繁栄した。保坂で合流した二つの街道は「中の川」に沿って弁天堂、金比羅宮、庚申塚、水坂峠と進み、山中の関を通って若狭に達していた）

峠への道路の左眼下を流れる中の川の対岸には金比羅宮があり、寄進された灯籠は二つとも小浜の両替飛脚や住人の路が彫られ、保坂の村人だけでなく、街道を利用した小浜の商人たちの情仰も厚かったことがうかがえる。金比羅宮から約150m上流には庚申塚があり、旅人や巡礼者がひと息ついた腰掛け石が今も残っている。

水坂峠へのゆるやかな上りが、いつの間にか下りにかかるあたり、擁壁が途切

鉄塔群の尾根筋（巡視路）をくだる



れた所から左側の杉林を登る。かすかな楡道の上部は明るい小さな鉄塔広場で、西側に国道が見下ろせる。

ここからは、確かめにくいほどのやせ尾根になる。この分水嶺はやがて急峻な岩の小尾根になり、じりじり登る。途中、ひと息つける場所があり、季節によって梢越しに薄茶色の山肌若みどりの一群や真っ白なシデコブシかタムシバの花が

点在し、際立った美しい景観に出会う。再び小尾根を登りつめて支尾根に立つがこのあたりはシヤクナゲの咲くシーズンには深紅の花でにぎわう。

支尾根は小さな起伏が続き、ミズナラ・コナラの林で意外に歩きよい。恐らくシカなど獣が毎日通る生活道だろう。

南東方向へ廻り込むあたりで、木々の間から陽光を浴びた琵琶湖の水面がにぶい銀色に光り、対岸の長浜市街あたりの水際まで望める。

時計廻りで慎重に尾根をぬって主尾根に出る。最後は、剣の峯にしては幅の広い斜面を登り切って、杉林のなかに2等三角点「二の谷山」に着く。頂上付近は



平凡な台地だが、北側（右）は崖状で谷は相当深く、点在するシヤクナゲの枝先はうかがえても、根元の岩は見えない。この深谷をのぞくように右へ移動するこのあたりからは、樹間から赤岩岳と湖北武奈ヶ嶽との稜線が見え、その背後には、右に大御影山を含む近江坂が、左の肩には三十三間山がうかがえる。

やがて、杉林を抜けると鉄塔下に出た。南には、意外に近く比良の武奈ヶ岳が望めるし、伐開された反対の北側には、大パノラマの湖北武奈ヶ嶽（武神嶽）が堂々とそびえて、赤岩岳と尾根を連ねた稜線が美しく展開していた。

ここからは、関西電力の巡視路を歩く。両サイドが伐開されて明るく広々とした稜線上に続く巡視路からは、常に北側の湖北武奈ヶ嶽が望める展望台の連続で、想像していたよりもよい道だった。あと四つある鉄塔下からは、高度が下がるにつれて雰囲気の変わる山並が望めた。

五つ目の鉄塔から左下へ杉林に入る。10回ほどつづら折れする山道は樹木が直射日光を防いでくれていて涼しい。寒風川沿いにある「杉谷・楡川林道」に降り立ち、S字形に山裾をめぐる。や

がて寒風川と分かれ、落合から別の杉谷川の上流に向かう。谷底にくだって橋を渡り、落石の多い林道を上り下りして、国道303号線に出る。

右へ、国道を避けて杉山集落の中道を歩き、家並が途切れた、地蔵を祀る小川脇の石段を上って、近江杉山のJRバス停に着く。

▲コースタイム▼

JR近江今津駅（バス20分）保坂（20分）	水坂峠下（10分）鉄塔下（40分）	4 8 6
1時間10分	二の谷山（30分）	5 6
0分（30分）鉄塔下（30分）	最北の鉄塔下（25分）	林道（25分）
国道（15分）	近江杉山バス停（25分）	近江今津駅
△地形図V2万5千＝熊川・養庭野		
（問い合わせ先）		
今津街観光協会	0740(22)21008	
JR近江今津駅	0740(22)16661	
JRバス今津	0740(22)21336	
近江タクシー	0740(22)01006	

## 鋭く尖った山 蕎麦粒山

健脚コース(★★★)

金谷 昭

「奥美濃の山々」は、複雑に入り組む深い谷を刻み込んで人里離れている。山の多くは激やぶにガードされ、一般登山者を拒み続けてきた。しかし、最近では林道やダム開発で一部の山にも登山路が付けれられ、門戸が開かれてきた。

そのなかにあつて蕎麦粒山は、そのすばらしい鋭峰から奥美濃の三大名峰の一つ(他に能郷白山・屏風山)として挙げる向きが多い。約20年前に旧坂内村(現揖斐川町)が土地地区画調査のために切り開き、それを利用して登られるようになった。

蕎麦粒山の山名由来は、その鋭く尖った山容が蕎麦の実を立てかけた形に似て

いることからきているが、旧徳山村では「そばつばやま」と呼ばれていたがダム建設で廃村となった現在は、旧坂内村の「そむぎやま」が一般的である。

登山口の広瀬には、近鉄揖斐川駅から広瀬行きのバス便はあるが便数は少ない。マイカーかバス便で行き、前夜広瀬にて宿泊とならざるをえない(旅館・民宿あり)。

旧役場から200m程西に行き、大谷川の手前を右折し「遊ランド坂内」を過ぎ、大谷川の右岸沿いの狭い舗装林道を行く。途中で左岸に渡ると、西穀谷出合で林道は広がって終わる(マイカーの場合10台程駐車可能)。

林道は平成6年頃までは大谷川沿いにさらに奥にのびていたが山崩れで崩壊し、歩道部分を残して自然に還っている。林道終点からいきなり山崩れ箇所に出合い、その手前で道は分岐する。

右の山腹へ登る道は途中でロープのある滑りやすい急峻なルートで、登りつめると旧林道の折り返し部分の手前に飛び出す。左の道は山崩れ箇所を横断して旧林道をたどる。時間は多少かかるがゆるやかなルートである。さらに林道跡を行

が望める。ここからは傾斜はゆるむが、さらに苦しい急登をせねばならない。

右に展望のよい露岩が出てくると、小蕎麦粒山との分岐となる。蕎麦粒山が威圧するように大きく立ちはだかる。

頂上へは、右の小蕎麦粒山の道を見送って尾根道を西に向かう。いったん高度1000m程くだり登り返さねばならない。踏み跡はしっかりしているが頂上近くを除けば先程のような急登はないものの、ササや灌木がわずらわしくなる。最低鞍部から西に向かってゆるやかに登って行き、左(南)に振る。わずらわしいシャクナゲやナナカマドを過ぎ分けると、ロープが出てきて最後の急登となる。登り切った頂上台地を西にゆるやかにたどれば、待望の山頂に飛び出す。

頂上は二等三角点(1296.71m) 点名蕎麦山)を中心としたシャクナゲ等の低灌木に囲まれた小広場。鋭峰だけに遮るものない360度の大展望。東に五



蕎麦粒山付近略図



湧谷山より蕎麦粒山

くと危険な山崩れのトラバース箇所が出てくる。ロープが張られているが慎重に通過すれば、以後林道跡は急登や危険な所は無く自然に帰り、初夏ならタニウツギ等の草木の花のトンネルを愛でながら平坦部をどんどん奥に進んで行く。途中右山腹からの流を見てさらに行くと、草むらとなった旧林道終点広場となる。

ここからは以前からの登山道となり、なおも左岸を行く。しばらくの間は杉植林を過ぎるが、やがて好ましい巨木の原生林風景が出現する。すぐに対岸への徒渉点(テープ有り)となり、渡った所で五蛇池山(1147.6m)との分岐点となる。

左の分岐に入り尾根に取り付く。いよいよ本コース最大のクライマックス、小蕎麦粒山の肩近くの稜線から分岐する原

蛇池山、東北に大きく能郷白山、北にピラミダルの冠山から金草山・笹ヶ峰・三周ヶ岳・高丸、西に横山岳・金鷲岳、南に天狗山など奥美濃の山々が一望である。

下山は往路を忠実にくだればよい。林道終点の西俣出合から振り返り見上げると、我々を見下ろす蕎麦粒山には達成感と充実感が湧いてくるであろう。

(平成17年6月4日例会にて歩く)

### ▲コースタイム▼

広瀬(35分) 遊ランド坂内(25分) 林道終点・西俣出合(1時間) 旧林道終点(10分) 徒渉点支尾根取付(1時間40分) 稜線分岐(1時間) 蕎麦粒山(50分) 稜線分岐(1時間10分) 徒渉点(1時間5分) 林道終点・西俣出合(55分) 広瀬(間い合わせ先)

揖斐川市坂内総合支庁舎

0585(52) 2111

名阪近鉄バス 0585(22) 1207

(宿泊)

港屋旅館 0585(53) 2545

民宿清流荘 0585(53) 2506

特選コースガイド①

鈴鹿

一統・近江側から登る鈴鹿の山々  
長大な尾根縦走

杉峠から銚子ヶ口へ

中級コース(★★★)

磯部 純

杉峠から銚子ヶ口までの長い尾根縦走ルートは、草川啓三氏の『鈴鹿の山を歩く』や本誌51号に載っているが、全ルートが紹介されていなかったり、冬の縦走記録で戸惑うことも多い。岩野さんの例会ではこれまでこのルートを三回歩いているが、杉峠から出発したのは二回である。このルートを歩くには出発点と下山点が続いているので、置き車が必要になる。また距離が長いので、日の長い季節を選んで行くほうがよい。

紅葉尾神崎川橋広場へ置き車をして、甲津畑奥の旧藤切谷林道入口に移動する。ここに駐車して、藤切谷沿いの林道を上流へと歩く。この甲津畑から藤切谷脇を

上流へのびている道は「千種越」といわれ、日野の甲津畑から杉峠、根の平峠を越えて、朝明から伊勢側の四日市に越える古道である。今は登山者しか歩かなくなったが、鎌倉時代以前から、商人達が近江と伊勢の間を往来し、織田信長や延暦寺の僧たちの追害にあった浄土真宗中興の祖である蓮如上人も歩いた、由緒ある道だといわれている。

そんな道を40分も歩くと桜地蔵。通常はここでひと息入れるのだが、先は長いので大シデまで頑張ろう。橋を渡るとアケビダンの道を左に分けて山道に変わる。杉の林を通り過ぎ、山腹をぬうように行くと、やがて杉林に入り、大峠へ向かうツルベ谷道を見る。その先で道が左へ廻り込むと、やがて奥ノ畑谷の分岐。橋を渡ると道は広くなり、すぐ左手に蓮如上人の旧跡がある。ここから2000円で、昔の塩の集積場所であった塩津で、手前に樹齢何百年という大シデの古木が立っている。ここで休憩する。

この先の北谷から方向を右に変え、カラ沢を登って高捲きからくんだり、谷を渡るとその上は向山鉾山跡。道の行く手には、数百年も時代の流れを見てきたナラ

杉峠北の草原尾根から雨乞岳を仰ぐ



の巨木が何本も立ち並び、鈴鹿の中でも特筆すべき情緒ある地域といえよう。再び、谷を渡って左岸の斜面を登ると谷が広がり、やがて左手へトラバースするように登って行くと、杉峠へ着く。

峠には名前の通りに杉の古木が一本立っている。峠から東に御在所岳が、西には木の間に綿向山が見える。

杉峠から北の尾根を登る。斜面がゆるやかなると、以前ササ原であった尾根は一変し、草原状の広場になって、展望

い高原的ムードを漂わせている平坦地のイブネ。ここでも以前あったササダケはどこかに消えてしまっている。

岩野さんのルートは、ここから北へ尾根をくだり、佐目子谷源頭の熊ノ戸平を銚子へ登るのだが、ササが消えている今は、イブネ東端から尾根通しに銚子へ歩くほうが楽だ。ただ、ガスが発生している時は広くて迷いやすいので、地形図をよく読んで歩かなくてはならない。イブネ東端から尾根を北へくだり、クラシをかすめて西方へ方向を変えて銚子へ向かう。山頂で、歩いてきたイブネの草原を眺めながらの昼食は最高である。

一つ東のピークから北へ向かうとすぐ

転げ落ちそうな急勾配の細尾根をくだる。足元にはイワウチワ・ショウジョウバカマが咲いているが、それらを見ている余裕は全くない。慎重に足元を確かめながらくだると、両側がキレット状に切れ込んでいる鞍部。東には大陰のガレを見せている釈迦ヶ岳が、西にはクイジヨウが間近に見える。

は良い。雨乞岳はあまりに近過ぎ全容をつかめないが、西には綿向山とイハイガ岳、東には国見岳と御在所岳、その右手に鋭峰鎌ヶ岳が頭を覗かせている。佐目峠へは、昔はここから捲き道があったが、今は消えて無く、杉峠の頭まで登って右手へ曲がり、シロモジの林をくだって佐目峠へ向かう。ここも以前にはササダケが腰以上あって、峠の位置がわからなほどだったが、今ではササは消えてしまっている。佐目峠は佐目子谷から神崎川源流に乗り越す峠だが、峠の目的ははっきりとせず、鉾山関係の人達が使った峠だと考えられている。峠から北東へ急斜面を登れば、1160メートルもあるとは思えない



鞍部からしばらくは細い尾根やコブを乗り越え、その先の細尾根の高みに来ると、行く手に二つのピークがそびえ、その間に深谷のガレ場を見る。側の木には「深谷山 1022」と刻まれていたが、岩野さんは「このピークは深谷山ではない」と言っている。西尾氏の『鈴鹿の山と谷』に「深谷山は独標1022の辺りの山」と間違えて書かれたことから、最近ではエリアマップにもこのピークを深谷山としているが、「地元佐目と呼んでいる深谷山は、佐目子谷支流の深谷源頭にあるガレ場北のピークを指す」とのことである。歩いてみてわかるが、山というより尾根の盛り上がりと言ったほうが当たっている地点でしかなかった。

1022メートルからいったんくだり、広い尾根に取り付く。あたりは雑木の二次林でブナの美しい疎林が広がっている。急斜面を登るとピークの下に舟形をした窪地があり、太いブナが倒れている。ここが「舟窪」と呼ばれている所で、休憩には最適。ここからガレ場の上を通過して深谷山へ向かう。両側が切れ落ちた細い尾根の歩きは思った以上に気が抜けない。やっとなガレ場を過ぎ、ゆるい疎林の尾根



# 沿線ハイキングガイド

近鉄 京阪 阪急 南海 神鉄 山陽電車 叡電・京福  
公開ハイク 歩け歩け大会 文学散歩 歴史散歩 その他

## 近鉄

▽陸奥かかれハイキング「高取・古墳と城跡めぐり」 11月3日(日) 雨中止(集合) 飛鳥駅9時40分〜10時10分(コース) 飛鳥駅→マールコ山古墳→東明神社古墳→吉野山古墳→光雲寺→越智氏居城跡(約10km) 参加自由・無料(拝観料等は別途) 近鉄大阪イベント係06(6775) 35566

▽奈良交通所長お薦めフリーハイキング「葛城古道コース」 11月5日(日) 小雨決行(集合) 御所線・忍原駅9時30分〜10時(コース) 忍原駅(バス) 風の森バス停→高鴨神社→高天彦神社→極楽寺→長柄公園→一言主神社→九尾寺→六地藏→猿田川→近鉄御所駅(約10km) 係員は同行しません(参加自由・無料(バス代510円、拝観料等は別途)、奈良交通葛城営業所0745(63) 2501

▽駅長お薦めフリーハイキング「ススキと風の青山高原へ」 11月6日(日) 雨決行(荒天の場合は11月12日(日)に延期)(集合) 西青山駅8時50分〜10時50分(コース) 西青山駅→東海自然歩道→三

▽健脚向\*係員は同行しません(参加自由・無料、伊賀神戸駅0595(38) 1304

▽奈良交通所長お薦め登山「フナ林の薪岳と明神平登山」 11月11日(日) 雨中止(中止の場合は11月18日(日)に延期)(集合) 大和上市駅8時〜8時30分(コース) 大和上市駅(バス) 東吉野村妻谷→駒岳→明神平→大又(バス) 大和上市駅(約9km) 健脚向(バス代往復3300円\*定員200名、申込先) 吉野営業所0747(52) 4101

▽駅長お薦めフリーハイキング「絶景の高安山ハイキング」 11月16日(日) 雨決行(荒天の場合は11月30日(日)に延期)(集合) 信貴線船部川駅9時30分〜12時(コース) 船部川駅→歴史民俗資料館→心合寺山古墳→古墳学習館→玉祖神社→水呑地蔵→高安山レジャー→高安山駅(約10km) 健脚向\*係員は同行しません(参加自由・無料(拝観料等は別途)、近鉄八尾駅0729(22) 3753

▽奈良交通所長お薦めフリーハイキング「紅葉の鞍山神社と飛鳥路を歩く」 11月19日(日) 小雨決行(集合) 桜井駅南口9時〜9時30

分(コース) 桜井駅(バス) 鞍山神社バス停→鞍山神社→御破山→気都和原神社→石鏡谷古墳→飛鳥板蓋宮跡→飛鳥寺→山田寺跡→安倍文殊院→土舞台→桜井駅(約12km) 健脚向\*係員は同行しません(参加自由・無料(バス代460円、拝観料等は別途)、榛原営業所0745(82) 2201

▽近鉄万歩ハイキング「紅葉の生駒山 暗越え街道を往く」 11月20日(日) 雨中止(集合) 枚岡駅9時30分〜10時10分(コース) 枚岡駅→枚岡神社→(額田谷)→天龍院(長尾の滝)→慈光寺→なるかわ園地→暗越え街道→鶴林寺→竹林寺→一分駅(約14km) 参加自由・無料(拝観料等は別途) 近鉄大阪イベント係06(6775) 35566

▽駅長お薦めフリーハイキング「大ノラマ紅葉の生駒山(アタック)」 11月23日(日) 雨決行(荒天の場合は12月2日(日)に延期)(集合) 石切駅南改札9時30分〜12時(コース) 石切駅→辻子谷(仏群興法寺)→生駒山→宝山寺(生駒聖大)→生駒駅(約7km) 健脚向\*係員は同行しません(参加自由・無料(拝観料等は別途)、瓢箪山駅0729(81) 2144



縦走路から見る天狗若

を登ると尾根分岐。深谷山はその北20分のピークである。このピークを踏んで尾根分岐まで戻り、西へ尾根をくだる。ブナ・ミズナラ・リョウブの立ち並ぶ雑木の疎林だった。ゆるく尾根をくだると鞍部へ降りるが、大峠は一段上の鞍部。峠にはアセビの花が満開だった。

大峠から西へくだると、雨乞いや御神明信仰に関係した鈴鹿一大きい池、水舟の池がある。あまり時間がかからないので一度は見ておくのがよいだろう。大峠から目の前の標高点1067mを越えて、登り返すと銚子ヶ口西峰。西峰からいったく東へくだり、尾根を北へ向かうと鞍部があるが、ここが佐目の塔尾神社の古文書にあった「大嶺」で、佐目から佐目子谷を通過して、拝坂尻、風穴谷、チノス谷を経て、御神明へ通った参拝

道の途中の峠である。この大峠からすぐ北に見える天狗岩まで、今でも昔の道が残っているが、一部消えた所もあってわかりにくい。

旧大峠から北東へ登り、黒尾山への分岐、銚子ヶ口南峰への分岐を過ぎ、斜面をいったん北へくだり、登り返すと銚子ヶ口三角点。展望は全く無い山頂である。標高は1076・8mで、点名は「佐目」3等三角点である。前回この山頂を訪れた時、「銚子ヶ口岳」と書かれた標識があり、山名「銚子ヶ口」に「岳」を付ける疑問を新ハイ誌に書いたことがあったが、その標識は撤廃されていた。ここから東峰までは5分程の距離。

銚子ヶ口東峰は展望が良く、あたりの景観に酔いしれるほどである。ここに立つと南鈴鹿は別にして、ほぼ鈴鹿の北にある全山を一望できる。輪郭だけの伊吹山に始まり、霊仙山・御池岳・藤原岳・天狗堂・静ヶ岳・電ヶ岳・三池岳・釈迦ヶ岳・国見岳・御在所岳が連なり、すぐ目の前には不老堂・水木野がクッキリと見えている。鎌ヶ岳は見えなかったが雪の残った雨乞岳の手に、朝踏んできた杉峠の頭・イブネ・銚子も霞んで見えて

観光バスなら 確実第一の  
**太陽観光開発(株)へ!!**

- ・小型 (20人・24人)
- ・中型 (28人乗り)
- ・中2階 (45人乗り)
- ・大型 (55人・60人)

いずれもサロンカーからデラックスまで

**スキーバスもあります**

〒578-0971 東大阪市溝池本町1-20 オカダビル4F  
電話 06(6745) 3911・FAX 06(6745) 3983  
夜間・電話 06(6242) 2371・FAX 06(6242) 2372

いた。あんな遠くから歩いてきたと思うと感慨深いものがあった。

ここからは、一般道を紅葉尾へ下山する。  
(平成17年4月17日歩く)

△コースタイム▽  
旧藤切林道入口(1時間15分) 大シデ(1時間15分) 杉峠(30分) 佐目峠(15分) イブネ(25分) 銚子(1時間15分) 深谷山(15分) 大峠(40分) 銚子ヶ口(1時間30分) 紅葉尾銚子ヶ口登山口  
△地形図▽  
2万5千1日野東部、御在所山

▽近鉄・南海・朝日合同企画「晩秋の金剛山ハイキング」 11月27日(雨)雨天中止(集合) 河内長野駅9時30分(10時30分)コース  
河内長野駅(バス)金剛登山口―千早城跡―千早神社―楠木塚―園見城跡―乾法輪寺―葛木神社―ちやば園地展望台―(しゃくくなげの路)―ちやばビクニック広場―伏見峠―(念仏坂)―金剛山ロープウェイ前(バス)河内長野駅(約8時)参加自由・無料(バス代、拝観料等は別途)、近鉄大阪イベント係06(6775) 3566  
▽駅長お推しフリーハイキング「古大野・飯降の石仏から東海自然歩道展望の道を行く」 11月29日(雨)雨天中止(集合) 室生口大野駅9時30分(12時)コース 室生口大野駅―古大野―六地藏―飯降の石仏―我長寺―山部赤人の墓―十八神社―橋原駅(約15分)健脚向\*係員は同行しません 参加自由・無料(拝観料等は別途)、橋原駅0745(82) 0021  
▽近鉄万歩ハイキング「伊勢本街道から登山の奇岩を訪ねて」 12月4日(雨)雨天中止(集合) 橋原駅

9時30分(10時)コース 橋原駅(バス)高井バス停―千本杉―たかふるさと館―平井大師―観音社―緑の立石―カサトの寝石―内牧西口バス停(バス)橋原駅(約10分)参加自由・無料(バス代、拝観料等は別途)、近鉄大阪イベント係06(6775) 3566  
▽近鉄万歩ハイキング「幸福祈願鳥見山公園から長谷寺への道」 12月11日(雨)雨天中止(集合) 橋原駅9時30分(10時)10分(コース)橋原駅―(旧伊勢街道)―鳥見山公園―(東海自然歩道)―高東城跡―初瀬ダム―長谷寺―長谷寺(約12分)参加自由・無料(拝観料等は別途)、近鉄大阪イベント係06(6775) 3566  
▽駅長お推しフリーハイキング「聖徳太子ゆかりの地から竹内街道(若尾峠)を行く」 12月23日(雨)雨天中止(集合) 上ノ太子駅9時(12時)コース 上ノ太子駅―孝徳天皇陵―竹内街道歴史資料館―若尾峠―祐聖寺―兼堂―石光寺―當麻寺―磐城駅(約11分)一般向\*係員は同行しません 参加自由・無料(拝観料等は別途)、

古市駅0729(56) 0016  
▽京阪電車  
▽スポンジファミリーハイキング「浜大津から立木観音へ」 12月4日(雨)雨天中止(集合) 大津港前広場(浜大津駅下車約5分)9時30分(10時)コース 大津港前広場―琵琶湖文化会館―鶴所城跡公園―瀬田唐橋―石山寺前―南郷公園―立木観音(約15分)一般向 参加自由・無料 京阪電車ハイキング担当06(6947) 3702  
▽叡山電車  
▽叡電ハイキング「瓜生山・八幡」 11月16日(雨)19日(雨)雨天中止(集合) 一乗寺駅9時30分(10時)コース 一乗寺駅―叡谷山不動院―瓜生山―大鳥居―水炊対陣跡―赤山分岐―八幡比叡山口(約10分)一般向 参加自由・無料 叡山電車営業課075(702) 8111  
12月4日(雨)雨天中止(集合) 貴船口駅9時30分(10時)コース 貴船口駅―貴船神社―奥貴船橋―(アツガ谷)―旧花背峠―扶桑橋―くらま温泉―鞍馬駅(約11分)一般向 参加自由・無料 叡山電車

営業課075(702) 8111  
▽叡電ハイキング「貴船山」 12月14日(雨)17日(雨)雨天中止(集合) 貴船口駅9時30分(10時)コース 貴船口駅―大岩分岐―貴船山―樋ノ水峠―夜泣峠―二ノ瀬駅(約9分)一般向 参加自由・無料 叡山電車営業課075(702) 8111  
▽江若交通  
▽こらじやくMtハイキング「精街道を歩く 紅葉の百里ヶ岳」 11月10日(雨)雨天中止(集合) JR安曇川駅9時5分(コース)安曇川駅(バス)小入谷峠―百里新道―シチケ峠―古里ヶ岳―根来坂―遊尾地蔵―小入谷(バス)安曇川駅(約10分)健脚向 電話申込制(1ヶ月前から)参加費4000円(バス代含む、申込先)江若交通本社077(573) 2701  
▽神戸電鉄  
▽新湊川ウォーク「豊かな自然と壮大なダムや歴史ある湊川隧道」 11月3日(雨)雨天中止(集合) 鈴蘭台駅下車菊山登山口10時(コース)鈴蘭台駅―石井ダム―鳥原野

水池―新湊川沿い―堂下山公園―長田橋―地下鉄長田駅(約9分)一般向 参加自由・無料 神戸電鉄グループ総合案内所078(592) 4611  
▽駅長ハイキング「逢山峡・湯桶谷コース」 11月5日(雨)雨天中止(集合) 有馬口駅10時(コース)有馬口駅―逢山峡―湯桶谷―有馬温泉駅(約8分)一般向 参加自由・無料 神戸電鉄グループ総合案内所078(592) 4611  
▽火曜ハイキング「奥池・甲山コース」 11月8日(雨)雨天中止(集合) 有馬温泉駅―車庫道登山口9時30分(コース)有馬温泉駅―環雲寺―土樋別荘―奥池―葛林寺―甲山―飯急川(約17分)健脚向 参加自由・無料 神戸電鉄グループ総合案内所078(592) 4611  
▽神鉄ハイキング「有馬温泉周遊紅葉狩りハイキング」 11月13日(雨)雨天中止(集合) 有馬温泉駅10時(コース)有馬温泉駅―環雲寺公園―魚屋温泉―鼓ヶ滝公園―妙見寺―有馬温泉駅(約7分)一般向 参加自由・無料 神戸観光事業部078(521) 0321  
▽きたきたたよくばりハイキング「修法ヶ原・森林植物園コース」

11月19日(雨)雨天中止(集合) 鈴蘭台駅下車北区役所前10時(コース)鈴蘭台駅―水原池前―修法ヶ原―再度公園―市立森林植物園―山田道―谷上駅(約9分)一般向 参加自由・無料 神戸電鉄グループ総合案内所078(592) 4611  
▽火曜ハイキング「紅葉谷道・雨ヶ峠コース」 11月22日(雨)雨天中止(集合) 有馬温泉駅下車ロープウェイ有馬駅前9時30分(コース)有馬温泉駅―七曲り―雨ヶ峠―十文字山―阪急御影駅(約15分)健脚向 参加自由・無料 神戸電鉄グループ総合案内所078(592) 4611  
▽神鉄ハイキング「鳴川谷支流と黒甲越ハイキング」 11月27日(雨)雨天中止(集合) 5時30分(コース)黒甲越―天下辻―大池駅(約13分)一般向 参加自由・無料 神戸観光事業部078(521) 0321  
▽火曜ハイキング「津川道・大鏡道コース」 12月6日(雨)雨天中止(集合) 谷上駅10時(コース)谷上駅―炭ヶ谷―マムシ谷―穂高湖―徳

川道―分水嶺―再度公園―大帥道―地下鉄泉丘前駅(約14分)健脚向 参加自由・無料 神戸電鉄グループ総合案内所078(592) 4611  
▽神鉄ハイキング「千劫水源池と大岩岳ハイキング」 12月11日(雨)雨天中止(集合) 三田本町駅9時30分(コース)三田本町駅―堀田八幡宮―牛野峠―千劫水源池―大岩岳―JR道場駅(約12分)一般向 参加自由・無料 神戸観光事業部078(521) 0321  
▽駅長ハイキング「百丈岩コース」 12月17日(雨)雨天中止(集合) 田尾寺駅10時(コース)田尾寺駅―平田配水場―百丈岩―神鉄道場駅(約8分)一般向 参加自由・無料 神戸電鉄グループ総合案内所078(592) 4611  
▽山陽電車  
▽山陽ハイキング「お旅山・小富士山ハイキング」 11月6日(雨)雨天中止(集合) 妻籠駅下車(東0・コース)松原八幡宮お旅山 10時(コース)松原八幡宮お旅山 10時(コース)麻生八幡神社―小富士山―中村公園―白旗の宮(約10分)健脚向 参加自由・無料 須磨浦遊園地(ハ

イキング係078(731) 2520  
▽山陽ハイキング「粟花のじぎく八家地蔵ハイキング」 11月20日(雨)雨天中止(集合) 大塚駅下車(大塚公園)10時(コース)大塚公園―馬坂峠―牛谷―西信寺―淡神社―八家地蔵―木庭神社―八家駅(約10分)一般向 参加自由・無料 須磨浦遊園地ハイキング係078(731) 2520  
▽山陽ハイキング「鉢伏山・梅尾山ハイキング」 12月4日(雨)雨天中止(集合) 須磨浦公園駅下車(須磨浦山上展望閣前広場)10時(コース)展望閣前―旗原山―おらが山―梅尾山―行者の滝―天井川上流河原―離宮公園―須磨寺駅(約8分)一般向 参加自由・無料 須磨浦遊園地ハイキング係078(731) 2520  
▽山陽ハイキング「高取山から菊水山ハイキング」 12月18日(雨)雨天中止(集合) 西代駅下車(山陽電車本社駐車場)10時(コース)本社前―高取山―丸山町―鶴橋―菊水山―鈴蘭台車庫前―神鉄鈴蘭台駅(約10分)健脚向 参加自由・無料 須磨浦遊園地ハイキング係078(731) 2520

# やせらぎ

## 題字・小林玻璃三

2万5千回「須田」の△法沢山(久美浜町・出石町境界)へ、車2台で行き小縦走を試みた。奥小野から東へと進むとやがて分岐が出てくる。左が駒返峠への道で右が法沢山への道だ。右手の道は荒れていたが、分岐から1.5以上も入った所に広場があり「法沢山登山道」の道標もあった。

ここから登り、縦走しての下山予定地の駒返峠に車をデポしようとして分岐に戻り、V字にターンした所で小生がうかつにも側溝に脱輪させた。左の前輪と後輪を共に落としたのだ。

4輪駆動だからアクセルをふかせば脱出できると思いきや、グムの焼ける匂いと油種不明の

匂いがしてくる。ジャッキでも男性6人の人力でも上がらなかった。携帯もつながらず小野まで降りて民家からJAFに連絡した。JAFは前回も同じ所で脱輪車を引き上げたそうで、また駒返峠には車で入れないことがわかり、往復コースに変更した。

山頂はやや広く3等点名法沢643・551。居母山・東尾尾山・西尾尾山・江笠山・高竜寺ヶ岳が見られ、遅い食事となった。(向日市 湯浅康夫)

民の憩いの山。今朝もお婆さんやご老体の夫婦が登っていた。小鬼の展望、赤鬼の展望、白鬼の展望を経て山頂まで14000分、1時間余で登れる。足場も良いし、少し急な所はお助けロープもある極めて安全な山道である。

いつものように山頂でゆっくりのモーニングと泡を嗜む。登山者と話しながら一足先に降り始める。下りに差しかかったとき、なぜかスッと両足をすくわれたような感じで膝が浮いた。そして尻より先に背を打った。ストックを持っていないが、右ザックのタッシュに入れた1リットルのペットボトルが右脇後ろに当たり、嫌な感じの痛みを感じる。下山時は痛みもなく、下山後も押さえればすこし感じる程度で打ち身かなの思っていた。不思議なのは下山時に聞いた太鼓の音で、鬼太鼓カリズムが軽やかだ。下山すれば太鼓の音はせず、登山者に聞けば太鼓など聞かえなかったと言う。なぜ我だけに聞かえたのか不思議だ。思うに、鬼どもが我の膝を持

ち上げて打ち付けた感じを受ける。天誅を受けたのかなあ? 河野海岸に出て、琵琶湖今津の湖畔に出る。乾きをヒアアで癒し、今夜も泊まるつもりが背が痛み、起き上がれないで咳をすれば強烈に痛む。

帰って、土・日と様子をみる。痛みは増し、医者にいけば完全に骨折していると言う。右肋骨十番目の曲がり角の骨でかなり強く打ったとの見解。酒・運動・散歩・風呂厳禁という酷なものであった。

山行予定はすべてキャンセル。家族の者は好い葉だと言う。好きなこととして警告なのだ。思うに、悪いことばかりでは無いなあと思ふ。

一 まず朝昼夕と飲んでいた酒が止まった。頭がスッキリしてきた。鼻血も時々出ていたのが出なくなる。アル中から脱却するだろう。

二 ヒマつぶしに本を読む。これから訪ねようと思う山の検索をする。

三 ナビゲーションを買い、行き先をシュミレーションする。治ったら出かけるぞ!

四 我が身の痛みは、人様の痛みを知るようになる。もうジジイなんだ慎重にしないで。

(鈴鹿市 筒井克治)

6月、地元ハイキングクラブのメンバーと郡上の白尾山を歩きました。鷲ヶ岳から南にのびる山並のドン尻に位置し、標高1613分のマイナーな山です。

少し前までやぶ山で、麓のスキー場から積雪期に登られていたのですが、2年前、道が開かれました。

当日は、ちょうど地元公民館の「自然に親しむトレッキング大会」が開催されており、勤められるまま、参加者に交じって歩きました。ゆっくり歩いていくつもりなのに、背後から「さすがに山を歩いている人は速い」などと言われてソワソワしたり、また、シラカバと信じ込んでいるお爺さんに黙って居るわけにもいかず、控え目にダケカンバだと知らせたり、どこか落ち着かないものがありました。

せっかく「自然に親しむ」と銘打ったのなら、参加した地元

の子供たちに、もう少し山の自然に親しませる工夫がほしいと感じたのですが、山頂に到着してびっくりです。なんと、立派な方位盤が設置されていたのです。

方位盤は御影石製の円盤状で、山の形や標高を刻んだ青銅盤を埋め込み、御影石でつくった円筒状の台座にのっていました。台座の内部には、子供たちが選んだ名前入りの玉石を詰め込んであります。

公民館の館長さんは、この山の見晴らしはこの辺りの山でも一番だ、と感激も新たな様子でした。

見晴らしの良い山なら、隣の鷲ヶ岳、向かいの大日ヶ岳と、白尾山を超える山はいくつもあのですが、多数の参加者に満足そうな面持ちの館長さんの笑顔を見て、そんな理屈などはどうでもよくなるのです。まさに「おらが山」。地元民から愛される白尾山は、幸せな山だと思いました。

(各務原市 鷺見守康)

7月上旬、梅雨の中休みで蒸

### ○新ハイ関西サービステーション

名神・二枚山 小白山 大白山 甲子園 三枚山 1名でも最寄りの駅まで送迎(要予約) 真天原谷と西尾尾山

福島・二枚温泉  
日観連 大和館

〒9562106  
福島県福島市天栄村二枚温泉  
福島県福島市天栄村二枚温泉  
F 0248-8412705

富士登山・京五湖  
東海道の自然歩道  
(石川山・ハリモミ峠林)

三國山の麓  
ペンション コットンテール  
〒40110502  
山梨県南都留郡山中湖村平野  
電 055516518515

本宮峠・湯原峠・中津川・松尾峠分岐点  
朝雲・岩屋峠あり  
JR中央線山梨駅下車徒歩10分  
バス20分登山口下車徒歩10分時間

山小屋 福ちゃん荘  
山梨県山梨市上原町2332  
電話(自宅) 0555313314639  
(山小屋) 0390141792115

尾瀬 平ヶ岳(尾瀬池)内りの山小屋  
尾瀬二山(尾瀬池)内りの山小屋  
露天風呂と手打そばの  
清四郎小屋  
〒9461000  
新潟県新潟市東区(奥山山)  
電話 09501255810028  
期間外(11月14日)  
025791215026

ハイカートの宿・池の平温泉  
ナガサキロッジ  
百名山を二つ登れる山小屋  
黒沢池ヒュッテ  
〒94912100 新潟県中頸城郡妙高町池の平温泉  
電話 025518512261

休憩食入浴も歓迎  
10名以上マイクropasで送迎  
箱根仙石原温泉  
福 島 館  
〒25010631 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原1339  
電話 04601419041

尾瀬登山ハイキング入山口  
天然温泉で山の疲れを  
水芭蕉の湯  
グイラ風花 (KAZAHANA)  
〒337810411  
群馬県利根郡野田村戸倉445  
電話 027615817051

四季織りなす華やかな園のハイイク  
上高地・乗鞍岳へ、冬はスキー  
けやき造りと味の宿・白樺連  
温泉旅館 けやき山荘  
〒39011500  
長野県南安曇郡安曇村乗鞍温泉  
電話 026319312555

し暑い降水確率の高い日。未訪であった柳生街道を車で走る。こんな天候でも歩いている二、三組に出会う。石切峠付近の路肩に駐車して、芳山の両面石仏を往復し、円蔵寺に参拝後、芳徳寺に移動して一乃石まで歩き昼食。帰路、月ヶ瀬温泉にて汗を流す。

「湯船につかったら右スネから一匹のヒルがはがれ落ち、血が止まらなくて困った。ヒルがいるような観光地に連れて来た」とは女風呂に入った家人の言葉。

芳山でついた可能性大だ。関西人には当たり前のことも知らないが、東海地方の住人は、こんな所にもヒルがいる、いや、いるようになったのかと思われる。前々号の村田氏の文を読んだ感想です。

(名古屋 酒井勝彦)

7月下旬、上高地から焼岳へ登った。台風7号が関東へそれた翌々日だった。すばらしい晴天に恵まれ、北峰頂上(2414m)に立ち、360度の展望を楽しんだ。

そのような私のことを彼は下山家と言う。

その彼に誘われて井ノ口山へ行った。沢筋を離れ斜面を登っているとき、ストックを持っていた手の平がヌルッとした。見るとヒルが一匹手の平でうろうろしている、やられたなと思っただけで視線に出て調べてみると、そこらじゅうにいる。初めてヒルに遭遇した彼はパニック状態で、パンツ一つになって騒いでいる。ザックの上にも何匹かいたので上から落ちてきたのだろうか、憎きヤツだ。

この憎いヤツも人間の世界で貢献をしているという話を医者から聞いた。事故で切断した指の縫合手術のあと、指先まで血液を通すために指先にヒルを吸い付けさせるのだそうだ。看護師が患者にヒルを預けて立ち去った後満腹になったヒルが逃げ出したというので捜査大作戦網がしかれ、やがて部屋の間で「こんなところにおったワ」との声が上がり作戦終了。血を引きずった跡があったそうだ。今後山へ行った時医療に貢献しているヒ

東方から北西にかけての眺望、即ち沢沢岳・六白山、そして下方の大正池や上高地、その向こうにそびえる明神岳三峰とそれに続く前穂高岳・吊尾根・奥穂高岳・ジャンダルム・西穂高岳などの穂高連峰、さらに左奥遠くに見える槍ヶ岳、左の抜岳、空ヶ岳までを五連写してカメラに収めた。微かであるが、帝国ホテル・西穂高山荘・新穂高ロープウェイ駅も確認できた。眼下の火口湖を見下ろし、最高峰の南峰も近々と眺めたことは勿論である。

山と高原地図「上高地・槍・穂高」を照合し、展望された範囲の広さに一驚する。それらの山々が雲や霞で隠されない日は滅多のない。幸運としか言いはうのない登山だった。前日は頂上は雲で隠されていたし、翌朝も中飯以上は完全に霧に覆われていて焼岳小屋からの再登頂は断念せざるを得ず、結果的にはこの日のみが許された形だったのである。

しかし実に疲れた。標高差(950m)は、槍ヶ岳や奥穂高岳とは比較にならない程少な

たのにと。要因としては、最近にない悪路の登山だったこと、高齢化からくる体力の減退、しばらくのブランクがあげられるが、後二者の影響と考

これまで釜トンネルを抜けて上高地へ入る際、穂岳は私にとって存在を誇示されるのみ山だったが、これからは焼岳展望台、旧中尾峠など、通過したコースも含めて、大正池から焼岳を感懐深く眺めることだろう。

(枚方市 東谷 宏)

友人と2人で山を歩くと、なぜかいつも私が先を歩いている。「おまえ先に歩けよ」と言われて歩き出すのだが、いつのまにか私が先になって歩いていく。風通しのよい所で休憩していると、やがて姿を現した彼は「こんなもの拾ったよ」と言う。見ると、片手に鹿の角を持っていて、「さっさと鹿が落ちていったのだから鹿に返してやれよ」と言うのと、「その鹿探すの大変だな」とか言っているの、またどんだん先になって下りてしま

ルにどのように挨拶したらよいものだろうか。

(大里町 山形 明)

関西百名山完全登頂まで池木屋山と山上ヶ岳が残った。

8月4日に池木屋山を目指すことにした。宮の谷からの登山道は登れないとの情報があり、時間がかかるが明神岳経由で登る計画を友人2人と立てた。

朝5時に起床し、大又林道の登山口に6時に着き、朝食をとって6時20分出発。夜に雨が降ったので水量が多く、明神平まで川を渡るのに苦労した。笹ヶ峰・千石山は無難に歩けたが、赤荒山までは登り下りが激しくて遠く感じた。霧降山からは平坦で助かった。霧降山は行きも帰りも霧がかかっていたのであるほどと思った。

12時ちょうどに池木屋山に着いたが、私は寝れていて昼食がとれなかった。12時30分池木屋山を後にし、17時20分登山口に帰着いた。明神平は行きも帰りも鹿がたくさんいて慰められたが、往復

さわやか信州  
露天風呂 山吹の湯

湯田中温泉 (穂波)

日野屋旅館

〒381-0400 長野県下

高井郡山ノ内町湯田中温泉

0269-333578

標高2000m以上の温泉

湯の丸高嶺自然休養林

ハイキングにXCスキー

高 峰 温 泉

〒384-0000

長野県小諸市高峰高原

0267-252000

ハイキングにノースキーにノ

志賀高原 石の湯ロッジ

バス 熊の湯駅平床下車

0269-342421

東京本社・東京都新宿区新宿3

120-15(新光2ビル)

03-3341-0211

塩の道 千国街道

百八十七体「観音原」

ホテル

白馬ブランドシエ

〒399-9300

長野県北安曇郡白馬村いわたけ

0261-724452

八ヶ岳南麓北横走の中心地。高山植物の宝庫。樹園地・水浴・トイレ・味いな名物料理「根ストリップ」美味しい名物料理「根ストリップ」

お問い合わせ先

〒391-0813 (SHIC) 小原

長野県小原市2472 小原 勇夫

0261-721272 小原 勇夫

0261-721279

〒391-0813 (SHIC) 小原

長野県小原市2472 小原 勇夫

0261-721272 小原 勇夫

0261-721279

〒391-0813 (SHIC) 小原

長野県小原市2472 小原 勇夫

0261-721272 小原 勇夫

0261-721279

〒391-0813 (SHIC) 小原

長野県小原市2472 小原 勇夫

0261-721272 小原 勇夫

0261-721279

〒391-0813 (SHIC) 小原

長野県小原市2472 小原 勇夫

0261-721272 小原 勇夫

0261-721279

〒391-0813 (SHIC) 小原

長野県小原市2472 小原 勇夫

0261-721272 小原 勇夫

0261-721279

〒391-0813 (SHIC) 小原

長野県小原市2472 小原 勇夫

0261-721272 小原 勇夫

0261-721279

〒391-0813 (SHIC) 小原

長野県小原市2472 小原 勇夫

0261-721272 小原 勇夫

0261-721279

〒391-0813 (SHIC) 小原

長野県小原市2472 小原 勇夫

0261-721272 小原 勇夫

0261-721279

〒391-0813 (SHIC) 小原

長野県小原市2472 小原 勇夫

0261-721272 小原 勇夫

崖生生まれし天の高みまで  
8月7日 美作角ヶ山  
ヤブを滑り来て傷だらけの腕に  
もう一度抱きたい三角雉よ  
8月11日 金剛山妙見谷  
ミルキーウェイ燦めく星のよう  
岩煙草光る谷をさかのぼれ  
(吹田市 木村太郎)

山野行短歌  
人生は 悲哀に満ちている故に  
そを忘るため 山野を歩く  
佐和山に桜咲くなり 盛りなり  
ものふも見し 山桜花  
青葉越え 狭霧に浮かぶ葎手毬  
白蝶群の輪舞の如し  
枇杷の枝茂るトクンの厚根  
翼ある者らの食卓となりぬ  
畦の中 潜む四羽の鳥の雛  
田の草摘む手 思わず止まる  
幼き日 遊びし社に咲き続く  
星夜の銀河 常盤露草  
螢火の二つ燃え行く道 寂し  
鳩の声すらせぬ夜なれば  
かりかりと蜜蜂を喰む垣屋瓦  
そを見届くは 吾のみなりや  
貴女への思い溢れて見せたくて  
笹百合の色 カメラに収む  
河骨の花開く時 流れには  
虹色の服 拾遺見ゆ

足を向けることなく過ぎてしまっ  
た。  
今年早々に入院騒ぎを経験し、  
ドクターストップでハードな登山  
はできなくなつた。ハイキング  
ならOKとの許しを得て里山  
を歩くことになり、身近な比較・  
奥比叡あたりを歩いていて、新  
ハイの背標には「えいっ比叡山」  
と一笑いそれだが、歩いてみ  
ると今まで見向きもしなかった  
山域だけに驚かされる事が多く、  
こころざしは退屈しなく  
てすみそうだ。  
ドライブウェイを離れると、  
思った以上に山深く静かである。  
遊覧車側からはアプローチが長  
く、また、比叡山は車で行くも  
のと思われているためだろうか、  
歩いて登る人にはまず出会わな  
い。  
人気のない静まり返つた山道  
を歩いていると、山全体に何か  
「靈気」が満ちているのを感じる。  
また、足下には思いもかけ  
ない山野草が花開いて驚かされ  
る。来年の早春にはこの山域で  
「エイザンズミレ」に出会いた  
く、それらしき所を探索する山  
行が続きそうだ。

道訊きし翁は 猪が荷籠ると  
気さくに語り 歩み給いぬ  
古の姿留めし被川  
何時より咲くや この白丁花  
銀梅草 矢筈紫陽花愛でながら  
五代松翁の道徳を想ふ  
姫姿羅の散り敷く道を稲村へ  
涼風に乗る 駒鳥の声  
大日の岩峰仰ぎ 稲波に乗り  
叱られし日々 懐しむ  
天上の光求めて登るらむ  
原初の命 宿すが故に  
遠雷に 過去の他山の事故思ふ  
以て他山の石とするべく  
有為転変 世の慣にて 従容と  
行かむと思えど未だ果たせず  
法師蟬 高砂百合の祝典序曲  
秋の到来 高らかに告ぐ  
去年も見し 堤の上の藤袴  
今年も梗せず 咲くを願えり  
(松阪市 藏木伸人)

昨年から今年にかけて、瀬戸内  
海と日本海を分ける兵庫県内の  
分水嶺を歩くチャンスを得た。  
京都府界の篠山市から千種町  
江津峠までの全ては歩けなかつ  
たが、一部を踏査し、河川の現  
状を知ることができた。皆が口  
にする水道水の河川の源流域の

荒れように、目を覆いたくなる  
ような姿も見た。  
台風による鉄砲水や堤防決壊  
の元凶の一つである源流域ベツ  
タリの人造林の間伐が進んでい  
ない。丹波の山の松茸山も放置  
が進み、相道や境界が消えかけ  
ている。  
年毎にササが消えていくのを  
知っていたが、これまでに歩い  
た分水嶺のあまりの変わりよう  
は驚きであった。ササのなかを  
泳ぐように歩いた尾根は、一本  
のササも見ず山肌が露出してい  
たのである。この原因は、温暖  
化で積雪が減り、鹿の生息範囲  
が広がって鹿が増えたからだと言  
われている。他にも、猟師がい  
なくなつたとか、ハンターの高  
齢化と共に地元根付いたハン  
ターが少くない。獲物の値段が安  
いなども言われている。  
里へ下りると、ネットに囲ま  
れた集落は異様で、これを維持  
できない小さな集落は消え、過  
疎が始まるのである。

野生動物と共生は重要である  
が、現に人間生活を脅かしてい  
る現状を直視し、共生できる数  
まで減らす行政の早い対応が望  
まれるのである。  
(姫路市 須磨岡 穉)

御在所登山に  
愛知川渓谷歩きに  
山好き仲間集う宿  
朝明茶屋  
山小屋 朝明茶屋  
〒510-1251  
三重県三重郡志摩郡野草  
電 0593-193-1789

那岐山那岐山のふもと  
三百名山那岐山のふもと  
岡山県 那岐山荘  
〒708-1130  
岡山県岡山市北区高門  
電 0868-3614154

九州の最高峰・日本百名山  
宮之浦岳に一番近い宿  
屋久島安房登山口  
屋久島グリーンホテル  
〒891-4311  
鹿児島県志摩郡屋久町安房  
電 0997-41613021

早期退職をきっかけに、比良  
蓬萊山の麓に転居して数年がたつ  
た。転居のきっかけはもともと里  
山を歩きたいの思いついたが、

身体の調子も今ひとつなると  
仕事についているため遠くの山  
やハードな山へ出かけることが  
できないが、この機会に身体を  
リフレッシュし、体力を蓄え、充  
分に充電して若さにまかせて駆  
け足で通り抜けた山々、未だ訪  
れていない山々をゆっくりと訪  
問したいと夢見ている。  
(大津市 山本久雄)

花巡り山行の名のもとにお花  
好きな方々と山歩きを楽しんで  
います。  
参加の受付方法は他の例会と  
異なり、PCツール等によるメー  
ルでの申し込みです。

メールでの申し込みは多くの  
メリットがあり、IT化時代への  
関心を高める点でも計りえな  
い恩恵を享受できるのではと考  
えています。  
ところが、先般次のような問  
題が生じ、デメリットもあるの  
だなぁと感じているところで  
す。  
集合時間に参加予定者が見え  
ないため、自宅へ電話を入れる  
と、なんと本人が平然と出られ  
たのです。

聞けば係からの参加受付の何  
の連絡もなかったとのことであ  
りました。まして貸切バスでの  
泊まり山行のため、参加者全員  
にも費用負担等の迷惑までかけ  
てしまいました。  
当然こちらは受付時にはOK  
かキャンセル待ちかの返事をメー  
ル送信しています。今後万が一  
連絡が届かない場合は、本誌で  
係の電話番号も周知されたいよ  
うしくお願いします。  
(長岡京市 田中 明)

8月23日、私の山のお師匠さ  
んが、あちらの世界へ旅立たれ  
ました。「ぼくは、60歳位担  
いで歩ける。前川さんをおんぶし  
て、山を下りることが出来るよ」と  
の言葉にすっかり安心して、  
無鉄砲に歩いており、そのため  
か、三度も滑落して、皆さんに  
ご迷惑をかけてしまいました。  
その後、「もうおんぶして、  
山を下りられなくなった」と言  
われ、「先に行ってくれ」と立  
ち止まったりで、体力が落ちて  
いるのは感じていたのですが、  
昨年の梅はいっしょに楽しむこ

とが出来たのです。なのに、今  
年7月、「過去を思い出しに、す  
ごしております」とのお便り。  
歩くのは、もう無理なのかしら  
と案じておりました。  
山を愛することを教えてくだ  
さつた、亀本様。私もいずれ、  
そちらへ参ります。その時、ま  
たいいっしょに歩いてください  
ね。  
ご冥福をお祈り致します。  
(大和高田子 亀本和佳子)

平成13年(2001)5月10  
日(例)、奈良「三輪山・巻向山・  
竜王山」へ企画実施されたのが  
亀本廣治リーダの新ハイ初回  
山行でした。その後平成15年  
(2003)秋まで活躍されま  
した。  
前川さんは彼のサブとして共  
に歩かれてきましたが、知らせ  
を受けてとても残念です。  
心より亀本さんのご冥福をお  
祈りします。  
(代表 村田智彦)

**山行計画**  
(11・12月)

新ハイキングクラブ

このページの山行計画には、「会員に限る」と特記してあるほかは会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって必ず山行日の7日前までに到着するよう、申込み先を確認のうえ申し込んでください。電話・FAXでの申し込みはお断りします。「費用」のほかに参加名簿代その他の資料代実費をいただくことがあります。山行申し込み後参加できなくなった場合はすぐ係に連絡してください。体調の悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。例会の参加者全員に傷害保険がかけられています。出発直前の関係に保険料日額50円と救援対策費日額50円合計100円(後行日帰りの場合は2日になり200円)を支出していただきます。傷害保険特約内容は次の通りです。(株式会社山岳保険ジャパンと契約)

死亡・後遺障害保険金額 1,000万円  
入院保険金 5000円  
通院保険金 2500円

保険の対象は集合時から解散時まで。事故があった場合は解散までに係に申し出てください。この保険に該当しないものは次の通りです。①ピッケル・6木爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行 ②スキー使用の山行 ③沢・岩・氷雪登山を目的とした山行 ④宿泊場所内の事故 ⑤積死の場合(詳細は本部まで)

(記入例)  
(往復ハガキを使用)

**山行き申込み書**

山行名 (正確に記入すること)

期日

住所 〒

氏名

会員番号  
(会員でない方は会員外と記入)

電話番号

生年月日

緊急時の連絡先 TEL  
(山行中の連絡先を記入)

返信ハガキの宛名欄には、ご自分の住所氏名に「様」を必ず記入しておいてください。

**山行計画の実施と申し込みについて**

- ① 山行例会は、前もって保険を掛け、登山届を提出しますので、必ず実施日の7日前までに、「往復はがき」で申し込んでください。人数によっては事前にバスやタクシーをチャーターする必要があります。また、山ではいかなる事態が発生するかもしれません。緊急時の連絡先、および生年月日も必ず記入してください。
- ② 返信の案内は、実施日の10日前頃からです。直前にならないと参加人数がはっきりせず、交通機関への手配等、費用もはっきりしないからです。また、早くから返信すると、コースの状況等、何か変更になった場合に再連絡するのが大変だからです。早くから申し込まれた方はそれまでお待ちください。
- ③ 定員制の計画は先着順に受け付けます。すでに定員に達し、キャンセル待ちの場合はその旨をすぐに返信をいたしますのでご了承ください。
- ④ グレードは、次のように決めています。  
(初級向き) 初心者でも安全に歩けるコース(3〜4時間コース)  
(一般向き) 日頃山歩きしておられる方なら誰でも歩ける標準コース。あまり危険のない山(5時間コース)  
(中級向き) かなり経験を要するコース。危険な所はないが距離が長いコース(6〜7時間コース)  
(やや健脚向き) 距離は中級だが危険な所があり、登り・下りが長く続くコース(6〜7時間コース)  
(健脚向き) 距離が長く、つらい急な登り、危険な岩場、谷の渡渉、やぶ漕ぎの連続など、ハードなコース(7時間以上)
- ⑤ 雨天中止・決行の判断は、前夜(18時以降)の当地の気象情報を見て、返信案内の判断基準により各自で判断してください。(リーダーから連絡はしません)。雨降りの嫌いな方は、雨天・小雨決行の計画には申し込まれないようにお願いします。

11月		行先	定員	リーダー	フェス
30(休)	京都北山・鞍馬山	北摂・羽束山		リリー	フェス
26(出) 27(日)	播磨・葛城山・千町ヶ峰	比叡・八王子山・三石岳	35	須磨岡	
26(出)	紀泉・横尾山	奥美濃・小津権現山・花房山	15	田中明	
25(出) 27(日)	山梨・青笹山・篠井山	鳥取・鷲峰山	20	鷲見	
24(休)	美作・泉山	比良・蓮葉山・鳥谷山	20	泰	
22(休)	東山36峰・第1峰・第4峰	鈴鹿・雨乞岳	20	岩野	
20(休)	鈴鹿・ソノド	朽木・百里岳	10	山田	
20(休)	鈴鹿・雲仙山・西南尾根	京都北山・鎌倉山・峰床山	10	寺井	
19(出)	湖西・大谷山	美濃・小島山・ムネ山	20	鷲見	
17(休)	飯高・高鉢山	武生市・野見ヶ岳	10	高島	
15(休)	台高・小佐倉山・紅梅矢塚	醍醐宇治・天下峰・葛原山・高尾山	20	金谷	
12(出) 13(日)	高見山地・高見山	台高・赤ソレ山・馬駈ヶ場	20	筒井	
12(出)	奥播磨・日名倉山・後山	醍醐宇治・天下峰・葛原山・高尾山	20	村田	
12(出)	高見山地・高見山	奥播磨・日名倉山・後山	20	田中賢	
12(出)	醍醐宇治・天下峰・葛原山・高尾山	高見山地・高見山	10	西上	
8(休)	美濃・小島山・ムネ山	飯高・高鉢山	20	稲垣	
6(休)	京都北山・鎌倉山・峰床山	高見山地・高見山	10	鷲見	
6(休)	朽木・百里岳	高見山地・高見山	20	森脇	
6(休)	鈴鹿・雨乞岳	高見山地・高見山	20	岩野	
6(休)	比良・蓮葉山・鳥谷山	高見山地・高見山	20	岩野	
5(出) 6(日)	鳥取・鷲峰山	高見山地・高見山	20	古賀	
5(出)	奥美濃・小津権現山・花房山	高見山地・高見山	20	古賀	
2(休)	北摂・羽束山	高見山地・高見山	30	塚元	

\* マイカー山行

12月		行先	定員	リーダー	フェス
3(出)	木之本町・呉枯ノ峰			高島	
3(出)	湖北・己高山		20	狩野	
3(出)	美濃・城ヶ峰		20	鷲見	
4(休)	京都北山・愛宕山		20	村田	
4(休)	鈴鹿・高取山・向山・ハツ尾山		20	岩野	
4(休)	鈴鹿・猿登		20	山田	
6(休)	台高・楡塚奥峰・千秋峰		10	田中賢	
7(休)	京都丹波・鬼ヶ城		20	木村	
10(出)	鈴鹿・入寄りのコバ		20	筒井	
10(出)	美濃・大立		20	鷲見	
10(出) 11(日)	大峰・山上ヶ岳(稲村ヶ岳)		20	村田	
13(休)	愛宕山・大杉谷左岸道・八丁尾根			仲谷	
15(休)	室生・大平山・仏隆寺		20	西上	
17(出) 18(日)	参詣道・三浦峠越え・果無越		20	村田	
18(休)	紀北・鏡石山		15	木村	
18(休)	南紀・雲雀山		20	田中明	
18(休)	西濃・養老山		20	山田	
18(休)	鈴鹿・水無山		40	森脇	
18(休)	湖西・阿弥陀山		10	田中賢	
20(休)	曾爾・国見山・紅ヶ岳		20	吳山	
21(休)	京都北山・鳥居大文字・天竜寺		20	村田	
25(休)	六甲・阪急岡本駅・有馬温泉		20	仲谷	
27(休)	東山36峰・第5峰・第14峰				

ファミリーハイク70

北嶺・羽束山(初級向き)
期日 11月2日(休) 日帰り
集合 JR三田駅南口4番バス

コース 三田駅前(バス)成谷口
のりば9時10分

費用 約2000円(食料費等)
地図 2万5千=武田尾・木津

係 木村太郎
申込み 〒565-0854
吹田市桃山台1の2のB

木漏れ日を拾い尖峰誇れる信仰
の山に登る。お昼は山麓のアウト
ドア施設に集まり、バーベキュー
宴会を開きます。料理の食材は係
で準備します。雨天中止

地図読み山行72
比較・八王子山から三石岳

期日 11月5日(出) 日帰り
集合 JR比叡山坂本駅8時30

コース 比叡山坂本駅-日吉大社
-八王子山-林道三系路

三石岳 元三大師堂

定光院-駐車場-上御木
(バス) JR堅田駅(解

散)
費用 約2000円(大阪から)

地図 2万5千=京都東北部・
大原・堅田

係 昭文社「京都北山」
申込み 〒536-0008
大阪市城東区関目4の14

新ハイキング関西支部と合同
日が短い季節は短いコースをゆっ
くり歩きましょう。地形図の読み
方とコンパスの使い方を勉強しな
がら静かな秋を楽しみます。初心
者歓迎。雨天中止

自然観察山行190
奥美濃・小津権現山と花房山
(中級向き)

期日 11月5日(出)6日(回)
1泊2日
集合 (5日) JR大垣駅9時

コース (5日) 大垣駅(バス)
杉谷林道終点登山口-高
屋山-前衛峠-小津権現

山-前衛峠-高屋山-登

山口(バス) 月夜谷山荘
(泊)

費用 約21000円(大垣駅

地図 2万5千=美濃広瀬・横

係 警見守康
申込み 〒504-0828
各務原市蘇原村雨野1の

小津三山の二山を歩きます。両
山とも急登の前山からやせ尾根を
越えて本峰を仰ぎます。雨天決行
(コース変更あり)

中国自然歩道9
鳥取・鷲峰山(一般向き)

期日 11月6日(回) 日帰り
集合 JR西明石駅西出口7時

コース 西明石駅西出口7時

西明石駅(バス) 河内-

安曇野-鷲峰山-古谷谷

費用 約4500円(歩行時)

地図 2万5千=岩坪・鹿野

係 古賀慶一 岡田昇
申込み 〒675-0112
加古川市平岡町山之上684

鷲峰山の南面は心穏やかな自然
林が広がる。\*定員に満たない場
合は中止する場合があります。
雨天中止

比良を歩く45
蓬萊山から鳥谷山(中級向き)

期日 11月6日(回) 日帰り
集合 JR志賀駅バスのりば8

コース 志賀駅(バス)びわ湖パ
レイ前(ゴンドラ)打見
山-平津-蓬萊山-白谷

費用 約2500円(京都から)

地図 2万5千=比良山
昭文社「比良山系」

係 桑 康夫
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10

ゴンドラで蓬萊山へ登り、鳥谷
山から南比良峠まで緩歩します。
\*荒川峠-大谷倉庫-志賀駅にル
ト変更の場合もあり。雨天中止

鈴鹿を歩く227
奥の畑谷から雨乞岳(健脚向き)

期日 11月6日(回) 日帰り
集合 藤切谷旧林道入口広場8

コース 広場-桜地蔵-奥の畑谷
-奥の畑峠-南雨乞岳-

費用 交通費各自
地図 昭文社「御在所・霊仙・

係 伊吹 明 山田登三
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10

\*マイカー山行

秘境の奥の畑谷から雨乞岳と西

尾根の秋を楽しみます。雨天中止

展望の山10
朽木・百里岳(健脚向き)

期日 11月6日(回) 日帰り
集合 道の駅「朽木本陣」9時

コース 朽木本陣(車) 小入谷-
大倉林道-コモンバの滝

費用 交通費各自(車代100

地図 2万5千=熊川
係 山田明男

申込み 〒503-0535
海津市南濃町松山624の19

コモンバの滝から山頂を目指し、
百里新道をくだります。\*前5日
(出)に養生原生林(三回峠・野田畑

雨天決行

平日ふれあいハイク55

期日 11月8日(回) 日帰り
集合 京阪出町柳駅京都バスの

コース 出町柳駅(バス)坊村-
鎌倉山-オグロ坂峠-峰

費用 約2000円(出町柳駅

地図 昭文社「京都北山」

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10

北山の二つの三角点をつないで

歩きます。晩秋の鎌倉山への尾根

期日 11月12日(出) 日帰り

集合 JR大垣駅9時00分

コース 大垣駅(バス) 樫村-小

費用 約3500円(大垣駅か

地図 2万5千=池野

申込み 〒504-0828
各務原市蘇原村雨野1の

小島山からさらに足をのびし、

野見ヶ岳(武生市)(一般向き)

期日 11月12日(出) 日帰り

費用 交通費各自

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10

\*マイカー山行

(中級向き)

雨天決行  
醍醐宇治  
天下峰から喜操山・高尾山  
(一般向き)

期日 11月12日(日) 日帰り  
集合 京阪バス日野養生院バス

コース 停8時45分(京阪六地蔵  
駅8時18分発、地下鉄東  
西線石田駅8時27分発バ  
スに乗車)

費用 約800円(京都から)  
地図 2万5千(京都東部・  
宇治)

申込み ◎金谷 昭 ○磯部 純  
〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで

鈴鹿遊山14  
台高・赤ソレ山から馬駐ヶ場

期日 11月12日(日) 日帰り  
集合 飯高町波瀬・山林會前8  
時00分

コース 山林會前(車)木尾林道  
車止・地蔵谷出合・赤ソ  
レ山・馬駐ヶ場・木原谷  
・木尾林道(解散)

費用 参加費200円  
地図 2万5千(大豆庄  
係) ◎筒井克治  
申込み 〒513-0037  
鈴鹿市十宮3の15の9  
筒井克治まで

翌日、おまけ山行として宮の谷  
から池木原山あたりを散策します。  
希望者はスノー温泉泊かテント  
泊かを明記ください。雨天中止

近畿百名山に登る(第86回)  
奥播磨・日名倉山と後山  
(一般向き)

期日 11月12日(日) 1泊2日  
集合 (12日) JR新大阪駅正  
面口7時40分  
コース (12日) 新大阪駅(バス)  
日名倉神社・林道終点・  
奥海越一三ノ丸一ノ丸

1日名倉山・ベルビル  
自然公園(バス)ちくさ  
高原ロッジ(泊)

費用 約18000円(バス・  
宿泊代等)

地図 2万5千(千草・西河内  
係) ◎村田智俊 ○安倉止勝  
◎呉比呂美

申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
村田智俊まで

1等三角点の日名倉山へ登り、  
ちくさ高原(ラドン温泉)に泊ま  
り、2日目はタルガ峰から後山、  
おこしき山へ縦走する。雨天決行  
(コース変更あり)

高見山地・下津前谷から高見山  
(健脚向き)  
期日 11月15日(日) 日帰り  
集合 近鉄奈良駅東口8時25分  
/平野(たかすみ温泉駐

車場)10時00分  
コース 平野・下津前谷・高見山  
・平野遊経中・平野(解  
散)

費用 交通費各自  
地図 2万5千(高見山・大豆  
庄)

申込み ◎田中賢治 ○藤平くみ子  
〒518-0626  
名張市栢根が丘6の2の  
18 田中賢治まで  
\*定員10名

\*マイカー山行(5名ま  
で乗合可能。希望者は  
その旨明記ください)

うまくいけば、高見山頂上へ(北  
面から)どんびしゃり。谷ありやぶ  
ありのアスレチックコースです。  
特別な装備は必要ありませんが、  
頂上風下のササやぶの急登に耐え  
る根性が必要です。小雨決行

台高・小佐倉山から紅梅矢塚  
(一般向き)  
期日 11月17日(日) 日帰り  
集合 近鉄奈良駅南口9時10分  
コース 橋原駅(バス) 笠家(バ  
ス) 大豆生(バス) 紫雲山  
P963-1 紅梅矢塚  
(往路) 大豆生(バス)

橋原駅(解散17時頃)  
費用 約3960円(上本町起  
点)

地図 昭文社『大台ヶ原』  
2万5千(大豆生  
係) ◎西上和和  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで

杉の美林に包まれた尾根からカ  
エデやブナの自然林が残る晩秋の  
紅梅矢塚を目指します。雨天中止

三重の山82  
飯高・高尾山(一般向き)

期日 11月19日(日) 日帰り  
集合 国道166号線飯高道の  
駅9時00分

コース 道の駅(車)七日市・登  
山道入口・尾根・高尾山  
・(往路)七日市(車)

費用 150円  
地図 2万5千(萱野・七日市  
係) ◎稲垣逸夫  
申込み 〒519-10311  
鈴鹿市大久保町2065  
稲垣逸夫まで

願望良。雨天決行

自然観察山行192  
美濃・滝谷山と野村山  
(一般向き)

期日 11月19日(日) 日帰り  
集合 JR大垣駅9時00分  
コース 大垣駅(バス)花立峠・  
大谷山・滝谷山・大谷山  
・花立峠・野村山・大谷山  
峠(バス)大垣駅(解散)

費用 約3500円(大垣駅か  
らバス代等)  
地図 2万5千(池野・北方  
係) ◎鷺見守康  
申込み 〒504-0828  
各務原市蘇原村雨町1の  
19の5 鷺見守康まで  
\*定員20名

標高400mに足らずの静かな低  
山です。小雨決行

湖西・大谷山(中級向き)

期日 11月20日(日) 日帰り  
集合 JR京福線八条口団体バ  
スのりば7時20分

コース 京都駅(バス)マキノ・  
ビックランド駐車場止  
眼鏡P704・大谷山  
・寒風山・マキノ高原  
(バス)京福駅(解散18  
時30分頃)

申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10

費用 約3000円(京都駅か  
らバス代)

地図 2万5千(駄口・海津  
係) ◎森脇貞義 ○磯野重治  
◎中西信行

申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\*定員40名

大谷山は360度ささえるもの  
がない。すばらしい秋の一日を楽  
しましましょう。雨天中止

鈴鹿を歩く228  
雲仙山と西南尾根  
(やや健脚向き)

期日 11月20日(日) 日帰り  
集合 河内線「風穴」の手前寺  
院広場8時30分

コース 広場(車)今畑入口広場  
・汗ふき峠・見晴台・ピ  
ン坂道・雲仙山・西南尾  
根・黄檗寺(解散)

費用 交通費各自  
地図 昭文社『御在所・雲仙・  
伊吹』

申込み ◎岩野 明 ○山田景三  
〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで  
\*マイカー山行

初冬の雲仙山と西南尾根を散策  
します。雨天中止

鈴鹿遊山76  
ソンド(中級向き)  
期日 11月20日(日) 日帰り  
集合 JR関ヶ原駅8時35分/  
三岐鉄道西野尻駅8時30  
分

コース 各集合(車)時山・谷  
山谷林道終点・ソンド・  
南尾根經由・時山入口  
(車)各集合(解散)

費用 交通費各自(車代100  
0円)

地図 2万5千(藤立  
係) ◎山田明男 ○高原秀彦  
申込み 〒503-0535  
海津市雨宮山24の19  
山田明男まで

\*定員20人程度  
紅葉には遅いでしょうか。ソノ  
ドから南の尾根をゆっくりと時山  
へくだります。雨天中止

火曜ハイイク11  
私の東山36峰(第1回)  
第1峰〜第4峰(中級向き)



期日 11月22日(日) 日帰り  
集合 八潮比叡山口駅9時  
00分

コース 八潮比叡山口駅→御影神社(御生山)→比叡山→赤山神社(赤山)→修学院(修学院山)→修学院駅(解散17時頃)

費用 交通費各自  
地図 昭文社『京都北山』  
申込み 〒610-0121 仲

東山36峰は、定説のない山々です。その解釈の違いはあると思いますが挑戦してみます。街中の神社巡りも入りますので、次回からは人数制限させていただきます。今回はロングコースです。雨天中止

ファミリーハイク7  
美作・泉山(一般向き)

期日 11月24日(日) 日帰り  
集合 JR新大阪駅1階正面口  
構内7時00分

コース 新大阪駅(バス)笠背峠  
登山口→泉山→中央峰→  
井水山(往路)→笠背  
峠(バス)奥津温泉(バ

ろ)新大阪駅(解散)  
費用 約4000円(バス代)  
地図 2万5千→奥津

申込み 〒565-0854  
吹田市桃山台1-2のB  
12の201 木村太郎まで

中国山地の大展望を視界に快適な徒歩歩きを楽しみ、1等三角点の泉山を目指す。雨天中止

自然観察山行193  
山梨・青世山と篠井山  
(中級向き)

期日 11月25日(日) 日帰り  
前夜発1泊2日

集合 (25日) JR大垣駅23時  
00分  
コース (25日) 岐阜駅(バス)  
(26日) (バス) 奥山温  
泉登山口→田代沢→田代  
峠→青世山→細島峠→田  
代沢→奥山温泉(泊)

費用 約34000円(岐阜駅  
申込み 〒610-0121

からバス・宿泊・資料代  
等)  
地図 2万5千→篠井山

申込み 〒504-0828  
各務原市藤原村雨町1の  
19の5 警見守康まで

静岡県境の青世山を山梨県側から周回し、翌日は山谷のすばらしい篠井山を縦走します。食事は全員で協力して自炊します。

雨天決行(コース変更あり)

花巡り山行24  
紀泉・横尾山(初級向き)

期日 11月26日(日) 日帰り  
集合 奥北高速鉄道相模中央駅  
タクシーのりば8時30分

コース 和泉中央駅(タクシー)  
橋尾公園口付近の植物観  
察→熊野寺→蔵岩→横尾  
山→捨身ヶ岳→五ツ辻→  
公園口(タクシー)和泉  
中央駅(解散16時頃)

費用 約35000円(京都から)  
地図 2万5千→岩湖山  
申込み H.P.からメールのみ受付

http://hana.04.hp.  
infoseek.co.jp  
\*定員15名

サツマイモリノキ・カギカラなどアカネ科の珍しい植物。この時季に咲くイズミカンアオイやツメレンゲも見られるでしょうか?  
雨天中止

一足早い忘年会  
播磨・葛城山と千町ヶ峰  
(一般向き)

期日 11月26日(日) 日帰り  
1泊2日

集合 (26日) JR姫路駅南口  
9時30分  
コース (26日) 姫路駅(車)林  
田→登山口→葛城山→大  
堤(車) 福知山(徒歩)養  
老院(泊)

費用 130000円(宿泊代・  
忘年会費等)  
地図 2万5千→安志・神子畑  
申込み 須磨岡 組

申込み 〒671-1262  
姫路市余部区上余部50の  
2の11 須磨岡 組まで

来年3月で姫路の最高峰の座を明け渡す葛城山。瀬戸内までの距離が千町あるから集落の名前になつたと伝えられる千町集落の主峰、千町ヶ峰へ登ります。雨天決行

北山ちよっと歩き72  
貴船口から鞍馬山(一般向き)

期日 11月30日(日) 日帰り  
集合 叡電出町柳駅9時30分/  
叡電貴船口駅10時30分

コース 貴船口駅→鞍馬屋敷→奥の院(電神池→鞍馬寺→鞍馬駅(解散15時頃))

費用 約8000円(出町柳から)  
地図 昭文社『京都北山』  
申込み 〒610-0121

鞍馬の歴史道歩きます。紅葉も始まります。義経の展示も見られます(200円)。小雨決行

集合 JR木之本駅9時10分  
コース 木之本駅→田代峠→奥  
枯ノ峰→菅山寺→田上山  
→木之本駅(解散)

費用 交通費各自  
地図 2万5千→木之本  
申込み 〒610-0121

雨天決行  
新ハイキング関西まで

週末ハイク70(忘年ハイク)  
湖北・己高山(一般向き)

期日 12月3日(日) 日帰り  
集合 JR京都駅八条口団体バ  
スのりば8時00分

コース 京都駅(バス)登山口駐  
車場→登山口→六地藏→  
牛止め展望台→鶏足寺跡  
→己高山→石蓮寺→鶏足  
寺→己高庵(入浴)→忘年  
会(19時頃)

費用 約10000円(バス代・  
忘年会費)  
地図 2万5千→近江川合  
申込み 〒610-0121

新ハイキング関西まで  
\*定員23名(会費に限り)

晩秋の己高山を歩いた後、己高庵にて入浴、忘年会を開催します(不要の荷物はバスに置けます)。  
雨天決行

自然観察山行194  
美濃・城ヶ峰(一般向き)

期日 12月3日(日) 日帰り  
集合 JR大垣駅9時00分

コース 大垣駅(バス)三輪神社  
→一心寺→城台山→城ヶ  
峰→城台山→一心寺→三  
輪神社(バス)大垣駅  
(解散)

費用 約35000円(大垣駅か  
らバス・資料代等)  
地図 2万5千→池野  
申込み 〒504-0828

橋上上人の開基の寺を訪ね、標高3000m級の低山を歩きます。  
小雨決行

期日 12月4日(日) 日帰り  
集合 JR八木駅8時35分

コース 八木駅(バス)越前→京  
見峠→地蔵山→愛宕山→  
表参道→清滝バス停(解  
散15時30分頃)

費用 約10000円(京都から)  
地図 昭文社『京都北山』  
申込み 〒610-0121

初冬の地蔵山で展望を楽しみ、愛宕山を目指します。小雨決行

鈴鹿を歩く229  
高取山・向山・ハツ尾山  
(一般向き)

期日 12月4日(日) 日帰り  
集合 大上用菅原線大滝神社広  
場8時30分  
コース 広場(車)高取山ふれあ  
い公園→高取山→向山→  
ハツ尾山→林道→広場  
(解散)

○後藤康幸  
申込み 〒61010121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング野まで  
\*マイカー山行

高取山ふれあい公園が整備した  
遊歩道から向山と東に続くハツ尾  
山の稜線を散策します。雨天中止

鈴鹿百山77 (忘年山行)  
猿登(初級向き)

期日 12月4日(日) 日帰り  
集合 JR関ヶ原駅8時35分/  
三岐鉄道西野尻駅8時30  
分

コース 各集合駅(車)こえどー  
猿登こえど(車)時山  
キャンプ場(忘年会・解  
散)

費用 交通費各自(忘年会費全  
員1000円) キャンプ  
場代徴収、昼食不要、飲  
み物持参。

地図 2万5千ニ集立  
係 ◎山田明男 ○高尾芳彦  
申込み 〒50310535  
海津市南瀬町松山624の19  
山田明男まで

\*定員20名程度  
はじめて行く山ですが、千支

地 図 2万5千ニ谷波  
係 ◎鷺見守康  
申込み 〒50410828  
各橋原市蘇原村雨町1の  
19の5 鷺見守康まで  
\*定員20名  
忘年会とセットの山行。6000  
円の低山を歩いた後、月夜谷山荘  
で忘年会をします。雨天決行

完登記念山行  
近畿百名山に登る(最終第88回)  
大峰・山上ヶ岳(稲村ヶ岳)  
期日 12月10日(日)11日(月)  
1泊2日  
集合 (10日) 近鉄下市口駅8  
時30分  
コース (10日) 下市口駅(タク  
シ) (Aコース) 母公  
堂→法力峠→山上辻→稲  
村ヶ岳→山上ヶ岳→レンゲ  
辻(合流) (Bコース)  
大峰大橋→一本松茶屋→  
洞辻→山上ヶ岳→レンゲ  
辻(合流)→レンゲ坂谷  
→大峰大橋(車) 洞川温  
泉「紀の國屋甚八」泊・  
完登祝賀会  
(11日) 旅館(車) 五番

(嶺)の山で、鳥帽子岳の牧田川  
を挟んで北の山です。アルコール  
を飲まれる方は電車にて集合くだ  
さい。雨天決行

台高・木原谷川ワサビ谷から  
槍塚奥峰・千秋峰(健脚向き)

期日 12月6日(日) 日帰り  
集合 近鉄榛原駅8時10分/青  
田発電車前駐車場9時20  
分

コース 木原谷川梅原谷対岸駐車  
地→万蔵橋→ワサビ谷出  
合→口ワサビ谷→槍塚奥  
峰→千秋峰→千秋峰北尾  
根→駐車場(解散)

費用 交通費各自  
地図 2万5千ニ七日市・大豆  
生

申込み ◎田中賢治 ○岡早々子  
〒51810626  
名張市桔梗が丘6の2の  
18 田中賢治まで  
\*定員10名  
\*マイカー山行(5名ま  
で集合可能。希望者は  
その旨明記ください)  
7月に雨天中止となったコース  
に再挑戦。オーラルラウンドかつタ  
フなコースです。念のためお助け

関一頁丁茶屋跡→新茶屋  
跡→カクレ平→金峯神社  
→高城山→藤土堂→吉野  
駅(解散16時頃)  
費用 約16000円(大飯か  
ら) 宿泊・タクシー代志  
係 ◎村田智俊 ○安全止勝  
○奥比呂美  
申込み 〒61010121  
城陽市寺田大群10の10  
村田智俊まで  
Aコースは稲村ヶ岳、Bコース  
は山上ヶ岳の二組に分かれて登り、  
レンゲ辻で合流します。翌日は奥  
街道を吉野へくだります。A・B  
コースの希望を明記ください。こ  
れまで近畿の百名山への例会に参  
加された方も初参加の方もござっ  
てご参加ください。雨天決行(コ  
ース変更あり)

火曜ハイイク12  
愛宕山シリーズ7  
大杉谷左摩道から八丁尾根  
期日 12月13日(日) 日帰り  
集合 清滝バス停9時00分  
コース 清滝→空世の滝手前大  
杉谷左摩道→三角点→電

組3組を持参のこと。小雨決行  
ファミリアハイイク72  
京都丹波・鬼ヶ城(初級向き)  
期日 12月7日(日) 日帰り  
集合 JR新大阪駅1階正面口  
構内8時00分

コース 新大阪駅(バス) 観音寺  
→登山口→鬼ヶ城→分岐  
→鳥ヶ岳→分岐→観音寺  
(バス) 福知山温泉(バ  
ス) 新大阪駅(解散)

費用 約3500円(バス代)  
地図 2万5千ニ河守・福知山  
東部

申込み ◎木村太郎  
〒56510854  
吹田市桃山台1の2のB  
12の209 木村太郎まで  
\*定員20名(会費に際)  
\*定員20名(会費に際)  
雲海に包まれる次木童子伝説の  
鬼ヶ城と、酉年を借しり三角  
点の鳥ヶ岳に立つ。雨天中止

鈴鹿遊山15  
鈴鹿・人寄りのコバで忘年会  
(初級向き)

期日 12月10日(日) 日帰り  
集合 武平峠西下駐車場8時00  
分

の小屋→八丁尾根→梨の  
木林道→清滝バス停(解  
散15時30分頃)  
費用 交通費各自  
地図 2万5千ニ京都西北部  
係 ◎仲谷礼司 ○沖 伸  
申込み 〒61010121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
昨年雨天中止になったコース。  
あまり歩かれぬ道を歩きたい  
と思います。天候により一部コ  
ース変更。悪路あり。雨天中止

忘年会山行  
室生・大室山から仏隆寺  
(一般向き)

期日 12月15日(日) 日帰り  
集合 近鉄榛原駅南口8時10分  
コース 榛原駅(バス) 自明→登  
山口→大平山→高峰山→  
唐戸峠→仏隆寺→高井  
(バス) 榛原駅(電車)  
鶴橋駅→焼き肉店パンブ  
ハウス(忘年会16時よ  
り)

費用 約6000円(上本町起  
点・忘年会費共)  
地図 昭文社「赤目・仏留尊  
高原」(旧版)

コース 武定峠→茨谷→沢谷峠→  
三人山→人寄りのコバ  
(忘年会) 七人山→郡  
界尾根→沢谷峠→茨谷→  
武平峠(解散)

費用 参加費2000円  
地図 2万5千ニ御在所山  
係 ◎筒井克治  
申込み 〒51310037  
筒井克治まで  
\*マイカー山行  
忘年会の飲食材料は持ち寄り。  
飲酒運転はご法度です。なお、当  
夜武平峠でテント泊も予定してい  
ます。雨天中止

自然観察山行195  
美濃・大立(一般向き)

期日 12月10日(日) 日帰り  
集合 JR大垣駅9時00分  
コース 大垣駅(バス) 久瀬トン  
ネル北口→大立→トシネ  
ル北口(バス) 池田温泉  
(入浴・バス) 月夜谷山  
荘(忘年会・バス) 大垣  
駅(解散)

費用 約12000円(大垣駅  
からバス・忘年会・資料  
代等)

◎西上利和  
申込み 〒61010121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
山行タイムは十分にあっていま  
す。仏隆寺など訪ねながら、のん  
びりと初冬の室生の山々を歩きま  
す。忘年会参加の方は「忘年会参  
加」と明記ください。小雨決行  
紀伊山地の霊道道を歩く6  
小辺路3  
①五百瀬から三浦峠越  
②十津川から果無越(中級向き)  
期日 12月17日(日)18日(月)  
1泊2日  
集合 (17日) 近鉄大和八木駅  
8時00分  
コース (17日) 八木駅(バス)  
五百瀬三浦口→三浦峠→  
古川登跡→観音堂→西中  
川合神社(バス) 十津  
川温泉(泊)  
(18日) 十津川→天水田  
跡→山口茶屋跡→果無越  
→青草→果無峠→三軒茶屋跡  
跡→八木尾→三軒茶屋跡  
跡→八木尾(バス) 大和八木駅(解散19時  
頃)

費用 約17000円(バス・宿泊代等)

地図 詳細図を当日配布  
◎村田智俊 ○安倉正勝 ○奥比恰美

申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10  
村田智俊まで

町石道から歩いた小辺路ルートは、今回で早くも熊野本宮大社に到着します。雨天決行

ファミリーハイク73

紀北・鏡石山(一般向き)

期日 12月18日(日) 日帰り

集合 J.R.海南駅オレンジバス

コース 6番のりば9時00分  
海南駅(バス)幡川一柳林寺一コッテの滝一雨の大明神一熊尾寺山一お休み広場一鏡石山一別所茶屋跡一大野城主墓一柳林寺一海南駅(解散)

費用 約2500円(食料18さぶ・バス代)

地図 2万5千ハ海南

申込み ◎木村太郎

吹田市桃山台1の2のB

12の209 木村太郎まで

落ち葉散り敷く静かな雑木林をたどり、紀伊水道を望む海南市最高峰へ登る。雨天中止

花巡り山行25

南紀・雲雀山(一般向き)

期日 12月18日(日) 日帰り

集合 J.R.紀伊宮原駅9時20分

コース 紀伊宮原駅一得正寺一雲雀山一糸我峠一施無畏寺一栖原海岸一湯浅駅(解散16時頃)

費用 2400円(青春18さぶ・利用、保険代)

申込み ◎キップを係へ依頼の方はその旨ご記入ください

地図 2万5千ハ湯浅

申込み ◎田中 明

HPからメールのみ受付  
http://hana.04.jp  
hloosek.co.jp

費用 約15名

アコウ・クズドイゲ・タイムンタチバナ等の暖地性の植物が数多く見られるまたよい機会です。ハマナデシコ・アゼトウナも見たお花です(本号34ページ参照)。雨天中止

展望の山11

西濃・養老山(中級向き)

期日 12月18日(日) 日帰り

集合 近鉄養老駅9時00分

コース 養老駅(車)養老寺下駐車場一養老の滝一三万山一小倉山一養老山一三万山手前から旧道一林道一養老公園一駐車場(車)養老駅(解散)

費用 交通費各自(車代500円)

申込み ◎山田明男

海津市南瀬町松山624の19

山田明男まで

鈴鹿を歩く230(忘年会)

水無山(一般向き)

期日 12月18日(日) 日帰り

集合 国道477号線威士ダム

広場8時00分

広場(車)水無林道広場

水無山一南尾根一水無

山専用ロッジ(昼食忘年会・解散)

費用 交通費各自

地図 昭文社「御在所・雲備・伊吹」

◎岩野 明 ○山田景三

◎後藤康幸

申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

水無山に登った後、専用ロッジで昼食忘年会とミーティング等を行います。料理は各自持参(マイカー運転の方は禁煙)。雨天決行

\*マイカー山行

忘年山行

湖西・阿弥陀山(一般向き)

期日 12月18日(日) 日帰り

集合 J.R.京都駅八条口団体バス

コース 京都駅(バス)安曇川町太山寺一阿弥陀山(往路)一大山寺(バス)京都駅(解散)

費用 約3000円(京都駅からバス代)

申込み ◎森脇真義 ○磯野重治

◎中西信行

申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

\*定員40名

500円にも満たない山ですが、1等三角点の山です。昼食忘年会しますので、各自御持参ください。雨天中止

曾爾

北尾根から園見山・紅ヶ岳

(中級向き)

期日 12月20日(日) 日帰り

集合 近鉄桔梗が丘駅9時00分

コース 三重交通布生バス停9時30分

布生一白井谷林道終点一北尾根一園見山一紅ヶ岳一園見山一白井谷一布生(解散)

費用 交通費各自

地図 2万5千ハ俱利伽羅山

申込み ◎田中賢治 ○園平くみ子

〒518-0626

名張市桔梗が丘6の2の18

田中賢治まで

\*定員10名

\*マイカー山行(5名まで乗合い可能。希望者はその旨明記ください)

尼ヶ岳・大洞山の大展望を楽しみつつ、長大な北尾根から俱利伽羅北麓の不遇の山 園見山へ。帰路は白井谷コースをとります。的確な地図読みがポイントです。小雨決行

北山ちよつと歩き

嵯峨嵐山・鳥居大文字周辺

(初級向き)

期日 12月21日(日) 日帰り

集合 J.R.嵯峨嵐山駅9時00分

コース 嵯峨嵐山駅一嵯峨天皇陵一鳥居大文字一三尊院一天龍寺(解散14時30分)

費用 約500円(京都駅から)

申込み ◎奥山繁三

〒610-0121

城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

嵯峨野と京都市街を見つる鳥居大文字に登り、嵐山園遊の名所を歩きます。解散後、嵐山公園で忘年会します(各自持参)。小雨決行

年末にロングコースを歩く

六甲・飯急岡本駅から有馬温泉

(中級向き)

期日 12月25日(日) 日帰り

集合 飯急岡本駅8時30分(J.R.摂津本山駅よりすぐ)

コース 岡本駅一金鳥山一打越峠一住吉谷合出(西側多福山)一極楽茶屋跡一湯桶谷一有馬温泉(入浴)一神鉄有馬温泉駅(解散17時頃)

費用 約2000円(大阪から)

申込み ◎村田智俊 ○安倉正勝

◎奥比恰美

申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10

村田智俊まで

車道を歩かない山道コースを選んで、表六甲から有馬温泉へ横断します。有馬温泉で今年の山のつかれを洗い流しましょう。雨天中止

火曜ハイク13

私の東山36峰(第2回)

期日 12月27日(日) 日帰り

集合 飯急修学院駅ホーム内9時00分

コース 修学院駅一栗山観音(巖山)一興寺山一瓜生山一北川山一茶山一銀閣寺(月待山)一法然院(善泉山)一大文字山一銀閣寺(解散16時頃)

費用 交通費各自(資料代別添)

申込み ◎伊合礼司 ○沖 伸

〒610-0121

城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

\*定員18名(会員に限る)

12・13峰は次回です。神社通りも入りますので変則的な歩き方になります。雨天中止

# 新ハイキング選書

- 第4巻 一等三角点のすべて** 多摩雪雄 編  
改訂2版/上製本/86判352頁/定価1890円 一等三角点の知識をこの一冊に収録
- 第9巻 一等三角点の名山100** 安藤正義/市川静子/多摩雪雄/富田弘平/松本 浩 共著  
3刷発売中/86判336頁/定価1631円 一等三角点峰100座の紀行・案内文集
- 第14巻 百歳までの山登り** 富田弘平 著  
2刷発売中/上製本/86判360頁/定価1835円 話題豊富な著者の紀行と随想集
- 第18巻 一等三角点の名山と秘境** 安藤正義/多摩雪雄/富田弘平/松本 浩 共著  
2刷A5判340頁/定価1837円 一等三角点の山100座の登山コースを紹介
- 第19巻 山との出会い** 富田弘平 編  
86判328頁/定価1680円 山の随想集。55名が執筆の読物
- 第20巻 一等三角点の山々** 山口ゆき子/横山隆/高橋生雄/川越はじめ/岡村美邦 共著  
A5判310頁/定価1680円 第9、18巻の山と重複しない80座の登山コースを紹介
- 第23巻 多摩100山** 守屋龍男 著  
86判244頁/定価1575円 多摩の山100山を選び、50のコースにまとめた案内書
- 第24巻 山岳巡礼** 佐藤光雄 著  
86判362頁/定価1680円 山に魅せられた一登山家の珠玉の紀行集
- 第25巻 東京近郊里山ハイキング** 新ハイキング・ペンクラブ 著  
A5判232頁/定価1680円 武蔵野/多摩を中心に房総・三浦半島の里山歩き69コース
- 深田久弥の研究** 深田クラブ 編  
A5判389頁/定価1680円 深田久弥のすべてを丹念に研究した成果を収録
- 花と山** エーデルワイス・クラブ 編  
A5判219頁/定価1680円 山と花を愛する100人が綴った100山
- 田舎ごっこ** 中山権四郎 著  
86判234頁/定価1680円 新ハイ掲載の田舎ごっこと様々な雑記をまとめた、珠玉の読物

発行所 **新ハイキング社** 〒114-0023 東京都北区滝野川7-5-5 高橋ビル  
電話/Fax03-3915-8110 振替00130-9-146915  
●価格は消費税込み ●振替でのご注文は送料当社負担

## 山行報告 (7・8月号)

新ハイキングクラブ関西

奥美濃・見当山

(自然観察山行182)  
7月2日(出) くもりのち晴れ  
(集合) JR岐阜駅9・20(ハス)  
郡上高原ゴルフ場11・10(ハス)林  
道・林道上登山口11・35(後編)11・  
45(息当山)12・15(昼食)13・00  
―尾根―林道下登山口13・45―ゴ  
ルフ場14・00(ハス)牧歌の  
里温泉14・10(入浴)15・30(ハ  
ス)岐阜駅17・00(解散)

歩行時間2時間という遠足気分  
の山行で、もの足りない人もいた  
ようだ。日本海型のブナの林を楽  
しんで歩き、ひるが野の牧歌の里  
でゆっくりした。

(参加者) 池田繁美 萩野美紀恵  
伊藤 直 伊藤和代 小崎由利子  
岡田直規 渋谷義光 藤本桂吉  
水谷陽子 森脇貞義 森 美香子  
渡辺美代子 佐々木三千代  
〇三井 統一 ◎鷺見守康(計15名)

大峰

玉置山から七越峰と牛鹿山

(週末ハイク68)

7月2日(出)3日(回) 1泊2日  
(2日) くもり時々雨 (集合)  
近鉄大和八木駅8・30(ハス)護  
摩山11・30(昼食)12・30(ハ  
ス)牛鹿山(アリノ越)13・40(ハ  
ス)牛鹿山14・35(45)牛鹿山15・  
25(30)ハス 津川温泉16・45  
(入浴)17・40(ハス)上葛川民  
宿18・35(泊)

(3日) くもりのち雨 民宿5・  
50(ハス)玉置山駐車場6・15(ハ  
ス)玉置山6・45(50)玉置神社  
7・00―本宮辻(玉置辻)7・20  
―25―旧藤尾辻8・20(30)大森  
山8・45―大森山南峰8・50(55  
―藤尾辻9・25(30)大森山南峰9・  
55(10)00―金剛多和の宿11・  
40(昼食)11・25―大森山南峰11・  
00(送電線塔広場12・00―宝徳印  
塔12・20(30)吹越宿跡13・00(ハ  
ス)津川温泉15・10(入浴)16・05  
(ハス)大和八木駅19・10(解散)  
昼食時小雨を避ける東屋を借り  
るため護摩山頂に立ち寄った。  
牛鹿山は雨のバラツクな往復  
した。大峰奥岳最南部の縦走はメ

インビークの五大尊岳までは雨に  
降られず歩けたが、昼食時から下  
山までは雨の中の行動となり、近  
所の温泉で濡れた衣類を替えた。  
大雨洪水注意報が出ていたが、予  
定のコースを完歩できたし、雲海  
に浮かぶ果無や奥美濃の峰々を眺  
めることもできた。玉置山往復の  
オマケも付きました。

(参加者) 萩野陽子 大岡加代子  
栗橋聖吉 栗橋君子 船本裕巳子  
村井秀和 船越利明 船越みよ子  
若松朝子 森田久子 村田はる江  
川田洋子 南 利恵 ◎狩野東彦  
(計14名)

台高・馬ノ鞍峰  
7月3日(回) ◎村田智俊  
●雨天のため中止しました。

奥美濃・護摩山  
(ファミリーハイク62)  
7月7日(回) 晴れ時々くもり  
(集合) JR新大阪駅7・00(ハ  
ス)護摩山駐車場10・45(50)―  
護摩山11・05(10)耳取山11・  
25(30)護摩山11・45(森林公  
園入口)12・00(5)―1304峰  
12・25(昼食)13・20―林間広場  
13・50(14)20―森林歩道休憩地

至仏山と尾瀬(花巡り山行18)  
7月8日(回)12日(回)  
前後発2泊3日夜行帰り  
(8日) くもり (集合) JR大  
垣駅23・05(19) (電車)  
(9日) くもり (電車) 東京駅  
4・42 (電車) 高崎駅7・08 (電  
車) 沼田駅7・53 (タクシー) 鳩

待降 9・30く42一オヤマ沢田代11・  
40一五弘山12・50く13(夏夜) 13・  
10一五弘山13・50く14・10一中間  
点15・10一山ノ鼻16・14く20一牛  
首三叉路17・00一草宮小屋17・35  
(計11名)  
(10日 晴れ) 小屋7・30一ヨッ  
ビ吊橋8・00一東津小屋8・50く  
9・05一東津分岐9・45一見晴10・  
20く30一白砂峠12・20一沼尻12・  
40(夏夜) 13・20一三草峠下14・  
45く15・00一尾瀬沼ヒュッテ15・  
30(計10名)  
(11日 くもり) 小屋7・00一  
(自然観察会) 一7・50(大江湿  
原散策) 一小屋9・00一三草峠9・  
35く45一水場10・20く30一ノ瀬  
11・20(夏夜) 12・30一水場13・  
45(タクシー) 18・45一沼田駅  
(入浴・反省会) 21・45一沼田駅  
18・57(電車) 高崎駅(電車) 東  
京22・00く23・43(電車)  
(12日 くもり) (電車) 大垣駅  
6・53(電車) 米原駅7・36(解  
散)

参加が少数だったので往復をバ  
スからJR(青春18きっぷ使用)  
へ、また泊まりを2泊に短縮して  
実施した。梅雨時の予想がうれし  
いほうにはずれ、全行程とも雨具

は使用せず。至弘山に咲く固有種  
の高山植物やたくさんの湿原植物  
が楽しめ、すばらしい大自然の風  
に心酔させた。  
(参加者) 山本孝彦 山本悦子  
堀江房雄 森本淳子 道平きわみ  
仲谷礼司 富松雅子 光川一美子  
○西原辰夫 ○田中 明(計10名)  
柏原道から霊仙山(鈴鹿山行)  
7月9日(出) ○山田明男  
\*雨天のため当コースは中止しま  
したが、集合の7名で伊吹山の山  
頂部のみ歩きました。  
(参加者) 竹内正子 山村恭男  
栗本敏夫 沖 伸 林 正義  
○高原芳彦 ○山田明男(計7名)

湖西・大御影山  
7月10日(出) 晴れ  
(集合) JR京都駅7・20く35  
(バス) ビラデスト今津9・35く  
45一休地池10・28く37一滝谷山分  
岐11・10一林道出合11・40(夏夜)  
12・40一林道山13・28く55一若  
狭道分岐14・23一林道出合15・05  
一ヒラデスト今津16・10く30(バ  
ス) JR西大津駅16・30(解散)  
よい天気だったが、大御影山頂  
はガスで何も見えず残念だった。

若狭道分岐で名古屋の新ハイ会員  
数名と出会った。風のない暑い一  
日だった。  
(参加者) 佐野信江 武部美美子  
山縣勝美 山縣 隆 若林文夫  
多賀久子 村井善和 福嶋 章  
市野博文 塚本忠次 久保田玲子  
木本美子 川田洋子 中村佳津子  
志水明美 上飯知子 村田あや子  
中川節子 小山誠次 野末あや子  
中村英雄 宮野哲郎 宮野敏子  
奥比呂美 宮下淳一 藤井むつみ  
井上恭子 青木一雄 市井ユリエ  
小谷和子 堀尾香織 中井ひろみ  
奥田則夫 内田康夫 福井清之  
細野欽也 ○中西信行  
○磯野重治 ○森脇貞義(計10名)

元越谷(鈴鹿を歩く219)  
7月10日(出) くもり  
(集合) 国道47号線元越谷林  
道分岐8・30一元越谷9・10一  
大滝10・15一仏谷分岐10・35一左保  
分岐11・30一湯沢12・10一大宮12・  
40(夏夜) 13・30一水沢峠14・05  
一元越谷林道15・00一広場16・20  
(解散)  
猛暑だが沢に入ると生き返った。  
大滝は白くて太い瀑布が轟音を響  
かせていた。明るい花崗岩にはと

はしる水流のナメ流が見事に調和  
していた。大岩や礫には涼風が  
吹き、美しい山行となった。  
(参加者) 栗本敏夫 塚田勝利  
高原芳彦 若本彩子 奥野太一郎  
小林 桂 中井昭一 谷 守  
小林 修 武村千鶴 ○山田景三  
○後藤康幸 ○岩野 明(計13名)  
台高・木原谷川ワサビ谷から  
槍塚奥峰・千秋峰  
7月12日(出) ○田中賢治  
\*雨天のため中止しました。

西浅井町・三万ヶ岳  
7月16日(出) くもり時々雨  
(集合) JR近江塩津駅9・20一  
宿掛登山口9・40一作業路分岐10・  
20一第一疎塔11・00一三万ヶ岳頂  
下鉄塔11・40(夏夜) 12・30一三  
万山三角点13・10く25一三万ヶ岳  
直下鉄塔14・00一作業路分岐14・  
35く45一宿掛登山口15・00一近江  
塩津駅15・30(解散)  
梅雨明け切らぬ7月中旬、小雨  
の降りつらなかが登る。以前の例  
会で登った三万ヶ岳頂上への激や  
ぶと三万山4等三角点への激やぶ  
を踏破。  
(参加者) 吉藤孝次 山岸勝雄

木村 豊 西田俊治 前田栄三  
栗橋君子 若本彩子 蓮井洋子  
若林文夫 神野孝允 六角喜久江  
石原君子 谷 守 光川一美子  
磯部 純 ○高島伸浩(計16名)  
鈴鹿・ハライド(三重の山79)  
7月16日(出) 晴れ  
(集合) 朝明キャンプ場駐車場9・  
30一腰越峠11・20一ハライド11・  
35(夏夜) 13・00一腰越峠14・35  
一水無15・10く20一朝明キャンプ  
場15・50(解散)  
色んな花に出会えたが、腰越峠  
で夏椿の花を目の高さで観察でき  
たのがよかった。頂上からの展望  
は良かったが、風越峠への下りは  
夏場は避けたい道であった。  
(参加者) 大西啓朗 岡本美子  
水戸鉄治 宮村信夫 石田貞由美  
平 龍一 平 幸子 相沢正一  
中森英彦 ○稲垣逸夫  
○尾崎英五 (計11名)

キャンプ山行  
千葉峡谷に遊ぶ(鈴鹿遊山10)  
7月16日(出) 17日(回) ○筒井克治  
\*リーダーの都合で中止しました。  
中央アルプス北部縦走

木曾駒ヶ岳・宝剣岳・空木岳・  
南駒ヶ岳・越百山  
(自然観察山行183)  
7月16日(出) 19日(回) 3泊4日  
(16日 くもり) (集合) JR岐阜  
駅9・15(バス) 駒ヶ根市管ノ  
台バスターミナル12・20(バス)  
しらび平13・30(ロープウェイ)  
千貫峠13・50一東越浄土14・30く  
35一木曾駒ヶ岳15・40く50一頂上  
木曾小屋16・00(泊)  
(17日 くもり) 頂上木曾小屋6・  
15一木曾駒ヶ岳6・25く35一宝剣  
山荘7・05く15一宝剣岳7・30く  
40一三ノ沢分岐8・05く30一槍尾  
岳鞍部10・40く11・00一槍尾岳11・  
40(夏夜) 12・30一熊沢岳13・55  
く14・10一東川岳15・40一木曾殿  
山荘16・10(泊)  
(18日 晴れ) 木曾殿山荘6・15  
一空木岳第一ピーク7・10く20一  
空木岳7・55く8・15一赤穂岳9・  
20く30一南駒ヶ岳10・20(夏夜)  
11・20一仙遊峠11・40一越百山14・  
00く10一越百小屋14・50(泊)  
(19日 晴れのちくもり) 越百小  
屋7・00一上の水場7・40く50一  
展望台8・05一下のコル9・00く  
15一福柳橋登山口9・45く50一林  
道駐車場10・20(バス) 道の駅大

美濃・高賀山(展望の山6)  
7月17日(出) くもりのち晴れ  
(集合) JR西岐阜駅8・10(車)  
タラガ谷越9・45く55一尾根一高  
賀山12・25(夏夜) 13・05一登山  
道一高賀の森駐車場15・00(車)  
坂取川温泉15・50(車) JR西岐  
阜駅18・10(解散)  
蒸し暑い日と皆さんの都合で9

人となり、ヤマビルに3人が犠牲  
となった。運転手2人は往路を戻  
り、7人は神社側にくだり、珍し  
いヤマジオウの花を見た。  
(参加者) 藤村彦彦 池田繁美  
春見重美 成瀬忠市 成瀬みちこ  
安藤ゆう 栗本敏夫 佐吉田文子  
○山田明男 (計9名)  
台高・白幡岳  
7月18日(出) 晴れ  
(集合) 近鉄大上市駅8・55く  
9・00(タクシー) 中奥大御林道  
浄水場9・40く50一林道終点10・  
30く40一高尾11・40く55一尾根広  
場12・35(夏夜) 13・10一白幡岳  
13・40く14・00一小白幡岳14・50  
く15・00一東谷分岐15・30一東谷  
水場の上層台地広場16・00く10一  
東谷林道登山口16・50く17・15  
(タクシー) 上市駅18・00(解散)  
高尾への激しい登りと暑さでリー  
ダーが寝不足もあって熱中症気味。  
高尾からの尾根道は順調に歩いて  
山頂を踏み、展望を楽しんだ。下  
山も急坂が多いので体感を何度も  
とりながら下った。それにしても  
夏夏の白幡岳登山は楽しかった。  
(参加者) 桐原良彦 澤田高治  
宮野哲郎 宮野敏子 君塚修子

中央アルプス北部縦走

川田洋子 岩瀬健司 松尾麗子  
 福岡 章 志水明美 網 徳保  
 井上英子 加藤元彦 小栗太直  
 磯野重治 荒木光雄 林 信男  
 岩村孝子 渡部和美 大和 絃  
 大西節郎 村井寿和 岡島一充  
 森田久子 小谷和子 伊東ナナ子  
 松本勝子 永富律子 松尾一郎  
 三野 旭 細野欽也 高岡富美子  
 大森博行 ○安倉正勝 (計35名)  
 ◎村田智俊

須谷川(鈴鹿を歩く220)  
 7月24日(日) くもり  
 (集合) 紅葉尾崎橋広場8・30  
 1須谷川8・50 岩の洞門10・45  
 (昼食) 11・30 源流登山道13・  
 10 鏡子ヶ口往復14・10 神崎橋  
 広場16・10(解散)  
 ヒグラシの大会唱のなか、深山  
 溪谷の滝・ナメ池・トロとたわむ  
 れた。岩の洞は真っ暗でシャワー  
 の中を登って昼食。食後焚火で暖  
 をとる。源流の水溜りにカワネズ  
 ミを発見、皆さし初めてで大騒ぎ  
 となった。  
 (参加者) 榎田勝利 奥野太一郎  
 井口俊介 一芝義雄 一芝美知子  
 武村千鶴 池田隆一 水戸鉄治  
 小林 修 ○後藤康幸

◎岩野 明 (計11名)

京都西山  
 松尾山(北山ちよと歩き69)  
 7月27日(日) 晴れ  
 (集合) 阪急松尾駅9・00 15  
 松尾山三ノ角10・15 嵐山線跡10・  
 55 十ヶ割紙分岐11・40 北松尾  
 山分岐先の尾根広場12・00(昼食)  
 13・20 松尾谷林道 西芳寺14・  
 35 松尾橋15・15(解散)  
 本日の里山歩きは大変暑かった  
 が、昼食時は涼しかった。松尾橋  
 下でのリュックさきは盛り上がり  
 した。  
 (参加者) 伊藤正延 塚本忠次  
 小林 桂 金谷 昭 中嶋日出男  
 小田潤子 山岸勝雄 宮路ちへ子  
 宮崎紀正 矢野 稔 松尾麗子  
 中村英雄 本間 隆 本間賢子  
 横江 進 青木 保 佐田次男  
 川上久堅 白村一 石原君子  
 星野正弘 中野紀子 谷 守  
 児島愛子 林 弘毅 加納由紀子  
 神野孝允 林 久美子  
 ◎真山繁三 (計29名)

伯耆・大山三結峰  
 (ファミリーハイイク63)  
 馬籠中房 西居俊孝 中嶋日出男  
 加藤元彦 福井清之 渡辺寿美江  
 後藤康幸 富田雅也 野里マン代  
 神 伸 後藤純子 前田初雄  
 本間 隆 金谷 昭 村井寿和  
 松本勝子 小林 修 野末あや子  
 藤井孝子 福岡 章 高岡富美子  
 ○松見 昭 ◎桑 康夫(計25名)

7月27日(日) 晴れ

(集合) JR新大阪駅7・00(ハ  
 神山神社)15 20 十ヶ割紙跡11・  
 55 12・00 中宝珠越12・30 35  
 1 宝珠越13・20(昼食) 13・55  
 1 大山三結峰14・25 35 ユート  
 ビア遊覧小屋15・00 05 1 宝珠  
 越15・25 30 1 元谷遊覧前16・  
 00 10 1 大神山神社16・35 45  
 1 大山寺駐車場17・05 25(バス)  
 新大阪駅21・30(解散)  
 夏道登山道の喧騒を避けて静か  
 なブナ林の宝珠尾根をたどる。ア  
 ルペン気分が湧き上がる大山北壁  
 と三結峰を眺め、大山稜線に届く  
 とユートピアのまわりは一面のお  
 花畑。九重草や下野草など高嶺の  
 花の群落に疲れも吹き飛んだ。  
 (参加者) 若林文夫 久保田玲子  
 東中次夫 北本 泰 山中あさみ  
 山根弘美 渡部和美 吉藤孝次  
 平田輝美 中川光郎 砂原重美子  
 小栗太直 木村 豊 山本千鶴子  
 松井明忠 志水明美 野末あや子  
 村上嘉子 市野博文 中澤ちづ子  
 堅田 弘 岩本彰子 河本美千子  
 西條良彦 細野欽也 ○秋葉正人  
 ◎木村太郎 (計27名)

北アルプス・朝日岳  
 (花巡り山行20)  
 8月2日(火)夜 5日(金)  
 前後発泊3泊  
 <2日> JR夜行急行「きたぐに」  
 各自乗車  
 <3日> くもり(集合) JR泊  
 駅5・10(タクシー) 北支6・05  
 (朝食) 6・40 1 五合目9・20  
 50 1 イブリ山11・40(昼食) 12・  
 45 夕日ヶ原14・00 30 朝日小  
 屋15・00(泊)  
 <4日> くもりのち晴れ 小原6・  
 05 朝日岳7・25 50 千代の吹  
 上8・40 50 青サク10・50 11・  
 05 1 花園三角点前11・40(昼食)  
 12・35 1 白高地沢13・45 55 1 瀬  
 戸川鉄橋14・55 15 1 兵馬の  
 平15・55 16 05 1 峠山道分岐16・  
 30 1 蓮華温泉ロッジ16・50(泊)  
 <5日> 晴れ 5・30(朝食) 6・  
 00(露天風呂入り) 9・00(ロッ  
 ジ内で休憩) 蓮華温泉10・15(タ  
 クシ) 糸魚川駅11・15(昼食)  
 12・45(解散)  
 お目当てのキウワソウ・オオ  
 サクラソウに出会えるなど高山植  
 物の数々に目いっぱい北アルプス

湖北・伊吹山(花巡り山行19)

7月30日(日) ◎田中 明  
 \*雨天のため中止しました。  
 北アルプス・乗鞍連峰  
 (自然観察山行184)  
 7月30日(出) 31日(日) 1泊2日  
 <30日> くもり時々晴れ(集合)  
 JR岐阜駅9・15(バス) 位ヶ原  
 山荘前13・40(昼食) 14・00 1位  
 ヶ原 1 前ノ小屋15・40 1 登車16・  
 30(泊)  
 <31日> 晴れのちくもり 登車6・  
 40 1 前ノ小屋7・10 20 1 剣ヶ峰  
 8・10 20 1 中洞権現9・30 55  
 1 森林限界付近10・30(昼食) 10・  
 50 1 林道鉄橋12・30 45 1 アイミッ  
 クスキャンプ場13・40 50(バス)  
 リフレイン谷川15・15(入谷) 15・  
 45(バス) 岐阜駅19・35(解散)  
 天気予報が曇り、雨にたかれ  
 ての稜道を覚悟して、雨にたかれ  
 とも青空を仰ぐことができた。野  
 妻の森尾根に続き、中洞権現ノ尾  
 根を歩き、奥深い乗鞍連峰を味わ  
 った。  
 (参加者) 池田繁美 市井ユリエ  
 伊藤 直 伊藤和代 荻野美紀恵  
 岡本佳子 吉藤孝次 小嶋由利子  
 木村光江 小林 桂 武部美美子

山田明男 (計17名)  
 最北端の夏山を楽しんだ。山行に  
 最期の参加人員で足も揃い、他の  
 登山者にも迷惑がけることもなかつ  
 た。\*歩行タイムはお花の撮影が  
 主体となり、まったくのデジカメ  
 (他) 隊のために通常歩行の参考  
 にはならない。  
 (参加者) 堀江房彦 森本淳子  
 高松雅子 田中善雄 原 幸子  
 下村修子 堀田輝子 光川一英子  
 ◎田中 明 (計9名)  
 沢下り山行  
 神崎川溪谷に遊ぶ(鈴鹿連山11)  
 8月6日(出) ◎筒井克治  
 \*リーダーの都合で中止しました。  
 湖北・伊吹山夜間登山  
 8月6日(出)夜 7日(日)  
 前後発泊2泊  
 <6日> 晴れ(集合) JR近江  
 長岡駅22・10 20(バス) 上野登  
 山口22・35 45 1 ゴンドラのりば  
 22・50(ゴンドラ) 三合目23・10  
 30 1 五合目23・50 0 0  
 <7日> 晴れ 五合目0・00 1 八  
 合目0・45 1 1 00 1 伊吹山1  
 30(飯取) 朝食 5・30 1 お花畑  
 東コース 伊吹山下駐車場6・20  
 30 1 お花畑コース 伊吹山7・

竹内正子 夏山登り 武藤由美子  
 堀田輝子 森 昌野 ○三井敏一  
 ◎鷲見守康 (計18名)

八瀬の滝めぐり (比良を歩く42)  
 7月31日(日) くもり一時小雨  
 (集合) JR近江高島駅8・30 35  
 (バス) ガリバー旅行村9・15  
 1 魚止の滝10・00 1 大瀬10・25  
 30 1 首船の滝10・50 11 05 1  
 七瀬越しの滝入口11・20 1 オガサ  
 カ道分岐周辺11・40(昼食) 12・  
 15 1 ゲレンデ上12・45 1 比良ロッ  
 ジ12・50 13 00 1 シンジ谷次郎  
 坊宮14・00 1 シンジの滝14・25 1  
 40 1 シカカ坂登山道出合14・45 1  
 旧リフト山麓駅15・00 1 イン谷口  
 15・08 15(解散) JR比良駅15・

若千のスリル混じりの涼感を味  
 わいながら、無事八瀬の滝群を通  
 過し、オガサカ道分岐の河原で昼  
 食をとった。シンジ谷ルートは相  
 変わらず荒れている。時間に余裕  
 があったので「シンジの滝」を探  
 勝することにした。滝ノボ近くま  
 が降りて浴びた飛沫混じりの涼風  
 が頭の芯まで冷やしてくれた。  
 (参加者) 松尾麗子 佐々木勝子

馬籠中房 西居俊孝 中嶋日出男  
 加藤元彦 福井清之 渡辺寿美江  
 後藤康幸 富田雅也 野里マン代  
 神 伸 後藤純子 前田初雄  
 本間 隆 金谷 昭 村井寿和  
 松本勝子 小林 修 野末あや子  
 藤井孝子 福岡 章 高岡富美子  
 ○松見 昭 ◎桑 康夫(計25名)

木曾・御嶽山(展望の山?)  
 7月31日(日) くもりのち雨  
 (集合) JR勝川駅6・40(車)  
 御嶽ロープウェイ飯森駅9・30 30  
 57 1 八合目10・55 1 三の池12・15  
 1 摩利支天分岐13・10 1 二の池小  
 屋13・45 1 山頂14・15 25 1 八合  
 目15・30 1 飯森駅16・10 1 鹿の瀬  
 駅16・30 17 00(車) 勝川駅21・  
 30(解散)  
 三の池までに遅れた人は食事後  
 戻り、11名が山頂に立ったが、雷  
 雨に追われて下山した。花は思っ  
 たより少なく、時間も無くコマカ  
 サは見に行けなかった。  
 (参加者) 朝倉松雄 成瀬みちこ  
 成瀬市市 春見重美 伊藤重美子  
 丹羽千孝 吉田輝子 後藤久美子  
 久米孝子 馬場佳子 中谷美美子  
 渡部ソノエ 江川ふじこ

若千のスリル混じりの涼感を味  
 わいながら、無事八瀬の滝群を通  
 過し、オガサカ道分岐の河原で昼  
 食をとった。シンジ谷ルートは相  
 変わらず荒れている。時間に余裕  
 があったので「シンジの滝」を探  
 勝することにした。滝ノボ近くま  
 が降りて浴びた飛沫混じりの涼風  
 が頭の芯まで冷やしてくれた。  
 (参加者) 松尾麗子 佐々木勝子

00〜10五合目8・30(解散) 三合目9・00(入浴・短毛自由)

伊吹町の催して三合目は多くのテントとイベントで夜中まで音楽で騒然とし、追われるように山頂を目指した。涼しくて早く山頂に到着したが、小屋はいっぱい。寒さの中で夜明けを待たないで、ちよつと日の出時にガスがかかり御来光は見えなかった。満開のお花畑を一巡し、予定より早くくだった。

- (参加者) 佐野信江 久保田玲子 栗橋崇吉 小栗大直 河本美子 志水明美 森昌好 武藤由美子 武藤 梓 山原勝雄 河原美代子 井上恭子 松見 昭 六戸嘉久江 西田一夫 春名孝子 中嶋日出男 岡崎知子 蓮井洋子 印藤いつ子 塚本忠次 秋枝秀實 石田世志子 井上直子 西條良彦 野里マツ代 田島博子 前田初雄 中井ひろみ 妹尾正 稲田節子 林 信男 山根邦枝 塩尻香織 小谷柳子 多賀久子 奥村久子 武田元可 武田和巳 児島孝子 山盛加奈子 上田正子 角田一江 荻野美紀恵 西 悦子 ○安倉正勝

神崎川源頭から取水口まで

8月7日(明) 晴れ

(集合) 神崎橋広場7・20(車) 武平峠谷広場8・30(沢谷源頭 9・30)コクイ谷分岐9・50(タテ谷出合12・00(昼食) 12・40(大トロ13・30)天狗滝14・35(取水口17・35)林道17・50(解散) 源流の水は冷めたく生き返った。大瀬・下の大瀬・七ヶ淵はエメラルドグリーンで最高。天狗滝は人でいっぱい。左岸の滝横のバンドからドボンと夏の思い出をつくった。最後のS字のゴルジュも圧巻だった。

- (参加者) 高屋秀彦 栗本敏夫 吉村 昭 武村千鶴 奥野太郎 井口俊介 榎田勝利 一芝義雄 三上伸夫 ○山田景三

金剛・金剛山妙見谷 (ファミリーハイク6)

30(郵便休憩地13・55)14・05

合いながら、冷風を求めて妙見谷に登る。妙見滝では飛沫に濡れたイワタバコが群生していた。去年整備された園芸城跡東山の木立のなかで昼食。郵便道をくだり、かまきみの湯バス停で解散し、温泉の人と直帰する人に分かれた。

- (参加者) 本間昭恵 中澤ちず子 吉核孝次 市野博文 山中あさみ 松田 久 塚本忠次 成川みさお 村上嘉子 渡部和美 佐々木輝子 藤本桂吉 岩本彩子 藤原くに代 永高洋子 吉野栄子 林 久美子 福井清之 竹田善英 ○川上久登 ○木村太郎 (計21名)

南アルプス・聖岳 (自然観察山行185)

7・25(西谷)8・05(若草)12・15(昼食)12・40(アザミ)14・10(20)聖草小原14・40(畑)

10(アザミ)畑6・40(50)小聖岳7・40(50)聖岳8・50(9・00)奥聖岳9・25(昼食)10・50(聖岳)11・50(12・10)小聖岳12・40(50)アザミ畑13・25(35)聖平小屋14・00(畑)

- (参加者) 吉核孝次 金谷 昭 木戸五郎 藤本桂吉 磯部 純 成瀬忠市 山田妙子 ○高屋秀彦 ○山田明男 (計9名)

青生の森・三回峠 (花巡り山行2)

栗橋崇吉 栗橋君子 中澤賢司 多賀周二 多賀久子 林 えい子 平田輝美 牧 和夫 若松朝子 ○長尾一合 ○鷲見守康(計16名)

北アルプス

8月12日(昨夜)16日(夙) 高天原温泉と雲ノ平 前夜発3泊4日 (12日(集合) J R京都駅八条口22・30(雨)のちくもり(車)折立6・30(現地集合) 8・00(三角点上部ベンチ10・00(昼食) 10・40(太郎平小屋13・30(畑) (14日(くもり) 太郎平小屋5・50(薬師沢小屋8・50)9・15(アラスカ庭園11・00(昼食) 11・30(雲ノ平山荘12・30)13・00(高天原峠14・15)30(高天原山荘15・30(入浴・泊) (15日(雨) 高天原山荘6・00(水島池7・00(岩若乗越9・10(20)根代岳10・10(雲ノ平山荘11・30(昼食・停泊) 14・10(薬師沢小屋17・00(畑) (16日(晴れ) 薬師沢小屋6・10(太郎平小屋8・50)9・20(1938付近ベンチ10・30(昼食) 11・00(折立12・30)50(現地解

散(車) 兎谷温泉(白樺ハイツ) 13・30(入浴) 14・40(車) 京都駅20・15(解散)

大東新道が閉鎖されて通行困難なので、雲ノ平峠由で高天原温泉に高かった。乳白色の高天原温泉は最高だった。15日は本格的な雨になり、岩若乗越へ突き上げて祖父岳へ歩いたが、お花畑はこのコースが一番すばらしかった。黒部川が増水のため、雲ノ平山荘で2時間足止めをくらった。小降りになったので強引にくだったが、ちよつと到着時は減水していて渡渉できた。最終日に晴天となり、北アルプス中央の山々を展望しながらの下山となった。

(参加者) 小松志信 伊東ナナ子 岩村春子 田中善雄 加納由紀子 使谷礼詞 沖 伸 武部美美子 宮本真幸 山崎義治 山多恵子 岩田青二 中山節子 中井ひろみ 須藤浩子 三上伸夫 佐古田文子 宮野節郎 宮野祐子 山盛加奈子 内田康夫 森本 勝 森本淳子 大森康行 大西幹郎 中川光郎 田中 明 兼田幸子 ○安倉正勝 ○真比裕美 ○村田智俊(計20名)

阿弥陀峰(鈴鹿百山3) 8月16日(夙) 晴れ (集合) J R 鶴ヶ井駅8・25(谷山浄水場東登山口8・45)大ケヤキ11・00(阿弥陀峰11・15)灯明前11・30(昼食)12・08(林道)13・20(登山口13・30)醒ヶ井駅13・50(解散) ヤマビルが多いのは皆さんおかりで参加者は少なく、それでも半分は咬まれた。期待したナンエビネは水不足で半分枯れていてきれいな花はなかった。

(参加者) 吉核孝次 金谷 昭 木戸五郎 藤本桂吉 磯部 純 成瀬忠市 山田妙子 ○高屋秀彦 ○山田明男 (計9名)

仙書谷・赤坂谷

(鈴鹿を歩く222)

8月21日(日) くらり一時雨  
(集合) 紅葉尾根取付広場8・30  
(車) 神崎川林道広場8・50 | 仙書谷入口9・00 | 赤坂谷分岐11・00 | 赤坂谷大ナメ池11・30 (集合) 12・00 | 仙道12・50 (同日昼食) 13・30 | 神崎川本流15・10 | 広場15・20 (解散)

降雨が心配されたが集合地は晴天。スタートすると雲ゆきが怪しくなってきた。赤坂谷の交差点は大ナメ池と上流の美しい二次林を歩いた。

(参加者) 筒井克治 奥野太一郎 高原芳彦 一芝義雄 一芝美知子 井口俊介 柳 敏弘 小林 修 水戸鉄治 谷 守 武村千鶴 三上伸夫 ○後藤康幸  
○山田登三 ○岩野 明 (計19名)

六甲

黒岩尾根・摩耶山から長峰山

8月23日(火) 雨のちくもり  
(集合) 新幹線新神戸駅9・00

新ハイキングクラブ関西  
入会の案内

当会は雑誌「新ハイキング関西の山」(隔月刊・年6号発行)の定期購読者を中心としたハイキングの集いです。

この雑誌は紀行文やコースガイドなどで、関西のハイキングコースや山の情報を発信しています。山の知識を深め、健康な身体づくり、自然のなかを歩く喜びをとにも広めましょう。

「新ハイキングクラブ」は昭和25年発足以来、東京を中心に55年間余、好評のうちに活動しています。関西は平成3年秋発足で15年目に入りますが、すでに多数の会員で活動しています。

会員は当会の山行例会に優先して参加できます。この山行例会を通じて楽しい山歩きを、多くの仲間たちと味わいませんか。  
リーダー(係)はすべて無償の奉仕で、各自で切符を買い茶代を払い、宿泊料もすべてワリカンです。

会員には「新ハイキング関西の山」を毎月お届けします。  
四季の自然に触れながら山を歩

15 | 早晴寺9・30 | 40 | 修善寺10・10 | 20 | 黒岩尾根取付10・35 | 摩耶山12・35 (昼食) 13・20 | 仙書谷14・10 | 15 | 長峰山14・50 | 15・05 | 阪急六甲駅16・25 (解散)

「朝れ」の予報が夜中に急変して大雨になった。出発時に大雨の所もあり、集合に混乱が生じて7名の不参加が出た。幸いに雨は小降りになったので出発する。前半は蒸し暑さに体力を消耗したが、途中で雨も上がり、後半は尾根道から神戸の町並や淡路島までの景色を楽しみながらの山行であった。

(参加者) 崎山悦子 船越利明 木下朝子 植木敏子 森 つる子 関口恵子 沖 伸 中嶋日出男 柳川常雄 須藤尚子 後藤純子 山縣勝美 川岸勝雄 川上久堅 村井芳和 光川佛史 光川二美子 青木一雄 宮野純子 ○小松志信 ○加納由紀子 ○田中英雄 ○仲谷礼司 (計23名)

南紀・百間山深谷

(ファミリアハイク65)

8月24日(水) ◎木村太郎  
\*雨天のため中止しました。

き、若々しい心と健康をいつまでも持続するのはすばらしいことです。これから始めてみたい人、すでにベテランの人もみなさんご入会いただけます。

入会金 500円 (ワッペン共年会費 3000円 (送料共))  
入会の申し込み(随時)はこの雑誌に挿入の振替用紙をご利用ください。氏名(ふりがな)及び第何号からの送本かを忘れずにご記入ください。

なお、定期購読をご希望される方も会員になっていただきます。毎号確実にお手元に届きますので便利です。  
切手500円分をお送りになれば、「新ハイキング関西の山」最新号を1冊送ります。

○山行リーダー募集

リーダーは2ヶ月に1回「関西の山行例会」を計画・実施していただきます。

無償の奉仕ですが、やりがいもあり、楽しいものです。経験のある方や、やってみたいと思われる方は、新ハイキング関西までご連絡ください。マニュアル(リーダー必携)をご参考に送ります。

佐々里峰から品谷山・廣村八丁  
(京都北山歩き115)

8月28日(日) 晴れ時々くもり

(集合) JR京都駅8・00 (バス) 佐々里峰10・05 | 15 | タンノ峠分岐12・00 | 品谷峠12・15 | 廣村八丁12・45 | 13・00 | ソトバ峠13・30 | 40 | P8 4 9 衣懸峠分岐14・10 | 尾根トンネル14・50 | 15・00 | 菅原15・50 | 16・00 (バス) 京都駅18・00 (解散)

北山らしい樹林の品谷山を快調に歩いた。廣村八丁の谷筋はヒルが多いのでオリ登下降をやめ、ソトバ峠から尾根道を伝ってタンノ峠に出て菅原へ下山した。涼しい初秋の風が吹いていた。

(参加者) 佐野信江 沖 伸 多賀久子 和田純子 繁田広美 栗橋善吉 栗橋君子 河原美代子 森本 勝 森本淳子 佐々木輝子 中川光郎 山高義治 山高多恵子 馬籠重男 宮野哲郎 宮野純子 市野博文 松尾麗子 濱本美和恵 福原 章 川戸せつ 久保田玲子 和田直樹 磯野重治 武部美美子 前田初雄 井上恵子 中嶋日出男 岡崎知子 松見 昭 山本久雄 中谷繁子 川田洋子 ○安倉正勝

◎村田智俊

(計36名)

鈴鹿

松尾川口クロ谷から鎌ヶ岳  
8月30日(火) くらりのち雨

(集合) 近鉄植根が丘駅9・00 (車) 鈴鹿スカイライン稲ヶ谷出口10・15 | 40 | ニゴリ谷出口11・10 | ロクロ谷ゴルジュ入口12・15 (昼食) 13・10 | 稜線14・20 | 岳峠15・05 | ニゴリ谷 | 駐車場16・40 (解散・車) 名張駅18・10

前日の予想では、雨は午後遅くからということなので実施したが、昼ごろからシトシト降り始めた。谷は滑りやすく、ロクロ谷の5分滝はロープをフィックスして越える。鎌ヶ岳に出ると、濡れたササの葉で全身濡れ風。雨でモチベーションが下がったので、鎌ヶ岳上には行かず土砂降り夕方のように暗くなったニゴリ谷をくだった。おみやげは、我らの血でまるまる太ったヒル多数だった。

(参加者) 大村俊子 松村雅子 池田繁美 竹田勝美 筒井克治 ○岡平くみ子 ○田中賢治 (計7名)

7・8月の参加 延610名

○新入会員(定期購読者)紹介

新しいお仲間をみなさんです。会員登録番号5113番から5125番まで(敬称略)

- 【愛知】 小林一世 印藤いつ子
- 【岐阜】 稲垣豊彦
- 【三重】 片岡昌子
- 【滋賀】 澤崎 貴 飯田正勝
- 【京都】 大内明子 澤美知子
- 【奈良】 北 紀英 高川優子
- 【兵庫】 山本勇造 山田尚子 松田幸子 (13名)

訂正とお詫び

84号(初秋) グラビア7ページ下の写真説明「早朝の赤松山……」は「早朝の鎌ヶ岳……」が正しい。

84号(初秋) 37ページ中段の最終行「交尾の真ん中」は「交尾の真つ最中」が正しい。同ページ付近地図上、1182mの▲「鈴ヶ岳」は「鈴北岳」が正しい。

84号(初秋) 38ページの表題の中の「鳥越(うごえ)峰」は「鳥越(とりごえ)峰」が正しい。(編集室)

**新ハイキング社**  
 (東京本社) 〒114-0023 東京都北区滝野川7-5-5 高橋ビル301  
 TEL・FAX 03-3915-8110 (編集室) TEL 03-3915-8852  
 「新ハイキング」(月刊)・新ハイキング選書  
 (関西分社) 〒610-0121 京都府城陽市寺田大群10-10  
 TEL・FAX 0774-53-2754  
 「新ハイキング 別冊 関西の山」(隔月刊)

「新ハイキング」ホームページ  
 インターネットで「新ハイキング」の全てがご覧になれます。  
<http://shinHai.net/>

書店でお求めになりたい方へ  
前もって番号ほしいと「購読予約」をされたいと、この書店でもお買います。この書店。「関西の山」は毎月20日頃(隔月刊)の発売。